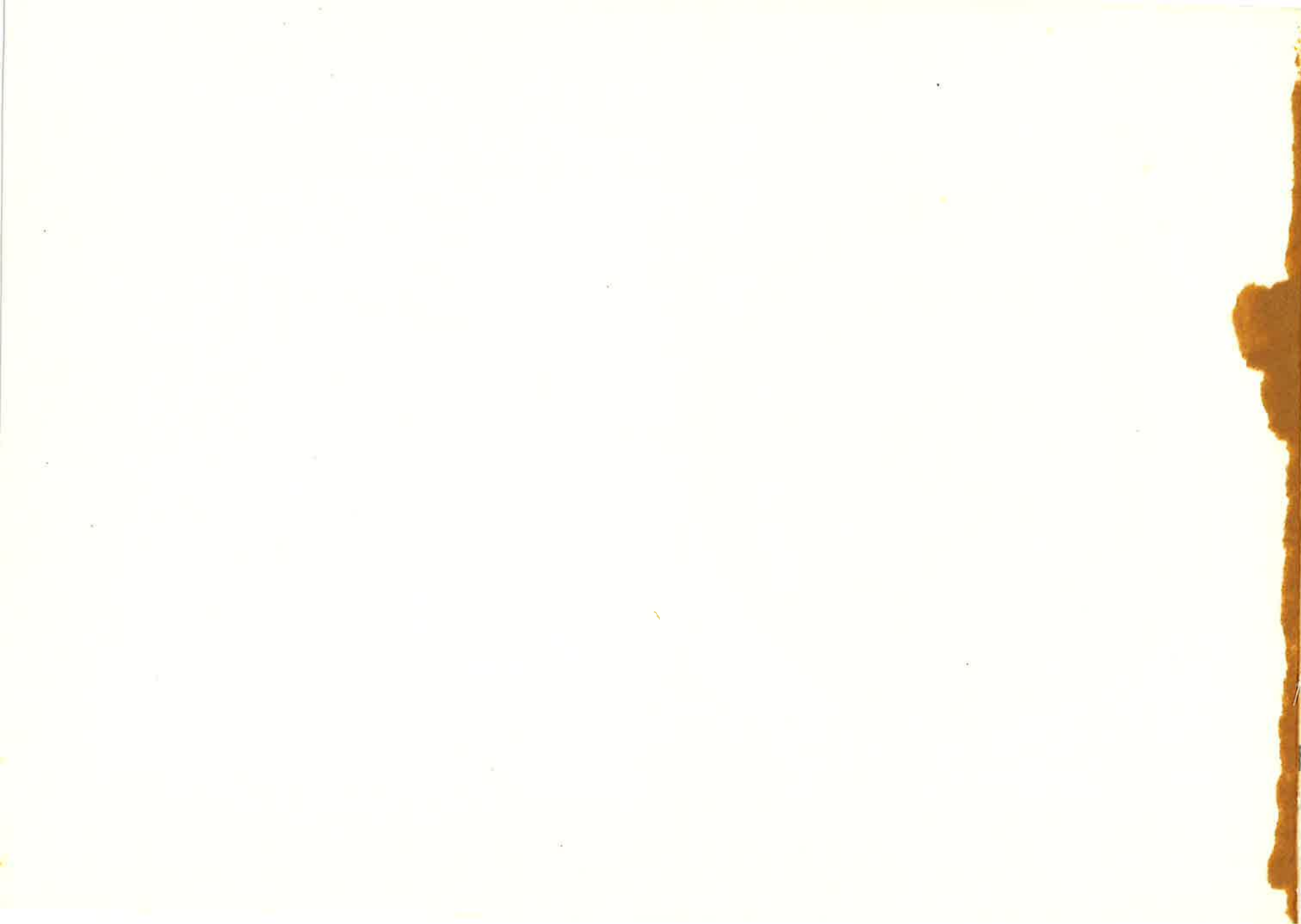


長崎教区における
信徒使徒職30年の歩み

井上康宏



概観目次

信徒使徒職30年の歩み

復興時代	5
協議会時代	7
評議会時代	10

— 概 観 —

● 復興時代

昭和23年。敗戦の虚脱からようやく醒めて、荒廃した地に復興の歎をうちおろし始めた年である。

長崎の教会にとっても、長い暗黒の時代に曙の光がさし、信仰の真の自由を実感させた年でもあった。3月に聖ビンセンシオ・ア・ポーロ会（S・V・P）設立準備会が大浦教会で開かれ、4月にはカトリック教報が復刊された。昭和3年11月に邦人司教区の機関紙として創刊されていたのに、政府の出版物統制で昭和15年10月第287号で廃刊になっていたのである。

6月、バーン師の指導によって浦上教会にレジオ・マリエ（L・M）「天主と人類の母」プレシディウムが生まれた。

押さえつけられていた信仰の力が、いちどに堰を切って流れだしたとか、自由の日射しをうけて一斉に芽生えた兄弟愛のあたたかい手がさしのべられはじめた。

すでに戦前から浦上教会に設立され活動していたS・V・Pは、この年までに大村教会でも発足し、さらに山口司教とフリン師、プルダン師の指導で7協議会が生まれ、教区特別理事会を組織して、会長深堀福市、副会長深堀保郎らを任命し、無料治療や困窮者救済にのり出した。

S・V・Pは復興時代の花であった。江戸幕府初期の迫害時代に活躍したミゼリコルジアの組のように身を挺して困窮者の家を建て、生活を助け、老人を訪問し、病者を見舞い、新戸町引揚者更生寮の救護に活躍した。各小教区にS・V・Pが設立され会員も増え、昭和28年2月総会で、バリ総理事会の正式承認書が伝達されたとき、46協議会に成長していた。

レジオ・マリエも昭和27年（マリアの年）にプレシディウムが急増し、

自己の成聖をはかりながら隣人への愛の実践に活動し、教会を離れていた多くの兄弟を呼び戻した。

浦上、三浦町、平戸、伊王島、飽の浦、純心女子学園、それに五島青砂ヶ浦など9のプレシディウムが生まれ、昭和32年8月のクリアの報告によると、成人プレシディウム12、未成年4、会員数149名になった。

これらC・A団体にならんで、復興時代に特に注目をあびたのは、カトリック教育者連盟であった。

昭和22年1月大村市にあった純心女子学園で30名の信者教師が、「カトリック教育の理念に徹し、教育者としての本務にまい進、人間完成の事業に聖霊の助手たるの付託に応えるべく研究と修養に励む」ことを目的として発会し、毎年、研究大会を開催することを決めた。

昭和23年6月に長崎地区大会を浦上公民館で開いたときには、里脇指導司祭をはじめ60余名が参集し、時の教育上の諸問題つまり「男女共学一年の実情報告」「教員スト問題と組合問題について」「教科書に現われたガリレオ問題のびょう見の指摘」がとり上げられ、8月五島地区大会では「社会科教材のカトリック的取扱い」や「新教育制度の検討」が討議された。

時の教育問題に敏感に反応し、研修し、また会員相互の靈性を高め、親睦をはかるために、26年6月からC・B会を毎月一回開くことにした。これはコムニオン・ブレクファストつまり聖体拝領と朝食をとましながら語り、学ぶ会である。

教育者連盟が公立、私立の小・中・高校の信者教師を組織し、相互研修に励んでいるとき、連合青年会が若い力を結集しはじめていた。

長崎カトリック連合青年会は、すでに昭和21年発足し、長崎市内各教会の青年姉妹の組織化に努めていた。ようやく23年10月に第一回弁論大

会を催したとき6教会が参加した。11月浦上、大浦、中町、木鉢の青年会委員15名が中町教会で委員会を開き、連合青年会の組織の強化をはかる一方で、教区連合の気運を醸成することを決めたのに呼応するように、北松地区連合青年会が平戸教会で結成式を行なった。やや遅れて、翌24年7月上五島地区、8月下五島地区の連合青年会が結成された。

連合青年会の主たる活動は、24年3月長崎連合青年会の常任委員会決議にみることができる。①青年大会の開催。②教義および社会問題の研究。③リーダー錬成会または修養会を開く。④スポーツ大会の開催。⑤カトリック知名氏を招いて講演会を開く。⑥春秋二回弁論大会を開く。⑦S・V・Pに協力して貧困者の救済につとめる。⑧巡回聖体拝領の習慣を助成する等である。

ややハード・スケジュールと思えるこれらの行事をとおして青年会は凝集性を高め、28年8月教区統計によれば、青年会3772名、姉妹会2934名を組織した。

若い力の組織に、高校生と大学生による学連がある。同好会的な活動を続けながら全国組織との連繫をたもっていた長崎カトリック学生連盟が、会員23名で発会式を大浦天主堂で行なったのは24年3月であった。指導司祭浜口庄八師と会長本島等の尽力によるところが大であった。

発会式でうちだした基本方針によれば、①各学校別グループの確立。②カトリック思想研究会に学友を導く。③書物・パンフレットによる布教。④機関誌「ロザリオ」と「ほのお」の発行。⑤講演会、黙想会の開催。⑥会員相互の友情を深めカトリック的雰囲気をつくるとしている。

25年10月上智大学ジュモリン師を、翌26年10月南山大学ゲマインダ師を招いて講演会を催し、毎夏、錬成会を行ない、12月総会で役員改選と新年度の行事企画をたてた。カト学連メンバーとして養成されては3～

4年で卒業していく代謝のはげしさと、年を追って難くなる大学入試問題に悩まされながら全国大会には代表を10数名おくり、委員長も杉山一伊崎一林田一芹沢一東と交代し活動を続けていった。

こんな中で、カトリック学生奉仕会も生まれ、組織とは離れ比較的自由的な、任意な奉仕活動をした。

この時期にJOC（カトリック青年労働者組合）が芽生えはじめている。27年に浦上教会（5名）と三菱電機（6名）にJOC組会が生まれ、翌28年8月東京での全国研究会に中島万利師と吉野保が出席した。その後、31年に稲佐、32年伊王島にJOC組会が発足したが数少ないメンバーは研究と錬成に励み、自らを闘士に養成していき、つぎの使徒職協議会時代に飛躍した。

これら組織的な活動とは別に、教会や小さいグループの活動を忘れることができないし、北松地区や五島での連合顧問会の指導と支援なしに小教区の復興と発展を考えることができない。また、永井隆博士や久賀島の産婆畑田ワサの模範に感謝すべきであろう。

小さいグループの活動では北松加勢炭坑の「教友会」がある。島田仙之助の指導で、炭坑従業員仲間の信頼を得て兄弟的睦みの共同体を羨やませ、組合の刷新にすすんだ。26年「教友会」20周年を迎えている。

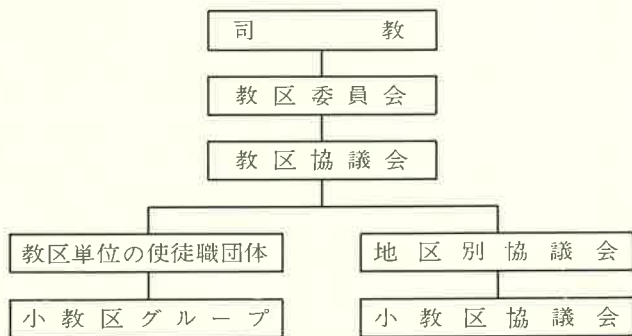
教会活動では植松教会のCA会と黒崎教会の相互扶助箱設置があり、婦人会結成の気運のもり上がりがあった。植松CA会は特に使徒的使命に燃えていたし、他の教会の範ともなっていた。

こうして教会は第二バチカン公会議を迎え使徒職協議会時代に入っていたのである。

●協議会時代

昭和32年10月20日、教区信徒使徒職第一回大会が袋町カトリック・センターで開かれ、山口司教はじめ司祭70名、修道者60名、神学生50名、信徒670名が参集し、浜口庄八師が「使徒職について」講演、松尾久吉を議長に「長崎の現状と信者の使徒的使命」をテーマに討議した。

また、教区信徒使徒職委員会を発足させ、総指導司祭古川重吉師、補佐深堀栄市師が任せられ、組織を検討し承認された。



この大会で山口司教は、教区における教階制度の権威たる資格をもって、J・O・C、カト学連、S・V・P理事会、L・M長崎クリアに、教会の使徒職に参与する任務を、あらためて公式に委託され、各会を代表してカト学連委員長宮川幸三が宣誓書を読みあげ、協議会時代の幕を開けた。

翌33年4月、教区協議会結成集会在が開かれ、会長片岡弥吉、副会長本

山初見、杉山末吉、会計森山一男、書記井手利雄、吉野保を選任し、規約に則って今年度の活動方針を決めた。

①事務局を西中町教会に置く。②総会を春秋二回開く。③会報「ウニオ」を年4回発行する。④教区大会を年一回催す。⑤活動目標を「カトリック家庭の聖化」とすることとなった。

地区別協議会も、いそぎ結成され32年12月長崎地区（会長本山初見）、翌33年2月北松地区（会長梅木藤吉）、佐世保地区（会長杉山末吉）、4月中五島地区（会長竹内清四郎）、7月上五島地区（会長戸村村市）が組織され、それぞれの地区共通の問題の研究、活動一般の計画、調整にあたることになった。35年2月中五島地区協の活動方針をみると、①公教要理のけいこ。②遠洋漁業にでる漁夫の信仰生活。③子供の家庭における躰をとりあげており、北松地区協は家庭人の教育に、重点目標を置いている。

小教区協議会も徐々に主任司祭の指導をえて結成され、一般信徒の使徒職意識の高揚と具体的な活動をめざして小教区大会を開催したが、聞きなれない「信徒使徒職」という語に戸惑い、なかなか理解されず、そのめざす実践を模索する数年が続いた。従って、活動内容もむしろ組織化と教育など対内的な問題に傾き、32年潜龍教会の大会にみるように、①教会を離れている信者の調査と援助対策。②各種団体の結成。③子供の要理勉強の態勢確立とか、33年俵町教会がうち出した信者隣組をつくり親睦と信仰の向上をはかる等々であった。

教区協もこれらをうけて「家庭の聖化」をテーマに第2回大会を33年10月開き、翌年はこれに加えて具体的活動指針をたてて①信者家庭から人の悪口、そしりなどの悪風を追放。②カトリック教報を読むこと。③会合やけいこの出席を促すことにした。

その後のテーマと具体的指針をあげると、活動の流れがある程度つかめると思う。

35年テーマ「家庭の教育」具体的指針「けいこによく出席して相互研修にはげむ」

36年テーマ「未信者の人とより親しくし、社会の中に入り込む運動」

具体的指針「隣人にたいして先ず挨拶を」

37年テーマ「隣人に愛の心を」

38年テーマ「隣人に愛の心を」 推進策として①宗教書を読むこと、

②精鋭の養成をあげた。

39年テーマ「私たちの信仰を社会に生かすよう努めよう」

具体的指針「隣人に愛の手をさしのべよう、イエズスさまがお望みだ」

40年テーマ「信者発見百周年に当り、祖先の信仰にならおう」

指針「使徒的精神をたかめ秘跡と典礼に近づき、近づけよう」

41年テーマと指針は継続。

42年も継続。推進策に、出かせぎ者救援をとりあげた。

43年テーマ「祖先の信仰にならおう」

44年テーマ「祖先の信仰を現代に生かそう」 指針「くらしの中に生きた信仰を」

五年連続して「祖先の信仰」を見直し、現在の信者生活に反省を求め、特に、激しい迫害下に守りぬかれた信仰の遺産を、ほこりをもって正しく子孫に継承させようと呼びかけ、キリシタン史への関心と信心業、祈りの習慣に目を向けさせた。

毎夏開かれる教区大会は、主として長崎市で開かれていたが、41年に協議会長が片岡弥吉から本山初見にバトンタッチされてから、会場をはじめ佐世保市聖和女子学園に移し、参加者も平均 600人程度から地域

信徒を動員して1200人に増えた。42年は大村市民会館で開かれ、市長大村純毅氏も列席した。

大会のテーマは教区協の決定した年度目標に従ったが、移住者対策の急務が話題にのぼり、新しい教会の動きにつれて成人の教育問題がとり上げられ、子供の要理教育も論じられた。

教区協の中で精鋭的存在はC・A団体であった。34年7月教区統計でS・V・P協議会数22、会員 187名。L・M成人プレシディウム10、ジュニア5、会員 142名。JOC男子組5、会員71名、女子組5、会員30名と発表された。

この統計には表われていないが、勤労者連盟が活発な動きをはじめていた。

32年11月勤労感謝の日、長崎地区指導司祭鶴田師の召集で長崎地区カトリック労働者大会がセンターで開かれた。職場での使徒職の実践をねらいにしていたが、この大会では信者労働者おのおのの聖化を訴え、職場別グループの結成（三菱電機、造船、製鋼、官公庁、銀行）に努力することを申し合わせ、これは政治的、組合的活動を意味しないことを強調した。

翌33年2月23日、長崎カトリック勤労者連盟成立を宣言し、役員として会長高橋末一、副会長藤屋五郎、森山一男を選任した。そして4月第一回大会をセンターで催した。最初の活動は自己研修が主で、「職場におけるカトリック労働者の使命」を問い、「現今の労働情勢について」座談し、JOCと共催して世界問題研修会を開き、34年7月には労働問題研究会を毎月一回開くことにした。また、映画会で「汚れなき悪戯」や「陽気なドン・カミロ」を上映して、国際文化会館に市民を誘った。メーデーには浦上教会、飽の浦教会で勤労感謝のミサと勤労道具の奉獻

をした。こうした動きの中で、34年5月長崎市議会議員・片山弥三郎、辻本与吉、松岡辰男、相川初一、松尾久吉が「茶種会」を結成し、党派を別に政治とカトリックを考えた。

JOCは協議会時代に入って活発となり、中央から総指導司祭アルチユス師や杉田師、太田総会長らが来崎してもり上げ、33年12月長崎地方連合会が結成された。会員40名、会長吉野保、書記長大串初男が選任された。女子組会も川棚、俵町、大浦に発足し、40年10月JOCF長崎地連を結成、会員60名となり会長山田ヨシ子、副会長浅田瑞代を選任した。

主な活動は、機関紙「新世界」の街頭配布、音楽会や映画会の開催、歳末助け合い募金、災害救援活動、愛の献血のよびかけ等をす一方、錬成会を行なった。また、大村市野岳湖畔で42年9月「働く青年の大集会」を催し、250名が参集した。

これらの活動を経済的にも支援するためJOC後援会が松尾久吉らによってつくられ、42年1月報告によると7教会87名の会員があった。

連合青年会は北松地区を除いて地区協議会に吸収され、小教区青年会が少人数で活動を続けていたが、日本経済の発展につれて県外就職者が増え、郡部の青年会活動が難しくなってきた。佐世保地区協の青年部は39年7月合同研修会を催し、毎年継続されたが、テーマは「カトリック青年の悩み」であった。

長崎市内地区では36年、各教会青年会の幹部合同懇談会をスタートさせ、「青年会のあり方」を研究し、青年会存在の意義を問い、会への参加・出席率の向上について討議し、さらに「青年活動をもっと魅力あるものにするには、どうすればよいか」と突っ込んだ話し合いを行ない、①自由に発言できる会。②具体的な目的。③抽象より実際的な問題の研究。④堅苦しいという先入観の排除、を結論として導きだした。

教区も西坂記念館で青年研修会を40年に開き、若い司祭が講師にたって指導し、41年2月青年連絡協議会にまで前進させ、会長相川友一、副会長水浦幹雄を選任した。

児童の教育と活動も重要な課題であった。36年10月、浦上教会にボーイスカウトが結団され、村上全司隊長以下19名が訓練に入った。翌37年1月、俵町教会にも森君光隊長以下20名が結団した。

数教会で要理勉強の保護者会ができ、司祭と連帯して「けいこ」への出席を見守り、飽の浦教会は要理コンクールを行なった。

38年1月にはミサ侍者の典札研究会が愛宕町教会で行なわれ、長崎市内6教会から63名が参加し、クレチアン師が指導した。

40年3月、信者発見百周年記念祭が全国的な規模で盛大に行なわれた後、8月「子供まつり」を催し、約5千人が参集した。この年の使徒職教区協の大会で、司祭召命の促進が強く求められ、子供まつりに期待が寄せられていたのであった。

この司祭養成への教区の望みは、9月、邦人教区司祭養成後援会「無原罪の聖母会」発足によって具体化された。

家庭における主婦と同じく、小教区における婦人会の活動は、組織以前の多くの問題を処理してきたし、助け手として教会の発展を支えてきたが、学校教育や社会問題が組織活動を求め、また自分自身をも養成する必要から地区連合婦人会が佐世保地区にまず結成され、37年総会を三浦町教会で開いて、未信者の会合に積極的に出席すること、家庭と学校教育を推進することなどの実践を決めた。41年10月には平戸北松地区連合婦人会も結成され、移住信徒対策に、また錬成会に熱心な活動を続けることになった。

協議会時代のこの他の特記事項として、37年7月キリシタン文化研究

会長崎支部の発足と、聖フランシスコ第三会の地味な活動がある。第三会は39年9月、九州地区総会を三浦町教会で開き、毎金曜日ミサに与ること、一日一善の実行を決め、40年3月全国総会には総長ハイゼル師ら340名が参集し、兄弟的な睦みを深めた。

また、カトリック共助会が36年2月俵町教会に発足し、城山教会にも結成されたが、41年4月、上智大学ラフォント師の指導で浦上など6教会から20名が共助組合研修会に参加した。

次の評議会時代に大きな発展をもたらしたクルシリヨ(使徒職練成会)は、41年5月永井学生センターで24名が参加してスタートした。講師は宝塚市御受難会ウォード師と東京教区の三師らによったが、第3回から長崎教区司祭と信徒自身によって行なわれるようになった。女子第1回が行なわれたのは44年5月、恵ヶ丘の黙想の家で27名の参加であった。

(クルシリヨは毎年二回行なわれ、52年4月までに男子21回、599名、女子14回、472名が参加し、使徒職にめざめた信徒として活躍が期待されており、その成果は誰もが認めるところとなりつゝある)。

● 評議会時代

昭和44年2月、山口愛次郎大司教の教区長辞表が受理され、里脇浅次郎司教が長崎大司教に任命され、3月着座式が行なわれた。

その式後の懇談会で、教区組織について司祭・司牧・信徒使徒職の三評議会の構想が語られ、10月の教区司祭研修会で検討された。

翌45年1月、司祭評議会第一回大会が大司教館で開かれ、使徒職教区協も2月の代表者総会で、新組織を考慮して、五地区から副会長を選任することにし、高橋末一、井上康宏、杉山末吉、田中清太郎、山下正実を任命した。さらに7月、使徒職教区代表総会を明治生命ビルで開き、新しく示された「信徒使徒職評議会」規約案を検討し、10月には結成準備委員会、そして翌46年1月17日設立総会を交通会館ホールで開き、代表65名が参集して新規約を承認、役員に会長本山初見、副会長井上康宏、金子松次を選任した。

司牧評議会はやゝ遅れて4月29日、結成総会を明治生命ビルで開き、議長中島万利師、副議長深堀政美師、浜口澄衛を選任し、松永久次郎師が「神の民を結集する」と題して講演した。

新しい使徒職評議会は、はじめの構想では少ないメンバーで構成されることになっていたが、小教区代表の要望で、かつての協議会構成メンバーがそのまま評議員に任ぜられることになったため、その性格が不明確になり、また、司牧の問題と使徒職活動の分野が重なって混乱し、模索しながら討議が続けられた。そのため46年11月第3回総会での野下千太郎師「信徒使徒職の実践」の講演をもとに、翌年4月「使徒職実践のしおり」を発刊し、大司教著「信徒使徒職の原理」を配布して活動の方向を明確に指し示すことにした。

それによると教区評議会は、小教区における使徒職活動をより効果あらしめるため助言、援助、情報の提供をすることを任務としている。そのため他教区の動きや社会情勢などの情報を収集・分析し、また諸問題解決や具体的な対策を研究しなければならず、諸活動の調整もはかり、リーダーを養成し、教区全体の使徒職活動推進に努めなくてはならないとしている。

各種団体と小教区代表の評議員ひとり一人が提案者であり、単なる連絡員・伝達者であってはならず、いわば教区と小教区の使徒職活動のプロモーター（推進者）としての自覚が求められた。

教区評の議題と研修を第2回総会からたどってみると、その推移がわかる。46年4月第2回で、①小教区組織としての「教会評議会」について検討、②国内移住者対策について評議した。

46年11月第3回で、野下師「信徒使徒職の実践」の講演と、井上副会長「教会の集まりーその出席率を高めるにはどうするか」の研究発表。②小教区集会とグループ活動をもち上げるよう強調した。

47年4月第4回で、全国推進会議の報告と①小教区組織について、②移動信徒の諸問題を評議し、③「信徒使徒職実践のしおり」発刊。

47年11月第5回で、松永久次郎師「キリスト者の社会参加」の講演と、川原光次「組織活動の具体的実践」の報告があり討議し、第二期役員に会長本山初見、副会長井上康宏、金子松次を再選した。

48年3月第6回で日本司教団宣言「社会に福音を」の実践と県民運動「明るい社会づくり運動」について評議した。

48年11月第7回は、司牧・使徒職合同評議会で、大司教「現代世界への福音宣教の適用について」の講話をきき、小教区諸問題を部会討議した。

49年3月第8回で、ハトリック師「成人の宗教的再教育」の基調講話

をもとに具体的活動例をだして評議した。

49年11月第9回で、山内清海師「使徒職と成人の再教育」の講演をもとに研究討議し、第三期役員に会長井上康宏、副会長本村保、堤辰一を選任した。

50年4月第10回で、①なしうる具体的実践について評議し、実践を先行させ使徒職を考えるよう強調し、②「守る信仰から顕わす信仰へ」をテーマとした。

50年11月第11回で、①宣教の方法。②成人の政治教育問題。③信徒の共同体意識の高揚について評議した。

51年3月第12回で、ドワイヤー師「日本における宣教について」の講話。「生活による証とともに、ことばによる宣教を」のテーマで分科会討議し具体的実践をはかった。

51年11月第13回で、大司教は教区評を援助機関と位置づけ、果たすべき役割について講話。①ピンセンシオ会的な活動グループの育成、②小地区集会のあり方を中心に評議し、第四期役員に会長井上康宏、副会長本村保、堤辰一を再選した。

52年3月第14回で、「福音に生きる」をテーマにとり、聖書を読む運動を展開することにした。

評議会時代に入ってから特に移動信徒対策が重要な問題となり、47年5月対策事務局がセンターにでき、6月小教区の移動信徒係を集めて研修会を催し、10月対策委員会で「移動信徒のしおり」の作成を検討して、移動前の教育の徹底をはかった。

S・V・Pは、この移動問題にも積極的にとり組みながら愛の実践と世の刷新に励み、教会の精鋭としてレジオ・マリエとともに活躍しているが、現在、正式承認をうけた協議会12、申請中の協議会2、正会員121

名、志願会員ら7名で、や、新会員の募集に悩み問題をかかえている。

クルシリヨが回を重ねて多くの使徒職にめざめた信徒を養成し、小教区活動の推進者になっていった。このクルシリスタがS・V・Pやレジオ会員として活躍するよう期待されている。

青年連協は、リーダー研修会や青年の主張大会、ソフトボール大会を恒例化して結束をかため、歳末助け合い街頭募金の先頭に立ち、また、愛の献血をさげび続けて成果をあげ46年12月知事表彰をうけた。47年8月佐世保市聖和女子学園でカトリック青年ジャンボリーを催し、48年11月には連協十周年記念大会を開いて、国際文化会館で聖劇「岩永おまき姉」を上演し好評をえた。この間、47年2月6日長崎カトリック高校生会が結成され、正式に教区評のメンバーに加わり、毎年、教区大会と課題研究発表会を開いて、自らを使徒職に養成している。

婦人会活動では、北松地区連合婦人会が地道な活動を続けていたが、長崎市内地区でも、49年7月婦人会役員研修会をセンターで催し、49教会から166名が参加。大司教「家庭における子供の教育」下川師「婦人の使徒職活動」川原師「結婚と教会法」の講演をきき、それを機に役員連絡会を設けて連合婦人会結成へとむけた。

第2回研修会が50年7月催され、大司教「家庭における青少年の育成」松永師「現代社会におけるカトリック婦人の役割」の講演に耳を傾けたが、翌51年3月連合婦人会を結成し、会長高巢ミカ、副会長村中昭子、片岡多恵子を選任した。

子供の教育が家庭婦人の重大な関心をよんでいき、対策をせまられていたとき、48年8月、教区評が子供大会を企画し、「わたしたちはみな兄弟」「神さまがあなたを呼んでいる」の標語で、迫害おわって百年記念教区大会を催した。召命促進と共同体意識の高揚をねらいにしていた

ので、その後の各教会の指導もよく、子どもの使徒職グループが育っていった。51年5月に第一回合同集会在神の島教会で開かれたとき、愛宕町子供使徒職会、大浦クリストフォロ会、城山小羊会、中町マリア会、神の島マリア会、西町マリアナ会の6グループ90名が参集し、子供の世界について話合った。

勤労連は、「明日の教会を語る会」を毎月継続して教会の福音化をめざし、49年1月から始まった「大司教さまを囲む懇談会」で活動の方向をさぐり、精鋭の団体をめざして努力している。

使徒職教区評は、これら諸団体の活動に支えられ、里脇大司教の意向をうけて援助機関としての役割りを果たしてきたが、いくつかの課題をかかえている。一つは地区的まとまりの推進であり、平戸北松地区と佐世保地区の協議会をのぞいて、まだ組織的な活動をするまでに到っていないこと、二には評議員各自のプロモーターとしての自覚と問題意識、研修の必要性、三に、援助機関として、イザというとき即座に、いつでも役に立てる動員力、つまり凝集性が高いかという問題である。

教区評が45年6月に創刊した「使徒職アピール」は、きめ細かにこのことを訴えながら、毎年くり返して具体的な使徒職活動を全信徒にすすめ、意識の高揚をはかり、実践へとかりたてている。「いつか全人類と全世界はキリストにおいて全く建て直され『新しい天と地』が完成されるであろう」信仰に生き、「み国のきたらんことを」祈り、私たち信徒は兄弟的な一致をもって「主がこられるまで」人々をキリストへと秩序づけ、世の聖化につとめることを目指して励み努めなくてはならない。信徒使徒職の戦後30年の歩みを顧みて、その決意を新たにするとともに、主のお恵みを祈りたい。

年表目次

信徒使徒職30年の歩み

昭年23年	15
24年	17
25年	19
26年	21
27年	24
28年	27
29年	30
30年	32
31年	34
32年	36
33年	40
34年	44
35年	47
36年	50
37年	53
38年	56
39年	59
40年	62
41年	66

昭和42年	71
43年	76
44年	81
45年	86
46年	92
47年	100
48年	107
49年	114
50年	121
51年	127
52年	133
53年	140

《昭和23年》

- 3・19 浜口貞一師、村岡正晴師が大浦天主堂で叙階式。
- 3・28 聖ビンセンシオ・ア・パウロ会設立準備会を大浦教会で開いた。山口司教、フリン師、プルダン師と浦上、大浦、飽の浦、大村の各教会から委員15名が集まり、現在すでに活動している浦上、大村両協議会の発展と、教区内各小教区に協議会を新設し、さらに教区特別理事会を設置することを協議した。
- 4・1 サン・スルピス大神学校開校。大村市葛城の長崎公教神学校は閉校し、教区神学生28名が福岡に転校した。
- 4・14 竹山栄師、白浜正之師が聖母の騎士修道院で叙階式。
- 4・15 カトリック教報が復刊された。(邦人司教区の機関紙として、昭和3年11月に創刊されていたが、政府の出版物統制で第287号で昭和15年10月廃刊となっていた。)
- 4・18 浦上教会にカトリック連合少年団が組織された。団長に小笹村市を選任。
- 4・20 浦上教会に生活改善委員会が生まれた。冠婚葬祭の精神的意義を強調する一方、費用のむだをはぶき、生活をたてなおすのがねらいである。
- 4・29 聖ビンセンシオ会教区特別理事会が司教館で開かれた。山口司教、フリン師、プルダン師および教区内7協議会代表が集まり、役員を選出した。会長深堀福市、副会長深堀保郎、書記片岡弥吉、会計田川初治を任命した。
- 5・9 浦上教会が信徒配流80年記念祭を公民館で行なった。
- 感謝ミサに続いて、25年以上勤続の教え方、公民館建築功労者、信徒総代としての功労者および永井博士らの表彰があり、青年団が聖劇「大王の騎士」を上演した。
- 5・19 上・中五島地区各教会連合顧問会議が青砂浦教会で開かれ、生活改善問題と教え方養成、教会活動経済問題、カトリック運動を討議した。
- 5・30 世界平和を祈る聖体行列が、長崎市と近郊教会連合で行なわれ、約7千名が中町教会から聖母の騎士園まで聖体を奉挙して祈った。
- 6・20 中町教会の聖ビンセンシオ会が善長谷に無料治療所を仮設して治療にあたった。
- 6・27 長崎カトリック教育者連盟が長崎地区大会を浦上公民館で開き、指導司祭里脇師・会員60余名が参集した。丸山「教科書に現われたガリレオ問題のびょう見の指摘」、小笹「男女共学1年の実情報告」、片岡「教員スト問題と組合問題について」の研究発表があった。
- 6・28 浦上教会にレジオマリエ「天主と人類の母」プレシディウム(男子)がバーン師の指導で生まれた。
- 7・19 紐差教会と三浦町教会に聖ビンセンシオ会が設立され、教区内に9協議会となった。(以下略称SVP)
- 8・9 浦上教会にカトリック婦人会が結成され、21支部1025名が組織された。会長片岡マサ子を選任。個人の聖化を第一目標に、信心的社会的各種事業をめざす。

《昭和23年》

- 8・9 上・中五島地区で海の聖体行列が行なわれ、桐教会から鯛の浦教会まで海上5里を大型船17隻でパレードし、参列者約2千人。
浦上教会が原爆4周年にあたり小・中・高校生約千人を集め「友をしのぶ会」を催した。
NHK放送局から純心、常清両高女生の、あの日に於ける美しい最後が録音放送された。
純心女子学園で追悼ミサと同校生哀悼歌の発表会。聖劇「犠牲と愛」が上演された。
- 8・10 仲知教会献堂式。
- 8・19 カトリック教育者連盟（田川委員長）が五島地区大会を堂崎教会で催し、東「社会科教材のカトリック的取扱い」、小笹「男女共学1年の経験」、片岡「新教育制度の検討」の研究発表会があった。
- 8・22 南田平教会建立30周年記念式典。
- 9・1 大浦教会浪の平壮青年会が聖えん会を組織してカトリック教養の深化をはかることにした。（会員53名）
- 9・3 SVP長崎教区特別理事会が第2回例会を開く。
- 10・5 県教育委員選挙に片岡弥吉が立候補し、3500余票を獲得した。
- 10・10 聖フランシスコ病院本部第一期復旧工事落成式。
- 10・24 長崎市内6教会連合青年会が第一回弁論大会を浦上公民館で催し、前田一郎（浦上）が第1位に選ばれた。
- 11・2 香焼小教区を新設定、初代主任 平田善次師。
- 11・3 カトリック学生連盟（略称カト学連）全国大会（京都）に浜口師と杉山（医大）が出席。
- 11・5 長崎市カトリック連合青年会（深堀保郎会長）が委員会を中町教会で開き、浦上、大浦、中町、木鉢教会の委員15名が出席し、連合青年会の組織の強化、会則の決定文作成、教区連合青年会結成の気運醸成などを検討した。
- 11・15 永井隆博士が九州タイムズ文化賞第1回受賞者に選ばれた。また、博士寄贈の「浦上千本ざくら」（5年木）を植樹した。
- 11・18 北松地区カトリック連合青年会結成式を平戸教会で行ない、指導司祭熊谷師、会長梅木藤吉、副会長市山了三が選任され、会員688名が組織された。
- 11・20 教育者連盟が第3回大会を海星学園で開き、約40名が参集した。研究発表は川端「小学校教育の実情」、片岡「信教の自由と教育」、東・山下「生徒の思想動向調査報告」であった。
浜串小教区を新設定、初代主任 岩永四郎師。
- 12・11 マリアの軍団（レジオ）大会が島原教会で開かれた。
- 12・25 黒崎教会が相互扶助箱を設け、第1回義金を婦人会が生活困窮者に分配した。

《昭和24年》

- 1・10 北松連合青年会が弁論大会を紐差教会で催し、第1位に田川進(田平)が選ばれた。
大浦教会に生信少年会と少女会が組織された(46名)。毎朝ミサで聖体拝領することをすすめた。
- 1・19 海星中学校カトリック研究会(40名)が聖フランシスコの9日祈禱をした。
- 1・23 木場教会にSVP設立(会員5名)、会長に高見国栄を選ぶ。
- 1・30 守山松三郎師ご逝去。
- 2・1 南田平教会が教理研究会を第1、第2日曜日に開き、受講者17名。
浦上教会が教え方志願者の教理特別研究会を毎土曜日行ない、受講者80名。
浦上教会教育委員会が各町内会をまわって巡回講演を行なうことにした。
大浦教会に大浦地区壮青年の生信会(30余名)と婦人会(132名)を結成した。
平戸教会が青年会誌「ともしび」を創刊した。
- 2・20 長崎カトリック学生連盟発会式が大浦天主堂で行なわれた。会員23名、指導司祭浜口庄八師。会長本島等。基本方針として、①各学校別グループの確立。②カトリック思想研究会に学友を導く。③書物・パンフレットによる布教。④機関誌「ロザリオ」「ほのお」発行。⑤講演会・黙想会の開催。
- 3・5 長崎市連合青年会が常任委員会を開き行事計画を検討した。①教区内各青年会代表を招いて青年大会を開催。②社会問題研究会と研究発表。③夏期に幹部練成会を開く。④単位青年会に巡回聖体拝領の習慣を助成する。⑤毎月1回カトリック知名氏を招き「話を聞く会」を催す。⑥春秋2回弁論大会を開く。⑦SVPに協力して貧困者の救済につとめる、と決めた。
- 3・20 丸尾武雄師、浜田増治師の叙階式。
- 3・25 鯛の浦教会拡張工事落成祝別式。
- 4・17 佐世保教会で復活した婦人会と、新設の姉妹会の結成式を行なう。
- 4・28 黒崎教会設立50年、黒崎女子修道院創立70年の記念式と聖体行列が行なわれた。
- 5・22 平戸教会で聖フランシスコ日本渡来400年記念祭のトップをきって、片岡弥吉、田川初治の講演会と聖劇「犠牲と愛」の上演があった。
- 5・26 平戸教会で山口司教奉挙の聖体行列が行なわれた。
- 5・28 袋町教会で聖フランシスコ日本渡来400年記念祭がはじまり、柳谷武夫、浜口庄八師、渋谷治師の講演会。
- 5・29 浦上天主堂廃きよの壁に大祭壇をつくり、司教莊嚴ミサが献げられ、約3万人が与り、午後2時・聖腕奉持行列が大浦教会から西坂聖地まで行なわれた。また、午後7時・教区青年大会が開かれ、川原光次、川添俊八、岩永秀雄、前田一郎が演説した。

《昭和24年》

- 5・30 カトリック・アクション組織の使徒職会発会式が大浦教会で行なわれ、6名が使徒会々員証をうけた。
- 6・5 神の島教会が「海の聖母像」を安置。
- 7・19 西木場教会献堂式。
- 7・25 上五島連合青年会（中山好夫会長）が連合運動会を鯛の浦中学校校庭で催し、仲知、青砂浦、鯛の浦、浜串、大平、桐、奈留島の7教会から2千名が参加した。優勝は男子部が鯛の浦、女子部は仲知教会であった。
- 8・3 五島玉の浦ルルド50年祭。
- 8・8 北松連合青年会（梅木会長）が総会を南田平教会で開き60余名参集し、青年会のあり方、CAの精神について話合った。また教区使徒職中央事務局の片岡弥吉の講演があった。
大浦教会SVPがロザリオ隣組を提唱し、会員が中心となって隣組で世界平和と隣組内の死者のために祈ることにした。
- 8・9 聖母の騎士高等学校開設。
- 8・14 下五島連合青年会結成大会が福江教会で行なわれ、福江、堂崎、水の浦、楠原、三井楽、久賀の6教会代表60名が参集。会長西里幸盛、副会長梅木今助、木戸を選任した。
- 8・18 北松カトリック教育者連盟結成大会が紐差教会で行なわれ18名参集し、会長島田正雄、副会長市山了三、三輪キクエ、書記西田恵一郎、会計麦田賢一を選任した。
- 10・4 聖フランシスコ病院落成式。
- 10・10 カトリック・センターを、もとの市公会堂跡に建築（3階建・1390平方メートル）、カトリック教報社、アクション団体本部、善きサマリア人修道女（昭和23年11月18日来崎）による診療所を設置した。
- 10・23 北松連合青年会が平戸町新馬場運動場で大運動会を催した。優勝は新御厨教会。
- 11・25 山川清師ご逝去。
- 11・27 長崎市内連合青年会が秋季弁論大会をカトリック・センターで催し、片岡良一、川原光次、紙崎忠男が入賞した。
- 12・8 汚れなき聖母の騎士聖フランシスコ修道女会創立。
- 12・23 衆議院で永井隆博士の国家表彰決定。

《昭和25年》

- 1・4 SVPが黙想と総会をセンターで開き70余名が参集した。現在、教区内の30余の小教区に協議会があり、会員200余名と発表された。
- 1・15 諫早教会が機関誌「グロリア」を創刊した。
- 2・5 西坂公園の仮祭壇で26聖人の司教ミサが午前9時から献げられた。
佐世保相の浦教会にSVP発会式。
北松連合青年会が第2回弁論大会を平戸町公民館で催し、平野浜雄、田川進、庄司定行が入賞した。
- 2・11 プレス・デー。昭和13年から毎年6旬節主日をプレス・デーと定められ、「出版布教の日曜日として全信者が協力して出版物による布教活動を行う」としている。カトリック出版物の宣伝と購読、悪書の排撃に努力するよう呼びかけた。
- 3・5 浦上教会にレジオマリエ「病人の快復」プレシディウム(女子)が発会式。
- 3・14 純心女子短期大学開設。
- 3・19 原塚正人師の叙階式。
マリアの軍団(レジオ)アチェス(騎士大会)がセンターで開かれた。
- 4・1 稲佐に新聖堂が建立された。
- 4・13 上神崎教会の保育園祝別式。
- 4・21 浦上教会プラスバンド(明治23年創設)が福岡の聖体行列に奉仕した。
- 5・5 大加勢教会祝別式。
- 5・13 一本木山の聖母像を教皇使節フルステンベルク大司教が祝別。
- 5・14 長崎市内教会連合大聖体行列がフルステンベルク大司教奉持で、浦上教会から西坂まで行なわれた。
- 5・17 五島相の浦教会の桜愛児園開園式。
- 5・18 飽の浦教会にカトリック・ボーイ・スカウト(CBS)が発足。
- 5・20 鯛の浦教会の聖テレジア姉妹会が旭日園保育所で演芸会を催し、花をビンセンシオ会に寄付した。
- 5・21 出津教会聖鐘祝別。青年会が杭木運搬の労働奉仕をして購入資金としたもの。
- 5・31 五島日ノ島村有福の新聖堂献堂式。
浜申教会聖鐘祝別。この鐘は昭徳水産社長竹内富行の寄贈。
- 6・1 永井隆博士が天皇御下賜の銀盃と総理大臣表彰をうけた。
- 6・13 上中五島地区連合顧問会議を2年振りに青砂浦教会で開き、①信者相互の信仰の確立、②品位を高めて教外者への布教、③職場を通しての布教、④教会への奉仕などについて協議した。
- 6・18 長崎市内連合青年弁論大会が浦上公民館で開かれ、小笹実、前田節三、畑田薫が入賞した。
- 6・20 大浦教会と浦上教会に育英会が設置され、子弟教育の

《昭和25年》

推進をはかることになった。

- 6・25 浦上教会に女子ピンセンシオ会が発会式。大村教会ではすでに3年前からエリザベト会という女子ピンセンシオ会が設立されて活動している。
- 6・29 野原清師が叙階式。
- 7・1 川棚小教区を新設定、初代主任 フリン師。
- 7・16 三浦町教会に未成年女子のレジオマリエ「童貞中いとも聖なる童貞」プレシディウムが発会式。
- 7・29 松竹映画「長崎の鐘」ロケ隊が来崎した。
- 8・23 五島焼崎教会祝別式。
- 8・24 上中五島連合青年会が支部長練成会を青砂浦教会で行ない、役員も改選。会長中田哲雄、副会長中山義光、中田清一。
- 8・27 五島相の浦教会で谷川エキの教え方50年金祝を祝う。
- 10・7～10 浦上教会がロザリオ展を公民館で催し、4日間の入場者5千名。
- 10・8 浦上教会がロザリオの集いを開く。
- 10・17 カト学連と教育者連盟会員20余名が上智大学ジュモリン師を囲んで座談会を開いた。
- 10・22 浦上教会の聖歌隊が布教の日の主日に県立盲学校を慰問した。
- 11・1 純心女子学園で被昇天のドグマ宣言祝賀会を催す。長崎市連合青年会（片山弥三郎会長）が第1回体育大会を市民運動場で催し、16チームが参加した。
- 11・8 東陵学園創立10周年祭に学生劇「天草四郎」を上演した。
- 11・29 浦上教会に「ルハンの聖母像」（アルゼンチン大統領夫人寄贈）を安置した。
- 12・17 宝亀教会で「初聖体の金祝」を10余名が祝い、聖体への信心を強め、初聖体のために教えをうけた神父、伝道婦のため祈りをささげた。
- 12・23 長崎市連合青年会が「クリスマスの祝賀の集い」をセンターで催した。
- 12・24 浦上教会が町内ごとに行なっていた聖年団体参拝がすべて終わった。
- 12・25 生月カトリック連合青年会が山田小講堂で、殉教劇「輝く十字架」を上演した。

《昭和26年》

- 1・3 上五島地区SVP中央理事会が鯛の浦教会で開かれた。
- 1・14 植松教会CA会が「今後の布教活動のために最も有効な組織と方法」について討議し、役員を選出した。会長杉本正二、副会長市瀬丈吉、布教委員田中忠右衛門、大水富雄。
三浦町教会に成年男女レジオマリエ「使徒の元后」プレシディウムが発会式。
- 2・4 植松教会（バルタ師）のCA会が会報を創刊。
- 2・15 大山教会が恒例の鹿狩りを行なった。
- 2・25 長崎市連合青年会が第3回卓球大会をセンターで催し、司教杯を本原チームが獲得した。
- 3・25 植松教会CA会が聖母の騎士園と国立大村病院で布教と慰安の「聖劇の夕」を催した。
- 3・28 浜崎渡師、松本長太郎師、竹山涼師、深堀政美師が叙階式。
- 4・15 大曾小教区を新設定、初代主任 原塚正人師。
- 4・20 愛野小教区を新設定、初代主任 カミン師。
- 5・1 永井隆博士ご逝去。14日浦上天主堂で市葬が行なわれ約2万人が参列した。
- 5・6 長崎市連合青年会が第3回野球大会を西浦上球場で催し、飽の浦チームが2年連続優勝した。
- 5・13 山口県津和野の乙女峠に浦上信者流配記念聖堂建立、献堂式。
- 5・16 五島奥浦慈恵院70周年記念式典（今までに1500余名を養育）。
- 5・27 長崎市内教会連合の聖体行列が約1万人の参列で純心女子学園から浦上天主堂まで行なわれた。
- 6・1 北松加勢炭鉱の「教友会」20周年記念式（炭鉱従業員のカトリック信者の会で、労働組合長島田仙之助の指導）。
- 6・3 教育者連盟長崎支部が第1回CB会をセンターで開いた。（CB会はコムニオン・ブレイクファストつまり聖体拝領と朝食をともにしながら語り、学ぶ会で毎月1回定期的に開くことを決めた）。
- 6・4 浦上教会SVP協議会が総会をかねて「永井博士を語る会」を片岡春夫宅で開いた。
- 6・17 浦上教会に「平和の聖母像」（イタリア国カトリック医師会寄贈）を安置した。
- 6・24 カト学連大村連盟の結成式が植松教会で行なわれ、会員40余名が高木繁幸を議長に話合った。長崎学連村田委員長も出席。
- 7・1 高谷義光師、浜崎数雄師が叙階式。
- 7・16 平戸教会に成人男女レジオマリエ「罪人の改心なる御母」プレシディウムが発会式。
- 7・25 カト学連が10日間の夏期練成会を北松地区の教会を巡って行ない12名参加。
- 8・3 永井博士遺品展が長崎博物館で10日間にわたって催された。

《昭和26年》

- 8・5 伊王島小学校PTAが「永井博士をしのぶ会」を催し、片岡弥吉、田川初治が講話し、伊王島聖歌隊と純心女子高生が合唱した。
- 8・10 長崎市連合青年会が上智大学ボッシュ師を招いて夏期講座を浦上公民館で6日間開いた。
- 8・14 鮑の浦教会がミロハナ師の指導で一夜青年修養会を開いた。
- 8・15 木鉢教会青年会がペーロン競走を行なった。
- 8・23 教育者連盟が五島奥浦中学校で教員講習会を開き30名が聴講。道德教育について学んだ。
教育者連盟が純心女子学園でも3日間の講習会を開き、道德教育の在り方について研究した。
- 8・27 上中五島地区主任司祭および教会顧問会議が青砂浦教会で開かれ、鯛の浦に伝道学校を設置することを決定した。
- 8・28 上中五島連合青年会が総会を鯛の浦教会で開き、110名参集し、15名の模範青年を表彰した。
- 9・15 大浦天主堂の観光記念切手（8円）が売り出された。
- 9・20 「如己堂友の会」が市立博物館で開かれ、永井博士の遺業の顕彰と遺児の援護にのり出した。会長に久保忠八を選任。
- 10・3 愛野教会祝別式。
- 10・7 聖フランシスコ会修道院が聖母行列を病院から一本木山の聖母礼地まで行なった。
- 10・7 伊王島教会幼稚園の新園舎落成。
- 10・10 カト学連が講演会を催し100余名が参集し、神言会管区長ゲマインダ師「布教について」の講演をきいた。
- 10・17 中町教会竣工、献堂式。
山口司教、松下師、田川師、清水師、梅木師の司祭銀祝を中町教会で祝う。
長崎市内OB信者野球試合が浦上西部球場で行なわれ、司祭団も参加した。
- 10・20 ルース台風で奈留島教会司祭館が倒壊、葛が島司祭館が高波に洗い流された。
- 10・22 五島福見教会の聖鐘祝別。
- 10・23 小値賀町公会堂で山口司教が宗教講話をされた。
- 10・27 小値賀町で300年ぶりにミサが献げられた。野首教会主任浜田師司式、信者3名が与る。
九州カトリック医師会が福岡司教館で結成され、長崎の20数名の医師の活躍が期待された。
- 11・1 久賀島で産婆畑田ワサ追悼祭が全村あげて行なわれた。産婆40年、顕彰碑も建てる予定。
- 11・4 浦上教会で少年団弁論大会が催され、1位に深堀智が入賞した。
- 11・17 カトリック医師会の発会式がセンターで行なわれ、会長深堀保郎、理事高尾篤良、西田志都夫を選出、毎年秋に総会を開き研究発表、機関誌の発行、市内会員は毎月集会をもつことを決めた。

- 11・18 浦上教会で青年会弁論会を公民館で開き、1位に田中茂が入賞した。
- 11・23 勤労感謝の日に優良社会福祉12団体に対する御下賜金の伝達式が県会議場で行なわれ、カトリック関係ではマリア園、浦上養育院、奥浦慈恵院、鯛の浦養育院、木鉢双葉園、聖母の騎士園、岳愛児園が受けた。
- 11・25 飽の浦教会ボーイスカウトの公教要理競演会が行なわれた。
- 11・27 五島地区各教会の公教要理コンクールが福江教会で行なわれ、1位に三井楽教会が選ばれた。
- 12・8 純心女子短大開学式と記念展覧会。
山口司教は、無原罪の御やどりの祝日を、「ソ連改宗のための祈禱日」と定められた。
- 12・9 聖母の騎士会でコルベ師10周年祭を催す。
純心女子学園演劇部が「村山マリア夫人」を講堂で公演した。
- 12・16 聖フランシスコ病院修道女、医師、看護婦、本原町の信者らがマリアの山に聖母行列した。
- 12・19 東陵高校演劇部が「高山右近」（中田秀和脚色）を諫早市栄楽座で上演した。
- 12・21 川口藤吉師がローマで叙階式。
- 12・25 浦上教会の新公民館落成式。
カトリック学連（芦沢委員長）がセンターで「クリスマスの集い」を催す。

- 12・26 五島岐宿町楠原教会の光幼稚園落成式。



《昭和27年》

- 1・8 神学講座を袋町カトリックセンターで開講。
- 2・16 本原3丁目の仮聖堂祝別。
- 2・17 浦上十字架山に道行14留を設置。
- 2・28 平戸口教会祝別式。
- 3・3 植松教会CA会の招きで渋谷治師が市公民館で布教講演を行なう。
- 3・9 教育者連盟の定例CB会で研究テーマを道德教育ときめた。
俵町小教区を新設定。スカボロ会に委託し、主任パーン師。新聖堂祝別。
- 3・10 平戸市中野教会祝別式。
- 3・19 竹谷音吉師、竹山勇師、浜口健一師、深堀栄市師、道向荣師、吉浦勉師、永田静一師の7師が新装の大浦天主堂で叙階式。
- 3・20 東陵学園閉校式（昭和15年東陵中学校創立。4月から南山学園として発足）。
- 3・25 上中五島地区の伝道学校（校長梅木師）が鯛の浦に落成し、開校式（第1回入学生・女子20名）。
- 4・1 長崎南山学園開校式。
- 4・14 カトリックセンター幼稚園開設。
- 5・1 永井博士追悼祭。
- 5・3 善長谷教会祝別式。
- 5・11 浦上教会で流配記念祭があり、ベアトス様の墓地から天主堂まで殉教者感謝行列をした。
- 5・21 長崎南山学園が上野町の新校舍上棟式。
- 5・25 大山教会祝別式。
- 6・15 教育者連盟長崎市部会が純心女子短大で総会を開き、里脇師「規律」の講演、深堀勝「勤労学徒の宗教観」本島等「教育の態度」の研究発表をした。
- 7・8 伊王島教会沖の島にレジオ「マリアの汚れなき御心」プレシディウムが発足。
- 7・23~26 カト学連が第5回大会をセンターで開き、全国33学連から330名が参集し、「日本におけるカトリック学生の布教について」の主テーマで協議した。
- 7・24 三菱会館で、上智大学小林珍雄教授「新日本における宗教と政治」大沢章教授「基本的人権とカトリシズム」の公開講演会を催す。
- 8・2 飽の浦教会にレジオ「くすしきばらの花」プレシディウムが発足。
- 8・9 信愛学園に「平和の乙女の碑」建立。
- 8・15 伊王島教会がペーロン大会を催す。
- 8・19 長崎連合青年会役員改選で会長片山弥三郎、副会長高橋末一、小笹村市を選出した。
- 8・22 西坂殉教地で聖母祭があり、3千余の聖火が夜空に映えた。
- 8・23 五島山ノ田教会祝別式。
長崎連合青年会が第3回修養会を神の島教会で行なう。
- 9・7 浦上教会青年会が野球大会を催し、本原3丁目チーム

- が優勝した。
- 9・7 北松14教会青年会の合同大運動会が平戸口亀岡運動場で催され、宝亀教会が優勝した。
- 9・14 浦上教会公民館で、琵琶曲「長崎の鐘」の演奏があった。
糸永真一師が叙階。
- 10・2 伊王島教会大明寺にレジオ「ロザリオの元后」プレシディウムが発足。
- 10・5 白浜仁吉が長崎2区から代議士に初当選し、市町村教育委員選挙で県下12町村から立候補したカトリック信者が、ほとんど全員当選し16名になった。
- 10・14 長崎公教神学校が教皇庁公使フルステンベルグ大司教によって祝別された。
長崎南山学園新校舎がフ大司教によって祝別された。
- 10・24 北松潜竜教会祝別式。
- 10・26 早坂司教叙階銀祝の感謝ミサが大浦天主堂で献げられた。
植松教会C A会が浜口庄八師を招いて講演と映画の会を催した。
カト学連がけっ起月間に入り、パクス・ロマーナ（キリストの平和）への知的使命達成のため祈りに励むことにした。
- 10・29 邦人教区創設25周年の祝電が東京大司教区から寄せられた。
- 10・31 三菱長崎造船所でカトリック式による最初の起工式が行なわれた。（太平洋海運（株）注文の2万5百トン貨物船）。
- 11・1 長崎連合青年会主催の第4回野球大会が西浦上中学校校庭で開かれ、伊王島沖の島青年会が司教旗を獲得した。
- 11・5 カト学連がセンターで浜口師の指導をうけ典礼研究会を開く。
長崎刑務所受刑者監視台に中田秀和の絵「我が家」を掲げて、更生の力に家庭愛を訴えた。
- 11・8 純心女子学園にレジオ「天の門」プレシディウムが発足した。
- 11・9 浦上教会にロザリオ会設置式。
浦上教会で青年弁論大会が開かれ、崎田晴治が第1位に選ばれた。
飽の浦教会少年団の公教要理コンクールが行なわれた。
- 11・14 三井楽町岳教会祝別式。
- 11・22 カトリック医師会（会員13名）がセンターで総会を開いた。
- 11・23 オグスチノ会が300年振りに長崎教区で布教活動にあたるため来崎し、クルパー師、ロビンソン師、ブルセル師が司教館に入られた。
- 11・30 SVPが新戸町引揚者更生寮の大火罹災者の救護に活躍した。

《昭和27年》

- 12・6 センター主催の子供映画会を催す。
- 12・7 長崎公教神学校礼拝所祝別。
浦上教会青年会が「浦上の殉教者」を上演した。
- 12・14 センターに日曜学校開設。
レジオ長崎クリアが年度総会を飽の浦教会で開き、飽の浦、浦上、純心学園、沖の島、大名寺教会から 110 名が参集した。
- 12・16 神学講座第 1 回終了式 (17名)。
- 12・21 純心学園演劇部がセンターで「杜子春」、「愛の讃歌」を公演。
- 12・25 永井図書館竣工。
潜龍教会青年会が結成され、会長久保国一、副会長久松政一を選任した。



《昭和28年》

- 1・18～25 祈禱週間。東方教会その他の離教の帰正のため。
- 1・25 カトリック児童福祉の日に浦上教会ボーイスカウト設立準備の協議会を開く。
- 1・27 神学講座第2回終了証書授与式（11名）。
- 2・22 浦上教会婦人会が総会を開き、役員改選し会長吉田末子、副会長今村サキ、田川照子を選任した。
SVP中央理事会が総会を大浦教会で開き、創立者オザナム逝去百年祭行事などについて協議し、また、パリ総理事会の正式承認書が46協議会に伝達された。（SVP長崎支部は昭和2年創立、パリ総理事会の正式承認をえて20余年間活動。昭和23年教区特別理事会に吸収され現在に至る。）
- 3・16 田中千代吉師の叙階式。
- 3・17 海星学園に「学園の聖母像」建立。
- 3・21 長崎連合青年会（片山会長）がセンターで総会を開き、年間行事を決定した。4月体育大会、5月流配記念タスマツ行列、6月討論会、7月修養会、8月音楽と講演会、10月弁論大会、11月野球大会、12月聖地巡礼。また、内部組織として「信仰の友の会」を設け活動することになった。
- 3・25 聖母の騎士会ピクトール師が沿岸布教のためアヴェ・マリア号を造船・祝別。
- 3・31 大浦天主堂が国宝指定をうけた。
- 4・1 浦上教会青年会に宗教部を新設して、昨年発足したJOC部員が主となって活動することになった。文書伝道、組合運動のカトリック化、友人関係による伝道に力を注いだ。
- 4・1 佐世保市聖和女子学院中・高校開設。
- 4・4 鯛の浦教会の聖鐘祝別。
平戸白岳修道院に愛の園保育所落成。
- 4・5 潜龍教会が青年弁論大会を催し、第1位に田崎藤太郎が入賞。
- 4・26 神言会修道院祝別式。
- 5・1 浦上教会で労働感謝ミサ。
永井博士3回忌に「故人をしのぶ集い」を開いた。
- 5・10 中町教会婦人会の会旗祝別。
浦上教会で流配記念行列を行なう。
植松教会が親睦運動会を元・純心学園運動場で催す。
- 5・14 聖フランシスコ病院で聖母戴冠式とマリアの山までタスマツ行列を行なう。
- 5・17 浦上教会が少年ソフトボール大会。
- 5・19 北高小長井村に聖母の騎士園竣工・祝別式。
- 5・27 片岡吉一師が九州保育事業大会（宮崎市）で功労者として表彰された。
- 5・31 教育者連盟（CTL）が雲仙に登山し殉教史蹟を調べた。
- 6・14 浦上教会SVP会員が総出で救済対象困窮者の老婆のために1坪半の家を新築した。

《昭和28年》

- 6・21 浦上教会が青年・姉妹・少年団の合同弁論大会を催した。
- 6・28 長崎連合青年会が「社会主義政治が実現した場合、果して勤労者の生活は向上するであろうか」というテーマで討論会を開いた。
- 7・1 鶴田師銀祝を飽の浦教会で祝う。
浅子小教区を新設定、初代主任 今村留市師。
- 7・5 古川師銀祝を中町教会で祝う。
- 7・27 SVP中央理事会が中島川の出水のため家を流された長崎マリアの町の人々54家庭に救済物資を配布した。
- 7・29 カト学連大会（東京）に浜口庄八師、東巖委員長ら6名が参加。
- 8・1 教区統計公表。総信者数 69740名（昨年より2412名増）。
なお、教え方 170、伝道婦 206、SVP 238、LM 196、
青年会3772、姉妹会2934、フランシスコ第3会1646、
ロザリオ会7136名と発表された。
- 8・16～17 上中五島地区の顧問・青年合同年次総会が鯛の浦教会で開かれ、顧問28名青年代表50名が参集し、教会維持、教え方養成、生活改善、主日労働許可、風紀取締りなどの諸問題を討議した。
- 8・21～24 JOC全国研究会（東京）に中島万利師と吉野保が出席した（長崎のJOC会員は浦上教会5名、三菱電機6名）。
- 8・23 県史跡にコレジヨ址（春徳寺）、西有家町のカマボコ型墓碑、川棚町のキリシタン墓碑が指定された。
- 9・13 片岡師銀祝記念の聖鐘を木鉢教会に吊す。
- 10・8 水の浦教会信者や白百合保育園が岐宿町公民館主催の大運動会に参加。
- 10・17 五島貝津小教区を新設定、初代主任 浜口貞一師。
- 10・18 平戸聖ヨゼフ修道会経営「愛の園保育所」で創立第1回の運動会を催す。
長崎市内教会連合大聖体行列を信者1万人を集めて、
純心女子学園から浦上天主堂まで行なった。
司祭銀祝の公式祝賀が大浦司教館で行なわれた。古川重吉師、渋谷治師、鶴田源治郎師、浜田朝松師、片岡吉一師、山口福太郎師。
- 10・20 諫早教会献堂式。
- 10・27 飽の浦教会が鶴田師銀祝大運動会を催す。
- 11・4 レジオ・マリエ本部使節オレーバー女史が長崎クリアおよび11プレシディウムを視察した。
- 11・8 伊王島幼稚園で渋谷師銀祝を諸岡村長も出席して祝う。
- 11・10 カト学連が迫害下にあるポーランド教会のために聖地巡礼して祈る。
- 11・15 崎戸町に教会建設・祝別式。
カト学連が総会を大浦教会で開き、会長伊崎哲夫を選任。橋一乗氏を招いて「カトリックと仏教」についての講演会。
- 11・23 カト学連が大浦～マリア園～大山教会に巡礼した。

- 12・8 聖母の年はじまる。聖母無原罪の御やどり教義宣言百周年。長崎教区では特に、元帳の帰正を祈る。
純心女子学園が全学生・生徒参列の盛儀ミサを献げ、
短大1年生がリズム劇「ルルドの聖母」を上演。
- 12・15 飽の浦教会が神学校後援の献金のため「一燈会」を設けた。
- 12・25 佐世保青年会が「クリスマスの夕べ」を催し、市公会堂で26聖人殉教劇「母への最後の手紙」（中田秀和脚色）を上演。
三浦町教会のオグスチノ会が義金を集め、共済病院などの入院患者や貧者にプレゼントを贈った。



《昭和29年マリアの年》

- 1・25 五島岐宿町楠原保育園火災。
- 2・14 川口藤吉師がグラスゴー市で逝去。
- 3・19 中田武次郎師が叙階式。
- 3・21 SVP長崎中央理事会が総会をセンターで開いた。
- 3・31 紐差教会建立25周年記念の聖鐘祝別。
- 4・13 川棚のキリシタン墓碑県指定をうける。
- 4・29 東京イグナチオ教会で聖母の年を祝う日本カトリック教会合同祝典。
- 5・4～5 五島玉の浦ルルド祭に1500人が参列した。
- 5・16 神の島「海の星なる聖母」に対する団体参詣に3千余人。
- 5・23 本原町のルルド洞窟に聖母像を安置した。早坂司教が祝別された。(ルルドはフランシスコ第3会員の手になる)
- 6・7 浦上教会が流配81年記念の催しを行なう。(生存者11名)
信愛幼稚園で聖劇「細川ガラシヤ夫人」(中田秀和脚色)を上演した。
- 6・10 八幡町「あけの星幼稚園」入園式。
- 6・13 佐世保市皆瀬教会祝別。
- 6・28 教育者連盟が第8回総会を純心女子短大で開き、里脇師「文明の没落説の分類とその由来」の講演。森口福雄「社会科における道徳教育について」、諸石珠枝「幼児音楽教育について」、前川正夫「組合運動の歴史的一断面」、大泉はる「幼児のガイダンスについて」、田川栄一師「女子高校におけるカウンセリング」、田川房太郎師「カトリック系学校における布教の実際の研究発表。
- 7・4 稲佐幼稚園舎祝別。
- 7・12 浦上天主堂再建のための第一回建設委員会を開き、会長中島師、事務局長森田喜二郎を任命。
純心学園と信愛修道院で上智大学ラウレス教授が「高山右近について」「細川ガラシア夫人」について講演。
- 7・15 純心短大第二回同学会で「生月島の隠れキリシタンについて」研究発表。
- 7・24 カト学連大会(札幌)に浜口庄八師、深堀栄一師、東委員長ら15名が出席。
- 8・1 中五島11教会1500名の信者が中の浦「ご出現の聖母」教会で聖母行列をした。
- 8・20 JOC全国大会(大阪)。
- 8・22 「マリアの年」タイムツ行列が市内5教会と修道院から出て西坂に集まり、3千人が参加し、聖母賛美の聖歌が長崎の町に流れる。
出津教会で聖体行列をした。
SVP中央理事会が総会を公教神学校で開いた。
- 9・12 出津教会が運動場びらき大会。
- 9・15 聖和女子学園の付属聖堂祝別式。
- 9・19 三井楽岳教会が湊元海岸から教会まで一里の道を聖母

《昭和29年》

行列した。

- 9・26 貝津教会が嵯峨島の「聖きロザリオ」教会まで海上パレードの聖母行列をした。
雲仙大叫喚地獄の殉教者碑をマックフェレン師が祝別し、浦上聖歌隊60名も参列した。
- 10・17 教区聖母行列が浦上天主堂から純心女子学園校庭まで1万人の参列で行なった。上智大学大泉孝学長の説教。聖母マリアに長崎教区を奉獻する祈願文をささげた。
- 10・17～24 純心女子学園で聖母展覧会。
- 10・18 大浦司教館で聖職者聖母大会。
- 10・27 紐差教会25周年の建設記念碑除幕式。
- 11・1 水の浦小教区が水の浦、楠原、打折の各教会でローソク行列による墓地参拝をして死者のために祈った。
- 11・10 教区布教委員会が司教館で開かれ、リーフレット作成などを協議した。
- 11・11 上五島浜串教会が港口に大聖母像を安置した。
- 11・14 飽の浦教会ドミニコ・サヴィオ少年団の第5回公教要理コンクールを行なった。
- 11・23 勤労感謝の日に県で表彰式があり、聖母の騎士修道会のゼノ修士が民生功労賞をうけた。
- 11・24 スペイン国文化使節プリエート師（イエズス会）がセンターで、広島エリザベト音楽短大合唱団35名を指揮して宗教音楽演奏会を催した。
- 11・28 レジオ長崎クリアが年次総会をセンターで開いた。

- 12・2 西坂殉教地を史跡に指定する答申が県文化財専門委員会から教育委員会にだされた。
- 12・5 山口司教が聖母年の終りにあたって、無原罪の祝日前9日の修行を勧め、ミサ中に迫害下にある教会のために祈ることをすすめられた。
聖母の騎士修道会がセンターで「聖母のつどい」を開いた。
- 12・8 純心女子学園が劇と音楽会をセンターで催し、「ルルドの聖母」劇を上演。
- 12・14 神学講座修了式（7名）。
- 12・21 城山教会の修道院と幼稚園舎祝別。
- 12・25 城山小教区を新設定。（浦上教会から分離し、オグスチノ修道会に委ねる）。
本河内小教区を新設定（中町教会から分離し、聖母の騎士会が担当）。

《昭和30年》

- 1・6 聖母の騎士会で6師叙階式。川淵勇師、初田徳一郎師、山浦直夫師、大曾昭師、大水如安師、中島優師。
- 1・11 神学講座第4回開講。
- 2・3 幼児教育協議会の発会式がセンターで行なわれた。教区内13幼稚園で構成、委員長畑中師。
- 2・5 西坂26聖人殉教地で司教ミサ。
- 2・20 SVP長崎中央理事会が総会をセンターで開き、「SVP活動の拡大強化の方法」について討議した。
- 3・17 キリシタン研究の権威シュッテ師（イエズス会）が長崎の遺跡と資料の研究で来崎した。
北高小長井村の聖母の騎士修道女会修院聖堂祝別。
- 3・21 岩永薫師の叙階式。
- 4・9 幼稚園協議会（第2回）がセンターで開かれた。
- 4・10 五島若松村土井浦公民館落成祝賀の青年弁論大会で、カトリック青年が「キリストによる世界平和を」と訴えた。
- 4・14 上中五島地区伝道学校（鯛の浦）第4回入学式（26名）
- 4・24 青木義雄師が黒島教会でご逝去。
- 4・25 城山 聖マリア幼稚園開園式。
- 4・27 聖母の騎士修道院で、コルベ師渡来・修道院設立および「聖母の騎士」誌創刊25周年の記念式典を行なう。
- 5・1 城山教会祝別式。
- 5・3 里脇浅次郎鹿兒島被選司教の祝聖式が中町教会で荘厳に挙行された。
- 5・25 教区布教委員会（責任者田川師）が大浦教会で開かれ、一般信者に布教への協力を強く訴えることなどの意見交換をした。
- 5・27 福江聖マリア病院開設。
- 5・29 JOC（カトリック青年労働者組合）稲佐組が発足（会員8名）。
浦上少年聖歌隊（村岡師・隊員40名）が正式に日本少年合唱連盟に加入し、世界児童合唱連盟の組織につながった。
- 6・12 城山教会で夜の聖体行列が行なわれた。
浦上教会の流配記念祭が天主堂と信愛幼稚園で行なわれ、姉妹会が聖劇「岩永マキ物語」（田川正勝脚色）を上演、また、本大橋の「ベアトス様の墓」から天主堂まで信者千人と神学生たちが行列した。
- 6・19 諫早教会が日曜学校を開設。
長崎地区教会聖歌隊指導者がセンターに集まり、カトリック聖歌研究会を毎月第3日曜に開くことを決めた。
- 6・29 福江聖マリア病院付属聖堂祝別。
- 7・10 出津教会の伝道館祝別。
- 7・23～24 レジオ長崎クリアが年次黙想会を諫早教会で開き、約百名が参加し、福岡コミチウム伊藤師の指導をうけた。
諫早教会クリアが正式承認をうけて発足した。
- 7・24 SVP長崎中央理事会が総会をセンターで開き約30名

《昭和30年》

- 参集し、「ピンセンシオ会員としての自己成聖」について討議した。
- 8・9 純心女子学園が原爆10周年にあたり、生徒 204名の犠牲者のため「慈悲の聖母像」前で慰霊祭を催した。
- 8・22 上中五島地区信徒総代会議を鯛の浦教会公民館で開き、生活改善の昂揚と伝道学校の運営について協議した。上中五島地区青年処女会（中田会長）が総会を旭日園で開き 200名参集し、模範会員11名の表彰と弁論大会を行なった。
- 8・30 北松地区各教会宿老会議が平戸教会で開かれ、役員改選で会長山口元次郎、副会長金子松次を任命したのち新生活運動と教会運営の問題について討議した。
- 10・2 北松連合青年会が第7回陸上競技大会を猶興館高校グラウンドで行なった。
- 10・9 平戸教会建築25周年記念として尖塔に聖母の像と聖心像の二基を安置し、除幕式。
三浦町教会が聖心幼稚園25周年記念運動会を催す。
- 10・18～24 教区司祭黙想会が大浦司教館で行なわれた。
- 11・10 上中五島伝道学校で23名の修了証書授与式。
- 11・11 川棚教会が町内戦没者の慰霊祭。
- 11・13 カト学連が定例総会を開き、委員長太田英雄、副委員長山口恒、森山チズ子を選任した。
- 11・16 山口司教が全国社会教育功労者として社会教育協会から表彰された。
- 11・17 幼稚園協議会（第4回）が八幡町あけの星幼稚園で開かれ、クリスマスの催しのあり方や幼児の宗教々育、特に卒園前の初聖体などについて協議した。
- 11・24 浦川和三郎司教が仙台市でご逝去。
- 11・26 カトリック医師・看護婦会が長大医学部で結成された（会員16名）。
- 11・27 飽の浦教会B S 公教要理コンクール（第7回）を行なう。（B Sは堅信後18歳までの少年団体名）
レジオ長崎クリアが年次総会を純心女子学園で開き、16プレシディアより 110名が参集した。この総会にはJ O C、カト学連、S V P、青年会、姉妹会など各種団体の指導者や代表が招待された。
- 12・4 稲佐教会の聖鐘祝別。
レデンプトール会初代院長ゴージェ師が愛宕町に着任。S V P長崎中央理事会が総会をセンターで開き、「毎週の協議集会を全員を引きつけるように聖なる和気のうちに運営する方法」について協議した。
- 12・19 S V Pが鹿児島教区奄美大島の大火に義捐金をおくった。

《昭和31年》

- 1・8 中田藤吉師が大浦司教館でご逝去。
- 1・16 医師・看護婦会が第2回集会を浜口町横瀬医院で開き、今後の方針を検討した。
- 1・30 鯛の浦教会にジュニアのレジオマリエ「海の星」プレシディウムが発足した。
- 2・3 幼稚園協議会(第5回)を浦上海の星幼稚園で開いた。
- 2・5 川棚教会が26聖人記念祭を催す。
西坂26聖人殉教地に3千人の信徒が、中町教会から行列して参詣(この一月に県教育委員会が殉教地を県史蹟に指定)。
北松地区青年会が第7回弁論大会を平戸口社会館で開き、山野支部が3年連続して優勝した。
- 2・11 山口司教がアメリカからご帰国。
- 2・16 北松地区司祭会議で、教え方養成講座を田平、平戸、紐差で開くことを決めた。
- 2・19 南山手町清心幼稚園の遊戯館が落成。
- 3・11 SVP長崎中央理事会が総会をセンターで開き、「SVP会員として隣人愛と使徒心との昂揚を計るにはどうしたらよいか」のテーマで討議した。
- 3・14 愛宕町小教区を新設定し、レデンプトル会に司牧が委任された(長崎市内11番目の教会区)。
- 3・19 五島真手の浦教会献堂式。
- 3・21 尾上金助師が五島青砂ヶ浦教会で叙階式。
- 4・3 南田平教会の下寺地区に「むつみ保育所」落成。
- 4・4 聖マリア学院小学校舎祝別。サンモール会が教育を担当し5日開校式。
北松下寺教会祝別式。
- 4・6 生月町山田幼稚園開園。
- 4・22 佐藤哲夫師がトラピスト修道院で叙階式。
- 5・15 西木場教会にモス師(神言会)赴任。
平戸教会にライアン師(オグスチノ会)補佐。
- 5・27 SVP長崎中央理事会が総会をセンターで開き、「対象家庭に信仰を伝える適当な時期および方法、教理を教える方法」のテーマで討議した。
- 5・31 城山教会で聖体行列。
- 6・2 純心女子学園で聖母行列。
- 6・6 愛宕町教会主任にプレー師着任。
- 6・13 聖フランシスコ小神学校開設。
- 6・17 浦上教会が流配記念祭を催す(生存者7名)。
- 7・1 西木場教会区が独立、初代主任にオーガスト・モス師(神言会)。
福田村岳教会を鯛の浦教会区に転属(神の島教会区より)。
- 7・15 愛宕町教会祝別。
- 7・21 レジオ長崎クリアが黙想会をセンターで開き、60名参加し、ミロハナ師の指導をうけた。(現在、教区に14プレシディヤ、152名)。
- 7・22 SVP長崎中央理事会が総会をセンターで開き、「物

- 資を対象家庭に差上げる場合、最も適正かつ効果的な配分と手渡しの方法および会員の心得について」のテーマで討議した。
- 7・30 八幡町のあけの星幼稚園2階に聖堂建設・祝別。
- 7・31 カト学連第9回全国大会（広島）に田川師（海星）、太田委員長ら10名参加。
- 8・4 幼児教育協議会主催の「幼児宗教教育講演会」が純心短大図書館で催され、塚本昇次師「幼児にふさわしい宗教教育のあり方」、長田シゲ「カトリック幼稚園、保育所における母の会を通じての効果的布教法」の講演があった。
- 8・6 上中五島地区連合女子青年会が再発足し、110余名が鯛の浦つぼみ幼稚園に集まった。
- 8・9 浦上教会が第11回原爆記念日の合同追悼ミサとタイムツ行列を平和公園から天主堂まで行なった。
- 8・18 JOC第4回全国大会（横浜）に中島万利師、梅木兵藏師、浜崎数雄師と松尾会長ら13名が出席した。
- 8・30 公教神学校長にマルセル・ベック師が着任した。（スクート会）
- 9・20 三浦町教会にJOC（男6、女5の2つの組会）が結成された。総指導司祭ムルグ師も出席した。
- 9・23 北松連合青年会が第8回体育大会を紐差中学校グラウンドで開催した。
- 10・10～16 教区司祭黙想会。
- 10・21 伊王島馬込天主堂建立25周年記念祭に永年勤続の教え方3名（太田シゲ、田村ツネ、犬塚ミツ）を表彰した。
- 10・28 教区聖体行列を行なう。
- 11・1 神言会ルドビコ神学院祝別式。
- 11・7 幼児教育協議会が城山聖マリア幼稚園で開かれ、クリスマス聖化などを協議した。
- 11・11 城山教会で付近の未信者にカトリックを理解し、関心を寄せてもらうための「教会案内デー」を催した。
- 11・17 カトリック医師会をセンターで開き、浜口庄八師を指導司祭にいただくことになった。
- 11・24 長崎聖婢姉妹会の第1回宣誓式が行なわれ、無誓願修道女会から正式の在俗修道会としてスタートした。
- 11・25 レジオ長崎クリアが年次総会を飽の浦教会で開く。五島若松村大平教会にレジオマリエ「平和の元后」プレシディウムが正式認可をえて発足した。
- 11・27 鯛の浦教会かかりの船隠教会献堂式。
- 12・16 北松佐々町牟田ノ原の新聖堂祝別。
- 12・22 松永久次郎師がローマで叙階式。

《昭和32年》

- 1・6 黒島廓公の出口氏宅に「信仰発祥之地」の記念碑除幕。
- 1・15 幼児教育協議会を諫早純心幼稚園で開き、名称を「カトリック幼稚園連合」と改め、会長に梅木兵蔵師を選任した。
- 1・31 26聖人殉教聖地保存会が再発足し、大浦司教館で初会合した。
- 2・2 聖和女子学園で「善きサマリア人」修道女会創立100周年記念式が行なわれ、教皇庁公使フルステンベルク大司教が司式された。
- 2・3 城山教会に教区ではじめて電子オルガンが備えつけられ、教皇庁公使が祝別。
- 2・5 26聖人殉教 360周年記念祭。
- 2・7 八幡町あけの星幼稚園母の会が、衣類を浦上養育院に贈った。
佐世保・桜の聖母幼稚園祝別。
- 2・10 出版布教懇談会を田川栄一師を中心にセンターで開いた。
- 2・11 川棚教会で「聖処女」（ベルナデッタの歌）を上映。
- 2・17 ヨゼフ・ボア師が福岡でご逝去（宝亀・紐差で司牧されていた）。
稲佐教会青年会が幹部練成会を開いた。
- 3・3 五島楠原教会の聖鐘祝別。
- 3・7 幼稚園連合が月例研究会をセンターで開き、田川茂師（マリア会）が講議した。
- 3・10 飽の浦教会が少年団退団式を公民館で行ない、退団者を新たに青年会に編入した。
- 3・15 長崎聖婢姉妹会で22名が初誓願を大浦天主堂で行なった。
- 3・17 山口司教が教書で救霊事業に協力を説かれた。
- 3・19 教皇ピオ12世が、聖体拝領前の断食規則の緩和を拡大する教皇自発教書を発布された。
- 3・24 レジオ長崎クリアのアチェスをセンターで開いた。
- 3・29 土井浦小教区を新設定、初代主任に浜口貞一師。
- 4・8 大宰政吉師が姫路聖マリア病院でご逝去。
- 4・16 キリシタン史跡顕彰会の結成大会が県庁会議室で開かれた。会長は西岡県知事。
- 4・30 全国教区長会議でカトリック移住協議会設立準備に入る。
- 5・1 JOC浦上組会でカトリック・メーデーを行ない、労働用具の奉獻と共誦ミサ。
- 5・3 皆瀬教会祝別式。
- 5・16 聖マリア学院母の会「モニカ会」が発足した。
- 5・18 片岡吉一師が民生委員設立40年記念全国社会福祉大会（東京）で、事業功労者として表彰された。
- 5・25 原城跡で島原の乱終息 320周年の追悼ミサと記念碑除幕式。
- 5・26 浦上教会流配記念祭（生存者4名）を催し、聖劇「礎の人々」を上演。

《昭和32年》

- 5・27 西ドイツのケルン大司教ヨゼフ・フリングス枢機卿が西坂殉教地や大浦天主堂などを参詣した。
- 5・30 皆瀬教会区を新設定（俵町小教区より分離独立、初代主任マクドナルド師）。
- 6・2 稲佐教会の「海の星の聖母像」祝別。
- 6・16 東長崎教会で司教ミサが献げられ、活動開始。
日本カトリック看護協会長崎支部の打合せをセンターで開き、25名参集。連絡責任者に柿山シズエ（長大病院）を選任した。
- 6・23 南山学園にレジオ・マリエ「使徒の元后」プレシディウム（8名）が正式承認をうけて発足した。
- 6・24 司祭静修会で渋谷治師が「無洗礼幼児の運命について」講話。
- 6・30 中町教会に女子レジオ・マリエ「殉教者の元后」プレシディウム（8名）発足。
- 7・15 長崎聖婢姉妹会で第2回初誓願式が行なわれた（15名）。
- 7・20 レジオ長崎クリアが黙想会を出津教会で行ない、五島、平戸からも参加した。
- 7・21 浦上教会婦人会が長大医学部三谷教授を招いて、信愛幼稚園講堂で講演会を催し、「産児制限について」きいた。
SVP長崎中央理事会が総会をセンターで開き、「対象家庭調査カードの作製の方法」について検討した。
- 7・25 諫早・大村の大水害に、教皇より143万6千円の義捐金がおくられ、教区本部も救援（義捐金362万円余、物資243梱包など）する。
- 7・30 高島教会青年会が聖書普及運動を展開しはじめた。
カト学連全国大会（東京）に田川師と学連代表9名が参加し、「現代の危機におけるカトリック学生の責任と育成」をテーマに話し合った。
- 8・21 JOC世界大会（第1回）がローマで開かれ、87国から3万人が参集。
- 8・23 五島久賀島の「牢屋の窄」で殉教90年を記念する殉教者顕彰式が行なわれ、5百名が参列した。
- 8・25 大山教会に婦人会（40名）結成。
- 8・28 教区主催第1回公教要理コンクールが大浦の旧神学校教室で行なわれた。
- 9・8 北松連合青年会が秋季運動会を南田平で催した。
- 10・5 ローマで信徒使徒職第2回世界大会が開かれ、長崎教区からは欧州留学中の純心聖母会シスター森山、シスター山浦が出席した。
- 10・20 教区信徒使徒職第1回大会がセンターで開かれ、山口司教、司祭70名、修道者60名、小神学生50名、信徒850名が参集し、浜口庄八師「使徒職について」の講演のち、テーマ「長崎の現状と信者の使徒的使命」について議長松尾久吉、副議長井手利雄で討議した。
また、教区信徒使徒職委員会を発足させ、総指導司祭に古川重吉師、補佐に深堀栄市師を推戴し、組織図

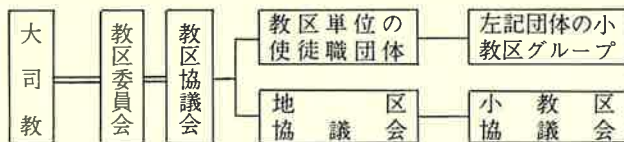
《昭和32年》

を検討・承認した。

※

※

長崎教区信徒使徒職活動の組織



- 1 教区委員会は教区総指導司祭、地区別協議会指導司祭、教区単位使徒職団体指導司祭で構成、教区全般の使徒職活動を監督指導する。
- 2 教区協議会は教区委員会構成委員と地区別協議会代表、教区単位団体代表とで構成、教区全般の使徒職活動につき連絡協議し、その推進をはかる。JOC、学連、SVP理事會、LM長崎クリア等が教区単位使徒職団体をなし、その下部組織たる小教区単位グループを構成する。
- 3 地区別協議会は小教区協議会地区連合の組織団体（連合青年會など）代表で構成、その地区共通の問題の研究、活動一般の計画調整にあたる。
- 4 小教区協議会は小教区の総ての使徒職団体、教會団体（青年會、姉妹會、婦人會など）事業団体（学校、保育所）などの代表で構成、主任司祭のもとに、随時集會して小教区全体の使徒職活動の連絡協議をする。
この組織は昭和32年10月20日の使徒職大会から発足する。

信徒使徒職・長崎大司教区協議會規約

総 則

- 1 この會は信徒使徒職長崎教区協議會と稱し、事務局をカト

リックセンターに置く。

- 2 この會は長崎教区全般の信徒使徒職活動について連絡協議し、その推進をはかる。

構 成

- 3 この會は地区協議會代表と、教区単位団体代表によって構成される。
- 4 この會には長崎大司教が任命した指導司祭をいただく。

役 員

- 5 会長1名、副会長3名、書記2名、會計1名を置く。
- 6 役員は總會で選出して指導司祭が任命し、長崎大司教の承認を受ける。
- 7 会長は會務を総理し會議の時議長となる。副会長は会長を補佐する。會長事故の時は、その内1名が會長の任務を代行する。
- 8 役員の任期は2年とする。但し重任をさまたげない。
- 9 会長、副会長、書記、會計を以て役員會を構成する。毎月1回指導司祭の臨席の下に役員會を開く。

總 會

- 10 毎年春秋二季に總會をひらく。
- 11 總會は教区委員會及び教区協議會メンバーと小教区協議會代表によって構成されるが、その他の會員もオブザーバーとして参加することができる。

大 會

- 12 原則として毎年1回信徒使徒職教区大會をひらく。
- 13 大會は全會員を以て構成される。

事 業

- 14 年4回、會報『UNIO』を発行する。
- 15 随時、講演會、文書活動、研究會、音楽會、映画會など、使徒職活動に必要な事業を行なう。

經 費

- 16 本會の經費は信者の拠金によってまかなわれる。

山口司教は、教区における教階制度の権威たる資格をもって、JOC、学連、SVP理事会、レジオ長崎クリアに教会の使徒職に参与する任務をあらためて公式に委託され、学連委員長宮川幸三が宣誓文を朗読した。

- 10・23～30 絵踏廃止100年キリシタン展が長崎市立博物館と西日本新聞共催で、浜屋で開催された。
- 11・7 出津教会建設75周年記念に、ド・ロ師を顕彰した。
- 11・9 清心幼稚園でマリア行列。
- 11・10 福江市の龍巻で信者77名が被災。山口司教は救援金50万円を急送された（豪州SVP寄託の義損金）。
- 11・17 教職員協議会が大会を純心女子短大で開き、武宮隼人師（六甲高校長）「カトリック教職員の使徒的使命について」の講演があった。
- 11・23 純心学園がバザーを催し、売上金30万円を26聖人殉教記念碑建立資金として田川長崎市長に寄託した。
長崎地区カトリック労働者大会が地区指導司祭鶴田師の招集で開催され、信者労働者各自の聖化を訴え、職場別グループの結成（三菱電機、造船、製鋼、官公庁、銀行）に努力すること、政治的かつ組合的活動の意味を含まないことを強調した。
- 11・24 潜龍教会が教会使徒職大会を開き①各種団体の結成強化、②信徒児童の教理研究の態勢を確立すること、③教会を遠ざかっている信者の調査と援助対策を協議

した。

- 12・1 西彼大島町間瀬教会祝別。
使徒職長崎地区協議会をセンターで開き、鶴田師、教会代表55名が参集して役員を選出した。会長本山初見、副会長田中要次郎、市瀬丈吉、川端近美、書記柏木稔、高橋末一、会計森山一男。テーマに「信者の聖化」を強調した。
- 12・24 諫早教会でクリスマス映画会を催し、「アヴェ・マリア」を上映。
- 12・25 飽の浦教会青年会が美術展を催す。
出津教会で各種団体共催の演芸会を催す。
- 12・26 奈留島水の浦教会を再建・祝別。

《昭和33年》

- 1・1 聖婢姉妹会が大浦天主堂下でカトリック書店を経営。
- 1・19 カトリック勤労者連盟結成準備のため代表者が中町教会に集まり規約案を検討した。
- 1・20 JOC浦上組会主催「勤労者の夕」をムルグ師を迎えて信愛幼稚園で開いた。
- 1・22 飽の浦教会にJOC組会が発足。
- 1・24 稲佐教会にJOCF（女子）組会を設立。
- 2・5 使徒職北松地区協議会（第1回）を平戸教会で開き、司祭会議推薦の役員を承認し、小教区協議会結成について協議した（潜龍教会のみが結成）。会長梅木藤吉、副会長金子松次、書記市山了三、委員松尾豊三郎、池田千松、吉永千代作、田川邦男。
26聖人殉教記念碑起工式と聖地祝別が行なわれた。
- 2・9 北松地区使徒職大会を上神崎教会で開いた。
- 2・10 使徒職佐世保地区協議会（第1回）が三浦町教会で開かれ、活動部門として①信徒の成聖の部、②結婚改善と互助会、③布教部、④生活改善部、⑤婦人部、⑥青年部（男女）を決め、会費一人につき年2円と定めた。役員として、会長杉山末吉、副会長森君光、吉浦勇四郎、石本新太郎、中村行則、田島重松、島田仙助、山口喜代太郎を選任した。
- 2・11 愛宕町教会で「ルルドの聖母出現百周年」を記念して各戸に聖母の御絵を巡回し、ロザリオなどの信心を行なうことにした。
- 2・11 五島玉の浦ルルドで100年祭を催す。
- 2・15 前鹿児島教区長出口太郎師ご逝去（17日浦上天主堂で葬儀）。
- 2・23 浦上天主堂再建について山口司教が信愛学園公民館で説明された。
長崎カトリック勤労者連盟成立を宣言し、役員に会長高橋末一、副会長藤屋五郎、森山一男を選任した。
- 3・16 レジオ長崎クリアがアチェスを中町教会で行なう。
- 3・19 松浦市御厨教会祝別。
- 4・10 五島鯛の浦伝道学校入学式（19名）。
SV P長崎中央理事会をセンターで開き、「会員全部の合意と協力の下に、最もよく会の運営と事業を行ない、会の団結をつよめる」ことについて協議した。
- 4・13 勤労者連盟（NCR）第1回大会をセンターで開いた。
伊王島馬込教会で「教会発展推進会」が発会式をした。
- 4・14 中五島地区使徒職協議会が中の浦教会で新設され、役員に会長竹内清四郎、副会長山口九十九、森下仲夫、下本島吉、書記岩本富一、会計竹内清助を選任した。
- 4・20 勤労者連盟が例会をセンターで開き、「職場におけるカトリック勤労者の使命」をテーマに討議した。
- 4・22 五島若松町大平教会祝別。
- 4・27 三浦町教会青年会（稲井恒彦会長）が毎月講演を企画し、第1回、片岡弥吉「キリシタン史のはなし」を聞いた。

- 4・29 使徒職教区協議会の結成集会をセンターで開き、山口司教、古川総指導司祭、各教区と各種団体指導司祭、地区と小教区・各種団体の代表らが参集し、役員に会長片岡弥吉、副会長本山初見、杉山末吉、書記井手利雄、吉野保、会計森山一男を選任した。また、①事務局を西中町教会におく、②教区協議会を春秋2回開く、③会報「ウニオ」を年4回発行、④今年度の活動目標を「カトリック家庭の聖化」とすることを協議決定した。
- 5・4 JOCが昨年8月ローマで開催されたJOC世界大会の映画を、出津をはじめ飽の浦、浦上、伊王島、稲佐と巡回して上映。
- 5・11 JOC浦上、稲佐、飽の浦組会が長崎駅前と大波止で機関紙「新世界」の立ち売りをした（毎月第1日曜日に行なう）。
- 5・16 純心女子学園で職員・学生1300名が聖母行列を行なった。
- 5・19 本河内教会ルルドで、聖母ご出現100周年記念の荘厳ミサを献げた。
教職員協議会CB会を南山学園で開き、家庭教育の諸問題について話し合った。
- 5・25 浦上教会が再建基金バザーを信愛学園で催した。
- 6・1 カト学連がソフトボール大会を長大経済学部グラウンドで催した。
- 6・8 稲佐教会使徒職協議会が第1回総会を開いた。
- 6・8 城山教会が聖体行列をした。
- 6・11 勤労者連盟が浦上教会で「現今の労働情勢について」座談会を開いた。
- 6・15 浦上教会が使徒職協議会第1回大会を信愛学園講堂で開き、使徒職活動の体験と活動の方法について話し合った。
大浦教会が使徒職協議会の初総会を開き、120名参集した。
- 7・6 勤労者連盟が国際文化会館講堂で「汚れなき悪戯」を上映した。
- 7・8 使徒職上五島地区協議会が大会を鯛の浦公民館で開き、「家庭の聖化」の具体的実践方法について協議し、会長に戸村村市を選任した。
- 7・9 使徒職教区協議会の役員会を中町教会で開き、「家庭の聖化」の具体的活動方針を検討、さらに会報と名簿の発行の打ち合わせをした。
- 7・13 水主町小教区を新設定、初代主任に梅木兵蔵師。
- 7・20 SVP中央理事会をセンターで開き、「家庭の聖化のためのSVP活動について」話し合った。
- 7・21 北松地区宿老会議が生月町山田教会で開かれ、31名参集した。
- 7・26 長崎市内教会から五島玉の浦ルルドに団体参詣を九州商船「藤丸」をチャーターして行なった。団長鶴田師、

《昭和33年》

490名参加。

7・27 レジオ長崎クリアが大浦教会で例会を開いた。

8・1 N B C長崎放送でカトリック番組「心のともしび」放送開始。

8・9 浦上教会で被爆13周年の平和記念日に追悼ミサを捧げ、夜に「原爆殉教者慰霊奉賛会」主催のタイムツ行列をした。

8・15 城山教会が聖母ご出現百周年記念にルルド洞窟設置。

8・23 J O C全国研究会（名古屋）に長崎教区から男21名、女11名が参加した。研究テーマは「働く青年と結婚」。

8・23～26 レジオ全国大会（京都）に5名参加。

S V P全国総会（大阪）に15名参加。

8・29 桐教会の新聖堂祝別。

9・5 川棚教会が信愛隣組を結成した。（数年前から姫路教会で始めていた隣組グループ・アクションになったもの）。

9・7 北松地区連合青年会が体育大会を紐差中学グラウンドで催した。

9・9 教皇ピオ12世ご逝去。
使徒職中五島地区協議会を中の浦教会で開いた。

9・14 使徒職長崎地区協議会が第2回例会を開き、38名出席し、「家庭の聖化」について協議した。

9・16 ピオ12世追悼ミサを大浦天主堂で献げた。

9・21 平戸口（田平町野田の焼罪の丘）の福音カミロ・コン

スタンシオ神父殉教碑祝別。

9・28 新ローマ教皇にロンカッリ枢機卿が選ばれ、ヨハネス23世と称さる。

10・4 川棚教会にJ O C F女子組会（6名）が発足。

10・5 使徒職教区協が第2回教区大会をセンターで開き、「家庭の聖化」について協議した。

10・12 黒島教会が、運動会を仏教信者も参加して催した。

10・16 上中五島伝道者養成所第5回終了式を行なう(20名)。

10・19 J O Cと勤労連が共催して、国際文化会館で「陽気なドン・カミロ」を上映した。

10・24 浦上教会にレジオ・ジュニア女子が発会式（会長市瀬初枝、9名）。

10・26 J O Cと勤労連が共催して、世界問題研修会をセンターで開いた。

下五島地区の聖母行列が三井楽町岳教会を中心に2千名の参加で行なわれた。

11・1 純心女子学園が、ルルドにおける聖母出現をテーマにした聖劇「恵みの泉」を国際文化会館で上演した。

11・3 浦上の赤城の聖職者墓地がカタコンブ式に整備され、初の死者ミサを献げた。

11・4 教皇ヨハネ23世戴冠式。

11・5 出版布教聖パウロ女子修道会（4名）が大浦教会で活動を開始した。

11・6 俵町教会が信者隣組を結成し、信者同志の親睦と信仰

の向上および布教をめざした。(皆瀬教会は1年前からスタート)

- 11・14 俵町教会にJOCF(女子)組会が発足した。
- 11・15 出津教会が「ボカチオ会」をつくって召命を祈ることにした。
- 11・17 島原の聖母診療所閉鎖(マリア・インマクラタ修道会)
- 11・22 佐世保地区使徒職協が機関誌「使徒職だより」を創刊した。
- 11・27 使徒職教区協が第2回総会を中町教会で開き32名出席、次年度の活動テーマを「家庭の聖化」の継続ときめ、指針として、①信者家庭から人の悪口、そしりなどの悪風を追放。②教報を読む運動の展開。③会合やけいこの出席を促すこととした。
- 12・6 海星学園新校舎落成・祝別式。
- 12・7 五島水の浦教会と楠原教会で聖母行列を行なう。
- 12・13 JOC長崎地方連合会を結成した。会員40名。総副指導司祭アルトウス師と総会長猪原英雄をむかえて浦上教会で式を行ない、会長吉野保、書記長大串初男を選任した。



《昭和34年》

- 1・3 植松教会が「家庭聖化」運動の達成のため、各家庭を祝別した。
- 1・4 北松地区使徒職協が幹部研修会を平戸教会で開き18名参加、「家庭聖化の実行方法」について、特に子供のしつけ方をテーマに話し合った。
- 1・5 佐世保地区連合青年会が聖歌コンクールを三浦町聖心幼稚園講堂で催し、8教会聖歌隊が出場し、第1位に三浦町教会が選ばれた。
- 1・8～11 使徒職研修会が中町教会で開かれ、浜口庄八師、深堀栄一師が講演した。
- 1・10 生月教会司牧をフランシスコ贖罪会に委託。ニューウエル師着任。
- 1・18 教職員協が第12回大会を純心女子短大で開き80名参集、田川師（マリア会）「カトリック教師の具体的理想像」の講演を聴いた。また、大会スローガンに「教職が崇高な天職たる自覚を深めよう」「教職に必要な7つの愛に徹しよう」をかかげた。
- 2・1 浦上教会使徒職協の壮年部が結成大会を開いた。JOCがセンターで社会問題研究講座を開き、渋谷治師が「マルクス主義批判」の講演をした。
- 2・12 中五島地区使徒職協議会が中の浦教会で開かれ、家庭聖化を推進する話し合いをした。
- 2・14 カト医師会がセンターで例会を開き11名参集し、「墮胎児・流産児の授洗問題」について話し合った。
- 2・15 浦上教会が使徒職大会（第2回）を信愛講堂で開き、「宗教書を読もう」「家庭から人の悪口をなくそう」という活動目標の実践について討議した。SVP長崎中央理事会が総会をセンターで開き、テーマ「対象家庭援護のための協議会間の連絡強化について」話し合った。北松地区連合青年会が第12回弁論大会を平戸小学校講堂で開き、山鹿市長、池田市議会議長も出席した。
- 2・17 パチカン放送（日本向け）開始。
- 2・24 26聖人記念碑レリーフ（船越保武作）10分の1原型ができ、検討会があった。
- 3・15 アガジアニアン枢機卿が来崎。
- 3・16 西町小教区を新設定。神言会が司牧を担当し、初代主任にウィゼン師。
- 4・1 西町教会の南山小学校開校（3年まで86名）。聖霊修道会シスターが教育を担当する。
- 4・5 入口勝師が浦上天主堂で叙階式。
- 4・6 愛宕幼稚園開園（3月27日落成）。
- 4・7 全国教区長会議で12月第1日曜日を「邦人司祭養成日」ときめ、また、聖霊降臨祭を「病者の布教日」とした。
- 4・12 レジオ長崎クリアが南山学園でアチエスを開いた。
- 4・29 天皇誕生日に全国優良社会事業施設に御下賜金がおくられ、奥浦慈恵院、鯛の浦養育院、小長井聖母の騎士園、紐差東和愛児園、神の島小百合保育園がうけた。

《昭和34年》

- 5・1 JOCと勤労連が浦上と飽の浦教会で勤労感謝のミサと勤労道具の奉献をした。
- 5・5 JOC女子部会が結成され、JOCF全国会長相良美樹子も出席した。
- 5・12 上五島地区使徒職協が聖書普及運動をおこした。
- 5・15 カトリック長崎市議員が芥種会を結成した。片山弥三郎、辻本与吉、松岡辰男、相川初一、松尾久吉の5議員。
- 5・20 使徒職教区協が総会をセンターで開き、組織変更と経費分担（1人年額1円、長崎地区はそれに1日曜日分のサイ銭を加える）を決定し、また、毎年秋に大会を開くことにした。
- 5・24 大浦教会が小教区協議会を旧神学校ホールで開き（第2回）、「家庭聖化」について話し合った。
- 5・25 長崎教区が九州の首都大司教座に昇格し、山口司教が大司教に任命された。
- 5・31 教職員協が第14回大会を純心女子短大で開き、講師にヘルヴェク師（イエズス会）を招いて「学生生徒指導の実際」について研修した。
- 6・12 聖フランシスコ会本原修道院祝別。
- 6・13 ドミニコ会9殉教者（1633～37）の列福調査が始まった。
- 6・25 吉浦勉師が平戸市京崎海岸で逝去。
- 7・1 教区統計が発表された。信者総数 78196人。SVP協議会22、会員 187名、LMプレシディウム10、ジュニア5、会員 142名、JOC男子5、会員71名、女子5、会員30名。
- 7・15 勤労連が労働組合幹部である信者との第2回懇談会を浦上教会で開き、15名参集。教会の社会政策への認識を深めるため「労働問題研究会」を毎月1回催すこととした。
- 7・19 SVP中央理事会が総会をセンターで開き、「対象家庭への文書活動」をテーマに話し合った。北松地区使徒職協が大会を平戸教会で開き、共同研究問題として聖音楽と聖典礼をとりあげた。また役員改選で会長梅木藤吉、副会長金子松次、市山了三、会計古川光夫を任命した。
- 7・26 「旅」の生き残り最後の人・西尾ハキ帰天。
- 8・15 レジオ長崎クリアを大浦教会で開く。
- 8・25 全国司祭大会が東京・上智会館で開かれた。
- 8・31 純心聖母会で30名の立誓願と着衣式。
- 9・1 小値賀町カトリック幼稚園設立。
- 9・17 五島相の浦教会が14号台風で使用不能となった。
- 9・24 レデンプトリスチン修道院祝別式（長崎市伊良林町、長崎に初の観想修道会）。
- 9・27 NHK全国唱歌コンクール長崎県大会で純心女子高校が優勝した。
- 9・28 善長谷教会で無原罪の聖母をたたえるローソク行列を

《昭和34年》

- した。
- 10・11 使徒職教区協が第3回大会をセンターで開催。浜崎数雄師が「JOCの方法による布教活動について」講演した。テーマ「カトリック的親子関係について」シンポジウムを行なう。
- 10・18 紐差教会の坊主畑部落が、布教の日に部落の使徒職大会を開いた。
- 10・24 国鉄信者の会が第3回九州ブロック大会を長崎市で開いた。
- 10・25 高島教会新聖堂が落成し献堂式。大山教会で初の信徒大会を開く。純心女子高校がNHK全国唱歌コンクール九州大会で優勝した。
- 10・26 早坂久之助司教が仙台市でご逝去。
- 11・1 浦上天主堂、フルステンベルグ大司教により聖別式。
- 11・3 片岡弥吉教授がキリシタン史で西日本文化賞を受賞した。
- 11・7 純心女子学園長江角ヤスが教育功労者として文部大臣表彰をうけた。
- 11・19 使徒職教区協が第5回総会をセンターで開く。来年度の活動指針に「家庭の教育」をとり上げ、具体的方法として「けいこによく出席して相互研修にはげむ」こととした。
- 11・22 西町教会が第2回協議総会を開き、浜口庄八師「産児制限問題」の講演をきいた。
- 12・6 レジオ長崎クリアが年次総会を城山教会で開いた。
- 12・8 純心女子学園の聖堂祝別式。
- 12・10 福江教会の松下師が五島小中学校長会で講演した。
- 12・13 飽の浦教会の新聖堂祝別式。浦上教会の使徒職協議会が旧聖堂で第2回カトリック出版物展示会を催し、また田川茂師、粕谷源蔵師が「聖書とキリシタン」をテーマに講演した。
- 12・15 小長井の聖母の騎士女子修道院で7名の終身誓願式。
- 12・20 JOC長崎地連がNHK歳末助け合い運動に協力し、浜町で街頭募金をした。
- 12・29 勤労連が第3回大会を南山学園で開き、「カトリック者と労働運動」をテーマに討議した。

《昭和35年》

- 1・3 城山教会が家庭の聖化のために「一緒に祈る家庭は円満」という年度標語をかかげて活動することにした。
- 1・15 初代広島司教に野口由松師選任さる。
伊王島大明寺教会に使徒職協議会が結成され、会長に浜口源一を選任した。
- 1・16 浦上教会が「成年の祝い」を催す。
- 1・28 使徒職教区協の役員が西町教会の家野町地区での「けいこ」を参観し、今年度指針の具体的な準備に入った。
- 2・17 中五島地区使徒職協が今年度の活動方針を決定した。
①公教要理のけいこは小教区の実情に応じて実行する、②遠洋漁業に出る漁夫の信仰生活強化、③学児の指導には反省を促すため絶えず愛をもって、④子供の家庭における躰。
- 3・6 浦上十字架山の「十字架の道」の祝別。
- 3・10 教区内公立学校のカトリック教員が「光塩会」を結成した。前川正夫、小笹村市らが中心になる。
- 3・15 川添猛師、下川英利師が桐教会で叙階式。
- 3・17 木場教会が三ツ山町ナンゴラで殉教者をしのぶ集いを催し、木場六枚板の原田善左衛門夫妻の殉教についてウラルデ師が説教した。
- 3・19 山内豊師が南田平教会で叙階式。
- 3・23 愛宕町レデンプートル会修道院落成・祝別式。
- 3・25 北松小値賀町のカトリック小値賀幼稚園祝別式（4月7日開園）。
- 3・27 レジオ長崎クリアがアチェスを稲佐教会で行なう。
浦上教会壮年会が第2回総会を開き、県文化課黒岩雄一「新生活運動とその指導」の講演を聞いた。
- 3・28 東京教区長土井辰雄大司教が枢機卿に任命された。
- 4・1 聖パウロ女子修道会が岡政デパート6階にカトリック書店を開設した。
西町小教区の南山幼稚園開設。
- 4・2 聖マリア学院に中学校開設。
- 4・10 大阪尼崎教会で「永井博士をしのぶ集い」が開かれた。
- 4・24 公立学校カトリック教員「光塩会」が第3回会合を大浦教会で開き20名参集。
- 4・30 聖母の騎士女子修道会が馬渡島聖母園で活動開始。
- 5・1 SVP中央理事会が総会を開き、「対象家庭の訪問について」話し合った。
- 5・2 浦上天主堂で永井博士10周忌の追悼ミサを献げた。
- 5・11 使徒職教区協が第5回総会をセンターで開き、「けいこによく出席し、それを相互教育の場にしよう（特に親として）」の具体化を検討した。
使徒職教区委員会（指導司祭会議）で、①ラジオ布教への信徒の協力を今年度目標に追加、②要理教授に関する問題を研究、③青少年指導上の問題の研究のため鶴田師を責任者に委員会設置を決めた。
梅木兵蔵師ご逝去。
- 5・15 浦上教会が流配記念の集いを旧聖堂で開き、「ベアト

《昭和35年》

- ス様殉教」を上演した。
- 5・19 北高・湯江小教区を新設定し、聖母の騎士会が担当。
湯江の聖フランシスコ老人ホーム祝別。
- 5・22 佐世保市相の浦教会献堂式。
教職員協が第15回大会を純心女子学園で開き、「道徳教育の実際」について広島学院長シュワイツェル師が講演し、そのテーマで討議した。
- 6・5 西町教会にSVP創設（長崎中央理事会内の25番目の協議会）
- 6・12 大浦教会JOCF組会が長崎市内キリシタン史跡めぐりを行なった。
- 6・19 教理教授委員会第1回準備委員会を城山教会で開き、小学校児童を対象とする教理教育について話し合った。
- 6・20 城山教会が聖体行列をした。
- 6・26 愛宕町教会にレジオ「絶えざる御助けの聖母」プレシディウムが発足。
- 7・1 教区統計が発表された。信者総数78,296名。使徒職団体はSVP22協議会169名。LMシニア12、112名。ジュニア5、42名。JOC男子5、51名。女子5、32名である。
- 7・11 伊王島大明寺教会の婦人会が、教会再建費の積立のため、荒地を開墾し芋・大豆を植えた。
- 7・18 北松地区使徒職協が紐差教会で大会を開き、「家庭人の教育」をテーマに討議した。
- 7・25 飽の浦教会の「ロザリオ十字軍」30名が湯江の轟峡でキャンプをした。
- 7・28 カト学連第13回全国大会（札幌）に長崎から10名が参加し、ゼミナー「日本人の宗教観とカトリシズム」を担当した。
- 8・6 SVP全国総会（横浜）に中島政利師と8名の会員が出席した。小林珍雄教授「わが国カトリックの直面する問題点」の講話をうけ、パネルディスカッションで「われら信徒に課せられた諸問題」を取り上げた。
- 8・26 レジオ全国管理機関委員会（宝塚）に西田悟会長ら4名参加。
- 8・30 純心聖母会で33名の誓願と着衣式。
- 9・1 深堀小教区を新設定、初代主任 渋谷治師。
- 9・20 青少年補導対策協議会（県）に教区代表として古川、鶴田、中島（万）、田川（栄）、山田、中島（政）、諸師が出席した。
- 9・29 レデンプトール伊良林修道院で初誓願式（2名）。
- 10・4 城山教会で「信仰を強める会」を聞いた。
- 10・12 ファチマの聖母御出現43周年百万人の信心行事で、長崎教区が徹夜の聖体礼拝を行なった。
- 10・13 大浦教会JOCF組会が県婦人少年室長安部晴恵氏を招いて、年少労働問題について講話を聞いた。
北松・田平町にド・ロ師への「謝恩移住75年記念碑」が除幕された。

- 10・17 岩永四郎師が県教育委員長に選ばれた。
- 10・18 畑田秀穂師が長大病院で逝去。
- 10・21 平松一夫師が大浦天主堂で叙階式。
教皇庁公使エンリチ大司教の公式訪問、23日浦上天主堂で教区信者歓迎式が行なわれ、前川正夫が歓迎の辞をのべた。
- 10・25 早坂司教胸像が純心学園内に完成し祝別式。
- 10・30 浦上教会と西町教会の婦人会が共同主催で聖劇会をひらき、「ベアトス様殉教」(田川正勝脚本)を上演した。
- 11・1 本原小教区を新設定。聖フランシスコ会が司牧を担当。
- 11・5 JOC長崎地連が練成会を開く。
- 11・13 愛宕町教会が小教区運動会をセンターで開き、500名参集。「家庭人の教育」をテーマに話し合った。
- 11・20 中島万利師の銀祝を浦上教会が祝った。
三浦町教会JOC組会が発起した「セシリア合唱団」(指導村岡正晴師)が佐世保市「労働音楽祭」に初出演した。
- 11・30 海星学園新校舍屋上の「海の星なる聖母像」除幕式。
- 12・4 高島教会に使徒職小教区協議会が発会式を行ない、会長に田中万作を選任した。
レジオ長崎クリアが年次総会を飽の浦教会で開き、会長の任期満了で西田悟から山本登にバトンタッチした。
- 12・5 北高湯江聖フランシスコ園老人ホーム開設。
(聖ヨゼフ会経営)
- 12・8 純心女子学園創立25周年記念式を行なう。
- 12・11 SVP中央理事会が教区総会をセンターで開き、「SVP活動の拡大強化の方法」をテーマに、①会の運営、②困難の打開、③新会員の獲得の3面から討議した。
- 12・14 使徒職教区協が第6回総会をセンターで開き、教会との密接な一致のもとに使徒職活動に励むことを確認し、来年度活動テーマを「未信者の人とより親しくし、社会の中に入り込む運動」、具体的方針「隣人にたいして先ず挨拶を」と決定した。

《昭和36年》

- 1・10 高島小教区を新設定、初代主任深堀栄市師。
- 1・14 浦上教会が成人式とフォークダンスを催した。
- 1・26 大阪聖ヨゼフ会が長崎市道の尾に修道院を建て活動開始。
- 2・5 西坂26聖人殉教地で記念施設の起工（定礎）式を行なう。
- 2・15 俵町教会に共助組合が発足。
- 2・19 SVP長崎中央理事会がセンターで総会を開き、「来年長崎で開催されるSVP全国大会について」話合う。
- 2・25 本原教会にレジオ「フランシスコ会の元后」プレシディウム設立。
JOC地方連合会総会議が浦上教会で開かれたが、日本総指導司祭アルチェス師を迎えて34名の闘士が参集した。
- 3・19 川原義和師が大浦天主堂で叙階式。
岩永静夫師が司祭銀祝。
- 3・26 レジオ長崎クリアがアチェス大浦天主堂で行なう。
長崎市内各教会青年会の幹部合同懇談会がセンターで開かれ、青年会のあり方を研究し、青年会存在の意義を問い、会への参加、出席率の向上をめざして活躍することにした。
- 4・1 使徒職教区協が信徒使徒職の歌として「日本26聖人の歌詞」を募集した。
- 4・6 平戸市中野愛児園（聖婢姉妹会経営）が開園式。
- 4・10 茂木町レデンプトール幼稚園が開園式。
長崎市道尾の百合幼稚園が開園式。
- 4・12 大村市水主町の長崎星美幼稚園が開園。
- 4・16 勤労連が浦上教会で大会を開き、「カトリック勤労者連盟の発展のためには」のテーマで討議した。
- 4・20 北高小長井村に精神薄弱児施設「みさかえの園」落成。
- 4・26 使徒職教区協が第7回総会をセンターで開き、今年度目標の「未信者の人とより親しくし社会の中に入り込む運動」の具体的活動方法を協議し、また、各小教区協議会の会則の中に「会員はできるだけ祈祷の使徒会に入会することが勧められる」という一項を必ず加えることと決められた。
- 5・1 北高小長井町みさかえの園開設（聖家族会経営）
- 5・14 西町教会がバザーと演芸大会を催した。
大浦教会が使徒職協議会総会を開き、教区目標について、特に「隣人への話しかけ運動」を協議した。
- 5・20 純心女子学園で聖母行列が行なわれた。
- 5・21 長崎市内各教会青年会の幹部懇談会第2回会合がセンターで開かれ、「カトリック青年会固有の目的は何か」を主テーマに意見の交換をした。
- 5・27 山内清海師がカナダで叙階式。
- 5・30 長崎市内カトリック事業主懇談会が高橋末一らの発起によって東洋軒で開かれた。
- 6・4 五島奈良尾町の高井旅教会祝別。

- 6・4 本原教会がマリアの山に聖体行列をした。
- 6・6 佐世保市大野の新聖堂祝別。
- 6・17 長崎市内青年会幹部懇談会第3回会合がセンターで開かれ、「青年活動をもっと魅力あるものにするにはどうしたらよいか」をテーマに討議したが、①自由に発言できる親しみある集会、②抽象的な教理研究ではなく実際問題から出発する研究会、③具体的な目的、はっきりした結果のである活動、④少人数のグループ活動を考慮、⑤堅苦しいという先入観の除去などが話題にのぼった。
- 6・25 浦上教会が使徒職協議会第4回大会を開き、「隣人に対して先ず挨拶を」をテーマに討議し、①挨拶は人からされるのを待つのではなく、自分からする心がけを失わないこと、②相手のうちに神をおもい、相手の幸福を祈りながら挨拶しようと決めた。
- 7・13 大村市星美幼稚園落成祝別式。
- 7・14 教皇ヨハネ23世の社会回勅「マーテル・エト・マジストラ」発表さる。
- 7・19 レジオマリエ使節ルーカス女史が教区内プレシディアを訪問。
- 7・23 SVP長崎中央理事会が総会を大浦教会で開き、「隣人に対して先ず挨拶を」という使徒職活動指針をSVPの活動精神にそって生かすことをテーマに話合った。
- 8・6 北松地区使徒職大会を平戸教会で開き 250名参集。本年度活動テーマについて熱心に討議したが、特に「高校生がよく挨拶するよう教育する」ことと、カトリックの親愛感を身につけてよい挨拶をするよう励むことなど具体的な実情報告が印象的であった。
- 8・8 三井楽町浜の畔に聖母保育園（聖婢姉妹会経営）開園。
- 8・9 純心女子学園が原爆16年記念に「純心学徒隊殉難の記録」を発刊。
- 8・19 JOC西日本地方研究会が南山学園で開かれ、主目標「労働環境に生きるジョシスト」として、①使命の再認識、②年少労働者を向上させる活動、③労働者の生活と問題の調査活動について話し合った。
- 8・24 五島貝津教会増改築が落成。
- 9・18 聖母の騎士神学校が火災。
- 9・19 九州カトリック医師会が大浦教会で開かれ12名が参加した。（九州カトリック医師は89名）
- 10・1 聖母の騎士修道女会がセンターで慈善バザーを行ない、「ゲェダルベの聖母」を上映した。
- 10・13 コルベ神父列福の使徒的調査が大浦天主堂で開始された。
- 10・14 浦上教会にカトリック・ボーイスカウトが結団した。「ボーイスカウト長崎第9団少年隊」（隊長村上全司以下19名）
- 10・29 使徒職教区協が第5回教区大会をセンターで開き 450名参集し、チースリク師（イエズス会）が「信徒使徒

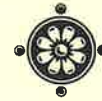
《昭和36年》

職活動と祈祷の使徒会」について講演した。

- 11・4 マリア会創立者シャミナード師生誕 200年記念のミサが浦上天主堂で総長ホーフェル師によって献げられた。
- 11・5 雲仙地獄の「殉教記念碑」祝別。
長崎信愛幼稚園創立50周年記念式（明治41年4月1日、幼きイエズス会のメール・セント・ユリア修道女が創立「清心幼稚園」、昭和7年「常清幼稚園」と改名、昭和20年原爆で、ソール・センタンヌ園長以下職員・園児 170名が爆死、昭和24年新園舎落成「信愛幼稚園」と改称して今日に至る）。
- 11・12 教職員協が第6回大会を純心女子学園で開き、渋谷治師「教師の倫理」の講演があった。
- 11・15 五島鯛の浦の上中五島伝道学校で修了証書授与式があり10名が卒業した。
- 12・3 飽の浦教会が第12回公教要理コンクールを開き、18才以下の男女145名が参加した。
- 12・10 S V P長崎中央理事会が総会をセンターで開き、「対象家庭への实际的活動」と来年夏に長崎で開催予定の全国大会における業務分担について話し合った。
浦上教会S V Pが活動状況報告をした。対象家庭36世帯。正会員11名、名誉会員20名、協力者10名、祈祷会員1名。
- 12・14 五島奈留町相の浦教会の新聖堂祝別。
- 12・16 純心女子短大附属幼稚園がクリスマス遊戯会を国際文

化会館で催した。

- 12・25 第2ヴァチカン公会議を召集する教皇勅書が発布された。



《昭和37年》

- 1・1 浦上天主堂を正式に長崎大司教座聖堂に指定、大浦天主堂は準大司教座聖堂（プロカテドラリス）として存続される。
- 1・6 大分司教区設立、初代司教に平田三郎師が選任さる。
- 1・13 浦上教会の壮年会と婦人会が共催で40名の成人式の祝いをする。
- 1・15 飽の浦教会が成人の祝いを催す。
愛宕町教会で侍者の黙想会が行なわれ、愛宕町、飽の浦、城山、西町、浦上の市内教会から50名の侍者が参加した。
- 1・20 教職員協が機関誌「塩」を創刊した。片岡弥吉「教職員協議会の歩み」、渋谷治師「教師の道德」、和田昌子「保育における生活指導のあり方」、井上康宏「信者生徒の性格について」を収録。
- 2・2 公会議を10月11日開会と布告さる。
- 2・4 俵町教会のボーイスカウト入隊式7名（佐世保第6団少年隊、森君光隊長、隊員20名）。
- 2・5 日本26聖人列聖 100年祭実行委員会（委員長古川重吉師）第1回会合が開かれ、6月10日の記念行事について話合った。
- 2・7 使徒職第8回教区総会が袋町センターで開かれ、今年度の実践目標を「隣人に愛の心を」と決め、また会費を1人単位から1戸単位に改めて1戸年額20円とし、長崎地区はこれに1日曜日分のサイ銭を加えると決定した。
- 2・20 上智大学小林珍雄教授講演会が浦上教会公民館で開催された。題は「第三の道、カトリシズム」。
- 2・22 勤労連がセンターで小林教授の講演をきいた。
- 3・9 26聖人像（舟越保武作）が高村光太郎賞を受賞した。
- 3・10 紙崎忠男師、下村徹師、村中司師、三末篤実師、峰徳美師の5師が大浦天主堂で叙階式。
- 3・11 俵町教会で共助組合（平本虎太郎理事長）が第2回総会を開いた。
- 3・18 レジオ長崎クリアが恒例のアチェスを西町教会で行なった。
SVP長崎中央理事会が総会をセンターで開き、「対象家庭に対する愛の具体的方法」「全国総会の推進について」の協議をした。
- 3・23 深堀明義師が鹿児島市山下町教会で叙階式。
- 4・1 西町教会が南山大学ゲマインダ師を招いて黙想会を開催した。
- 4・7 「旅」生残り最後の人・杉本ヤス死亡（94才）。
- 4・10 大村聖母幼稚園（カリタス修道女会経営）が開園。
木鉢小教区（主任片岡吉一師）と船越小教区（主任浜田朝松師）、稲佐小教区（主任中田武次郎師）を新設。
- 4・15 勤労連が第5回大会を浦上教会で開き 130名参集、役員改選で高橋末一を会長に再選し、勤労者連盟の意義とあり方について意見交換を行なった。

《昭和37年》

- 4・15 教職員協がCBをルドビコ神学院で行ない、「マーテル・エト・マジストラ」を輪読した。
- 4・19 城山教会青年姉妹会がミサと朝食の会（CB）を行ない120名参加。
- 4・23 佐世保地区連合婦人会（佐喜真由紀子会長）が第4回総会を三浦町教会で開き、①隣人に対して先ず挨拶を、②更に一歩すすんで愛の心をもって接する、③未信者の会合に積極的に出席する、④家庭と学校教育を推進するなど実践事項を決めた。
- 4・25 福江教会献堂式。
- 5・1 中町教会に「お告げの聖母保育園」を開設。
三浦町教会で佐世保カトリック勤労者の会「信友会」が結成された。会員70名、会長江川秀男、副会長川上一、永田光義。
- 5・5 名古屋司教区（松岡孫四郎師）、新潟司教区（伊藤庄治郎師）が設定された。
- 5・6 SVP長崎中央理事会が総会をセンターで開き、「SVP会員としての日常生活」「今夏長崎で開かれる全国総会について」をテーマに話合った。
佐世保セシリア合唱団が市制60周年と市民会館落成記念の市民音楽祭に参加して好評をえた。
- 5・14 カトリック書店「海の星」（聖婢姉妹会経営）が長崎市夫婦川町で開店。
- 5・27 26聖人の跡を慕う巡礼団が京都を出発（6月9日時津着の予定）。
- 6・8 日本26聖人列聖100年祭、大浦天主堂で荘厳ミサを献げた。
- 6・9 京都からの巡礼行進団を迎えて、時津から西坂に行列。
- 6・10 26聖人記念碑除幕式と資料館落成式、長崎公会堂でNHK解説委員室長藤瀬五郎氏の記念講演会を催す。
- 6・20 本原教会の新聖堂祝別式。
- 6・22 国鉄カトリック信者の会（NRC）が第7回全国大会を開いた。
- 6・24 浦上教会使徒職協議会（小笹村市会長）が総会を開き、「隣人に愛の実行を」のテーマで討議した。
深掘カトリック幼稚園（純心聖母会経営）園舎落成祝別式。
- 6・29 長崎市木場教会落成祝別式。
- 7・7 長崎市内小教区協議会の打ち合せ会がセンターで開かれ、使徒職大会について話合った。
- 7・15 キリシタン文化研究会が西坂資料館で長崎部会を開き、チースリック師が「イエズス会の長崎知行問題について」講演。
- 7・30 カト学連第15回全国大会（京都）に長崎から栗林会長ら10名参加、主テーマは「現代に生きる」。
- 8・4 SVP全国総会が長崎南山学園で開かれ236名が参集し、テーマ「現代社会と愛徳」について話合い、長崎市内キリシタン遺跡を巡礼した。

- 8・13 教職員協（井手利雄会長）が長崎市内キリシタン遺跡を巡礼。
- 8・19 JOC全国大会（東京）に長崎からも出席、主テーマは「社会の前進に奉仕する青年労働者」。
- 8・22 信徒使徒職のための全国司祭会議が東京で催され、松永久次郎師が出席、主テーマは「小教区とカトリック・アクション」。
- 8・27 五島玉の浦教会祝別式。
- 9・12 八幡町小教区を新設定、初代主任糸永真一師。
- 9・21 聖母の騎士小神学校の新校舎落成祝別式。
使徒職協が第9回総会をセンターで開き、来年度テーマを今年度と同じく継続することとした。
- 9・23 使徒職協が第5回教区大会を、山口大司教銀祝祝賀とあわせて開き、活動テーマ「未信者の人とより親しくし、社会に入り込む運動」を中心に、青年、壮年、婦人の3部会にわかれて討議した。
- 9・26 福江市の大火（被災 486戸、811世帯、3936人）の焼跡整理に、堂崎教会がカトリック奉仕団 179名をつくって活動した。
- 10・1 浦上教会壮年会が菊を祭壇にささげ、展示会を催す。
- 10・2 純心女子学園がカトリック教職員の黙想会を開いた。
- 10・11 第2バチカン公会議がローマ聖ペトロ大聖堂で開かれた。高位聖職者2540名、専門家 201名、カトリック外のオブザーバー8名が参加した。
- 10・11 平戸市木ヶ津の新聖堂祝別。
- 10・23 勤労連が長崎市内各教会に勤労者のミサを献げるよう依頼した。
- 11・3 神の島愛児園、平戸愛の園保育園、湯江聖フランシスコ老人ホームに御下賜金。
- 11・4 島原市今村刑場跡に十字架が建てられ祝別。
- 11・7 JOC長崎地連が日本総本部司祭アルチュス師、太田総会長を迎え2日間の練成会を浦上教会で行ない、20名参加。
- 11・8 千綿のキリシタン墓碑が県文化財に指定さる。
- 11・15 鯛の浦伝道学校卒業式（13名）。
- 11・25 レジオ長崎クリアが初の kongress（大会）を八幡町教会で開き、「マリアの御精神とレジオ」をテーマに全体討議し、さらに三分科会で「組織の充実」、「小教区におけるレジオ」、「訪問」について話合う。
- 12・2 鮑の浦教会がレジオ創立10周年を祝う。
浦上教会がクリスマス助け合い運動として「不用品市」を催し好評をえた。
- 12・8 第2バチカン公会議第1会期終る。
- 12・24 島原市白土町教会が「10円募金」運動を行なう。
- 12・25 南田平教会が「隣人に愛の心」を実践にうつすため、日曜日に麦を持ち寄り、精白して生活困窮者に送った。
- 12・27 田川伊勢松師ご逝去（66才）。

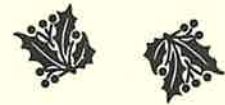
《昭和38年》

- 1・10 八幡町教会にレジオマリエ発足「あけのほしプレシディウム」(6名)。
飽の浦教会にジュニア「上智の座プレシディウム」が発会式。
- 1・15 西彼西海村横瀬浦に開港400年記念碑と鉢の子島に大十字架が建てられた。
ミサ侍者の典礼研究会が愛宕町教会で催され、中町、西町、飽の浦、神の島、八幡町、愛宕町の市内教会から少年63名が参加し、レデンプトール会クレチアン師の指導を受けた。
- 1・20 教職員協の機関誌「塩」第2号発行、フラッテン師「恩恵と教育」、浜口庄八師「カトリック的教育理念」、前川正夫「勤労青少年教育拡充への提唱」、中島ハル「イリノイ大学の宗教活動」、井上康宏「長崎キリシタン遺跡めぐり」を収録。
公立学校教職員の「光塩会」が例会を開き、岩永四郎師ら20名参集。
- 2・3 北松連合青年会が第16回弁論大会を田平町公民館で行ない、第1位に大石孝志と田川和子。
- 2・5 西坂26聖人記念碑前で、田川長崎市長も参列して大司教ミサを献げる。
- 3・3 SVP長崎中央理事会が総会をセンターで開き、「新会員の獲得と活動の刷新」をいかに実行したかについて協議した。
- 3・6 三村誠一師が植松教会で叙階式。
- 3・13 上五島町折島聖堂祝別
- 3・19 平野勇師、野下千年師が大浦天主堂で叙階式。
- 3・24 レジオ長崎クリアがアチェスを八幡町教会で行なう。
堤好治師が玉造教会で叙階式。
- 4・10 ヨハネ23世「地上に平和」回勅発布。
- 4・20 勤労連が総会を浦上教会で開き、今年度の活動の重点目標を、①カトリック社会政策の基礎研究。②職場におけるグループ活動の強化に努力することにし、役員改選で会長に本山初見、副会長山本広志、浜辺要作を選任した。
- 5・1 神の島教会の青年会発会式(石橋正一会長)。
- 5・3 勤労連が津和野乙女峠まつりに参列。
- 5・12 佐世保市鳥帽子開拓地の新聖堂落成祝別式。
福江教会で母の日に、母のための霊的花束を献げてミサに与る(4月28日父の日、5月5日子供の日も霊的花束を献ぐ)。
- 5・15 使徒職教区協議会が第10回総会をセンターで開き、役員改選で片岡弥吉を会長に再選、活動テーマは昨年度のを継続とすることにし、推進策として、①宗教書を読むこと、②精鋭の養成、③視聴覚教材の利用をすすめることにした。
- 5・19～21 日本26聖人列聖100年祭のフィナーレとして提灯行列を行なう、また、長崎市公会堂でエリザベト音楽

- 大の音楽とオペラ「地に塩となりて」を公演した。
- 6・3 第262代ローマ教皇ヨハネ23世ご逝去。
- 6・8 山口大司教がNBCテレビで故ヨハネ23世を語る。
- 6・9 大浦教会使徒職協議会（村岡会長）が大会を開き、今年度活動テーマを討議し、①人を非難しない。②丁寧な言葉を使う。③人の批判は甘んじて受ける。④CA組織の強化。⑤壮年会を組織する。⑥信者隣組組織を結成する。⑦マナーリズムの打開を結論とした。今年度会長に中島英一を選任。
- 6・10 八幡町あけのほし幼稚園で大司教をお迎えして開園10周年記念式。
- 6・13 聖母の騎士修道女会で15名の誓願と着衣式。
- 6・21 新教皇にパウロ6世戴冠。
- 6・30 新教皇の戴冠を祝い、浦上天主堂で荘厳聖体降福式を行ない、祝賀パーティには佐藤県知事、白浜代議士、鈴田助役も列席。
- 7・1 教区統計が発表され、信徒数8万350名。
- 7・13 教職員協が大村湾沿岸のキリシタン遺跡めぐりと研修を行なった。
- 7・21 SVP長崎中央理事会が総会を公教神学校で開き、テーマ「効果的な訪問について」「効果的な資金の使い方について」話合う。
- 7・28 長崎史談会が戸町金鑿谷で、金鑿治兵衛の臨地講演会を催し、片岡弥吉教授と神代雅彦が講演した。
- 8・4 SVPブロック総会が福岡市でひらかれ、長崎教区から松尾秀光、村田重光が研究発表した。レジオ長崎クリアが黙想会を神言会ルドビコ神学院で行ない、松永久次郎師が指導した。
- 8・7 聖パウロ会新修道院が中町教会に落成し祝別式。
- 8・15 北松福崎教会祝別。
- 8・16～18 教区神学生29名が長崎市大山教会で夏期練成会を行なう。
- 8・25 使徒職教区協が第7回教区大会をセンターで開き600名参集、松永久次郎師「私たちは何故使徒職活動を行なわねばならないか」の講演を聞き、壮年、婦人、青年姉妹の3部会で討議した。
- 8・26 純心聖母会で32名の誓願と着衣式。
- 9・1 大浦教会にJOC男子組会結成（5名）。
- 9・14 浦上十字会修道院の共同墓地祝別。
- 9・15 カトリック医師会（芦沢昭会長）がSVP（深堀保郎会長）と共催して出津、黒崎で無料診療を行なう。
- 9・20 第2バチカン公会議第2期会議に出席のため、山口大司教がローマに出発。
- 10・3 城山教会パーセル師名古屋に転任。
- 10・13 浦上教会が「老人の集い」を公民館で開き80名参加。
- 10・15 使徒職教区協が集会への参加状況調査のためアンケートを行なう。
- 10・25 純心短大片岡弥吉教授「浦上四番崩れ」を出版。

《昭和38年》

- 10・27 教職員協が大会を純心短大で開き 300名参集、南山大学萩野恒一教授「情意発達に応じた教育」の講演を中心に討議した。
- 11・1 浦上教会壮年会が恒例の菊の奉献と草花展示即売会を催す。
- 11・9 勤労連主催の映画の集いが国際文化会館で催され、「意義ある人生」と「フランダースの犬」を上映した。
- 11・10 大阪の浦上教会出身者が「あれの会」を宝塚教会で開いた。
- 11・17 大浦教会が島原半島のキリシタン遺跡めぐりを行なった。
- 12・4 第2バチカン公会議第2会期閉会式が聖ペトロ大聖堂で行なわれた。
- 12・8 SVP長崎中央理事会が総会を開いた。
レジオ長崎クリアが年次総会を城山教会で開いた。
鯛の浦教会ルルド洞窟祝別。
- 12・21 宮川俊行師がローマのプロパガンダ神学校聖堂で叙階式。
- 12・22 カト学連（佐藤新会長）がクリスマス助け合い募金運動を行なう。
- 12・24 三浦町教会で「聖夜の集い」を催し、未信者 100名を招いた。



《昭和39年》

- 1・4 カト学連OB・OG交歓会が西坂記念館で開かれ、創設者本島等、初代会長杉山、第4代会長芦沢ら先輩が参加した。
- 1・11 三浦町教会にSVP協議会が発足。
- 1・18 長崎地区青年連絡協議会結成（以下略して青年連協）。
- 1・18～25 信仰の一致を祈る「祈祷週間」がはじまり、山口大司教が市内の教会を巡回して祈祷会を行なった。
- 1・22 JOC長崎地連の役員会が司教館で開かれた。
- 1・24 松下佐吉師が五島教育会から教育功労者として表彰された。
- 1・29 ベルギー国王ポードワン1世夫妻が大浦天主堂でミサ拝聴した。
- 2・1 教職員協の機関誌「塩」第3号発刊。萩野恒一「精神発達に応じた教育」、川端近美「道德教育と宗教教育」、井手利雄「家野町の(はなれ)について」、井上康宏「大村湾岸の遺跡をたづねて」を収録。
- 2・16 SVP長崎中央理事会が総会をセンターで開き、管下10協議会から30名が参集し「SVP活動の新分野開拓」「受刑者とその家族の精神的援助」「少年非行の予防と補導」「貧困家庭の住居援助」をテーマに話合った。
- 2・19 使徒職教区協が第11回総会をセンターで開き60余名参集し、役員改選で副会長に本山初見、杉山末吉、赤尾宇一、会計森山一男を選任した。今年度活動テーマとして「私たちの信仰を社会に生かすよう努めよう」、具体的指針「隣人に愛の手をさしのべよう、イエズスマが望みだ」と決定し、会則の一部変更で、①小教区協議会長を総会構成員とする。②春秋2回の総会を春のみとする。③会報ウニオの発行を年4回から2回とし、④経費の拠金を1戸当り年間20円とした。
- 2・23 山頭源太郎師の司祭金祝を太田尾教会で祝う。
- 3・1 北松地区使徒職大会が開かれ、教区活動テーマを中心に、①信者であることの自覚を高める。②小さな信心活動。③社会問題にたいする理解を深める。④使徒職への認識などを話合った。また本年度役員に会長萩原与一、副会長市山了三、谷山仙太郎、書記会計田川邦夫を選任した。
- 3・18 本河内教会の新聖堂祝別式。
- 3・19 小島栄師が大浦天主堂で叙階式。
- 3・21 浜口庄八師、熊谷森一師、畑中栄松師、田川栄一師、山田勇師、田原一雄師の6師司祭銀祝。
- 4・1 大阪司教館で「高山右近列福調査」の第1回正式会議が開かれた。
- 4・5 レジオ長崎クリアが八幡町教会でアチェスを行なう。
- 4・12 SVP長崎中央理事会が総会を三浦町教会で開き、9協議会から36名参集、「対象家庭のえらび方とその問題点」をテーマに話合った。
- 4・18 勤労連が大会をセンターで開き100名参集し、今年度活動目標として、「各職場におけるグループ活動の強

《昭和39年》

- 化」をとりあげた。また、役員改選し会長に本山初見、副会長山本広志、浜辺要作、書記長深堀達雄を選任した。
- 4・25 カト学連が講演会を西坂記念館で催し、デ・ブラバンテレ師が「学生の使徒的責任について」講演した。
- 4・26 キリシタン文化研究会長崎支部会が純心短大講堂で開かれた。
- 5・1 勤労連とJOC共催の労働者のためのミサが飽の浦教会で献げられた。
- 5・16 天草本渡市でアルメイダ神父 400年記念祭があり、レリーフ像除幕。
- 5・17 みさかえの園で重度精神薄弱児収容施設定礎式が行なわれ、マリオ・カーニャ公使が列席された。
- 5・18 教皇公使カーニャ司教来崎。
- 5・24 大浦教会で日本JOC15周年記念、大浦JOC女子部5周年、男子部発足記念の祝賀パーティが催された。
- 5・25 大浦教会でプロテスタント牧師との懇談会がなされた。
- 5・31 浦上教会使徒職協議会が研修会を行ない浜崎渡師「カトリック・アクションとは何か」の講話があった。
- 6・19 聖婢姉妹会で13名の終身誓願式。
- 6・27～28 JOC長崎地連が練成・黙想会を聖マリア学院で行ない、70名が参加し、①環境の清浄化について、②ジョシストの兄弟愛について、③長崎地連の問題と今後の方針（新世界の街頭販売）などについて話合った。
- 7・17 キリシタン大名高山右近列福運動の趣意書を配布。
- 7・25～26 佐世保地区使徒職協が青年合同研修会を三浦町教会で催し、9教会から190名が参加した。岩村清太郎師「宗教と科学」、ラベル師「カトリック青年と結婚」、野下千年師「典礼における聖歌ならびに聖歌隊の役割」の講演をきき、テーマ「カトリック青年の悩み」について討論した。
- 8・3 生月町一部教会落成祝別式。
- 8・6 教皇パウロ6世「エクレジウム・スラム」回勅発布。
- 8・19 五島有川町佐野原教会祝別式。
- 8・22 浦上教会ボーイスカウトが東望浜でキャンプ訓練を行ない、30名参加。
- 8・30 使徒職教区協が第8回教区大会をセンターで開き、教区目標「私たちの信仰を社会に生かそう」と、具体的指針「隣人に愛の心を、イエズスさまがお望みだ」について壮年、婦人、青年姉妹の3部会で討議した。
- 9・3～6 カト学連がクルシリヨ（使徒職練成会）を木場教会で、アルバレス師の指導によって行ない24名が参加した。
- 9・13 カト学連が役員改選をし、委員長佐藤新、副委員長林田祥之、片岡和子を選任。平戸北松地区聖体大会が平戸教会からザビエル公園まで行なわれ、1500名が参列した。説教はパチェコ師。

- 9・14 第2バチカン公会議第3期開会。
- 9・22～23 聖フランシスコ第三会九州地区総会が三浦町教会で開かれ200名が参集し、①毎金曜日にミサに与る、②1日1善の実行、③毎月の例会に会則の祈りを共同で聖堂内で祈ることを決議した。
- 10・25 八幡町教会に使徒職協議会が結成され、会長森田義晴、副会長田崎哲夫、宮田エキを任命した。カト学連が結成記念パーティを西坂記念館で催し、28名が参加した。
- 11・8 教職員協が第18回大会を純心女子学園で開き、片岡弥吉教授「信者発見の意義について」の講演と、中島ハル「幼児の自然観察」、井上康宏「カウンセリングとその問題点」の研究発表があった。また、教職員協から分離してカトリック長崎幼稚園協会を結成する申し合せがなされた。
- 11・20 長崎カトリック青年部指導者会議が開かれ、①教会の社会政策、②カトリック・アクションと青年、③日々の生活における秘跡とミサへの参与をテーマに話し合い、一般青年の内的（質的）向上をはかるため、毎月第2日曜日に青年学習サークルを行なうことを決議した。
- 11・21 第2バチカン公会議第3会期終る。
- 11・28 第3回国際聖体大会がインドのボンベイで催され、また、アジア信徒使徒職会議も開かれた。
- 12・4 カト学連が歳末助け合い街頭募金。
- 12・6 レジオ長崎クリアが八幡町あけの星幼稚園で開かれ、140名参集。
- 12・13 JOC長崎地連が街頭募金。SVP長崎中央理事会が総会をセンターで開き、12協議会から31名が参集し、テーマ「協議会における活動障害の処理方法」について話し合った。
- 12・20 純心女子高校コーラス部が市公会堂での「歳末助け合い芸能祭」に賛助出演。カト学連が「蜂の町」の子供たちを招き、クリスマスパーティを西坂記念館で催し、子供52名、大人10名、学生30名が参加した。

《昭和40年》

- 1・1 佐世保地区キリスト教新年合同祈祷会が三浦町教会で行なわれ、200名(プロテスタント 120名)が参加した。
- 1・6 カトリック長崎幼稚園協会が結成された。会長糸永真一師、副会長浜田盛雄師、村岡正晴師。
- 1・17 神学校同窓会が飽の浦教会で開かれ、長崎公教神学校で学びながら召命をえないで社会に出た人たち14名が参集した。
- 2・11 使徒職教区協が総会をセンターで開き、40名余が参集。使徒職活動についてのアンケートを検討し、本年度活動テーマを「信者発見 100周年に当り、祖先の信仰にならおう」とし、指針「使徒的精神をたかめ秘跡と典礼に近づき、近づけよう」ときめた。
- 2・21 大浦教会が天主堂創建 100周年記念を行ない「大浦天主堂 100年史」を発行した。
- 3・1 教職員協が機関誌「塩」第4号を発刊した。井手利雄「CBについて」、井上康宏「カウンセリングとその問題点」、中島はる「幼児の自然観察について」、井上康宏「島原半島のキリシタン遺跡をたずねて」を収録。
- 3・7 SVP長崎中央理事会が総会をセンターで開き、テーマ「信者発見 100周年とSVP」について話合った。新しい典礼(ミサ)はじまる。
- 3・10~20 信者発見 100周年記念「キリシタン文化展」が、長崎市立博物館と日本26聖人記念館で開かれた。
- 3・16 三笠宮ご夫妻が西坂殉教記念館を訪問された。
- 3・16~18 信者発見 100周年記念祭がマレラ枢機卿を迎えて催され、巡礼者1万人が大浦天主堂に参詣した。記念講演、片岡弥吉「世界史の奇蹟——信者発見」、田中澄江「ゆたかな人生」が行なわれ、聖体行列は大浦天主堂から西坂まで8000人のローソク行列を従えてなされ、また記念碑として信者発見の記念碑(大浦)、サンタクララ教会の碑(大橋)、ミゼリコルジアの碑(万歳町)、帳方屋敷跡の碑(上野町)、秘密教会跡の碑を建立除幕した。
- 3・17 聖フランシスコ第三会の全国総会が、大浦教会と本河内教会で開かれ、総長バジリオ・ハイゼル師のもと340名が参集した。
- 3・23 今村留市師の司祭銀祝。
- 3・24 幼稚園協が春期例会を信愛幼稚園で開いた。
- 4・1 勤労連が役員改選し、会長本山初見、副会長中島英一、森田和男を任命した。
- 4・11 青年研修会(第4回)が西坂記念館で行なわれ、40名参加。三村師、三末師、小島師、平野師、ドワイヤ師の指導で、テーマ「キリストの神秘体について」を研修した。
- 4・15 大浦天主堂で聖木曜日の共同司式ミサ(聖香油のミサ)が献げられた。
- 4・25 キリシタン文化研究会長崎部会が、信者発見 100周年記念をかねて講演会を県立図書館講堂で催し、片岡弥

吉「ド・ロ神父と長崎」、越中哲也「禁書について」、パ
チェコ師「ザビエルの後継者コスメ・デ・トーレス」
の講演がなされた。

- 4・29 上中五島地区教え方養成所（鯛の浦）で11名の入学式。
- 5・2 第2回召命祈願の日。
- 5・5 稲佐教会設立15周年記念の野外ミサが稲佐岳でささげられ、600名参与。
- 5・11 信者発見100周年記念行事委員会が開かれ、小中学生を主体とする記念祭を8月4日開催すると決めた。
- 5・13 佐世保地区使徒職役員会議が三浦町教会で開かれ50名参集し、7月に青年合同研修会を黒島で、10月に野外聖体大会を開催すると決めた。
- 5・16 神の島教会が聖母行列を行ない、600名参列した。
- 6・6 木場教会青年会がカトリック用品販売を初めて行なう。神の島教会が使徒職大会を愛児園で開き、本年度テーマ「秘跡に近づこう」の具体的方法について意見を交わした。
- 6・13 JOC浦上組会が地連の平山会長とともに、山野炭鉱ガス爆発被災者救援資金カンパで街頭募金。八幡町教会が使徒職協議会を開き、「一致と布教」を目標に班の集会の充実をはかることにした。青年研修会（第6回）が西坂記念館で行なわれ、50名参加し、深堀栄一師、小島師を講師に、テーマ「典札と洗礼について」研修した。
- 6・20 本原教会でロメオ・コルミエ師の司祭銀祝賀会。
- 6・25 使徒職教区協が第9回教区大会の教会準備会（壮年会、青年姉妹会）を開いた。
- 6・27 浦上教会が使徒職大会（森山新三郎会長）を開き、教区テーマと「キリスト者とは神の慈悲がこの世を照す窓口である」の標語のもとに討議し、山口大司教が信者の地位と責任の自覚をさとされた。
- 6・30 キリスト教協議会主催のカトリックとプロテスタント第2回懇談会が長崎市聖公会教会で開かれた。
- 7・4 JOC長崎地連が協議会を城山教会で開き60名参集し、「JOCとは」、「ジョシストの自覚」、「研究会のあり方」について討議した。SSK信友会が船越教会で年度総会を開き、役員改選し、会長伊藤哲、副会長道下栄八、前川芳太郎を選出した。
- 7・10 永井学生センター建設の定礎式。
- 7・17 SVP長崎中央理事会が総会を聖母の騎士園で開き、テーマ「現代社会の情勢を見つめて」協議会の組織強化と訪問のあり方などを話合った。
- 7・24 佐世保地区使徒職協議会青年部主催の合同研修会が黒島で行なわれ、深堀栄一師「現代カトリック青年の生き方」の講演を中心に研修した。
- 7・30 カト学連第18回全国大会（札幌市）。
- 8・4～5 信者発見100周年子供まつりが催され、浦上天主

《昭和40年》

堂での司教荘厳ミサに5千人が参与した。南山学園で145名が要理コンクールと競書大会、ソフトボール大会を行ない、純心学園では合同リレーションとローソク聖母行列、作文コンクール表彰式が行なわれた。

- 8・19 JOC全国大会(大阪)。
- 8・22 使徒職教区協が第9回教区大会をセンターで開き600名が参集し、①秘跡に近づき、近づけよう。②司祭の増加のために祈り働こう。③聖マリアへの信心を深めよう。④教会と一致するよう努めようの4項について具体的実践例を話合った。
- 8・28 レジオ長崎クリアが黙想会を八幡町教会で行ない80名参加。使徒職推進について懇談し、未信者が自由に教会に来れるよう配慮することが話題になった。
- 8・29 カト学連が黙想会を木場教会で行ない、パチェコ師の指導で30名が参加した。
- 8・30 純心聖母会で31名の誓願・着衣式。
- 9・1 幼稚園協の秋期例会が深堀カトリック幼稚園で開かれ、幼稚園教育の体験と問題点の解決などについて話合う。
- 9・5 貝津教会に使徒職協議会が設立され、会長竹本長吉を選任した。
- 9・12 JOC長崎地連が総会を会楽園で開き、20名参集。五島中の浦教会の聖堂新装落成。
- 9・14 第2バチカン公会議第4会期開会。
- 9・30 邦人教区司祭養成後援会結成準備委員会が大司教館で

開かれ、信者発見100周年記念事業として「無原罪の聖母会」をつくり献金運動をはじめることにした。

- 9・30 ブタニ師が来崎し、浦上教会でJOC指導司祭らと懇談した。フランスのカトリック労働者連盟ACOT総指導司祭で、さきに勤労連と29日東洋軒で話し合いをした。
- 10・6 長崎市役所に信者会(80名、森田義晴会長)が組織され、勤労連の職場グループとして活動をはじめた。
- 10・7 レデンプトリスチン女子修道会で3名の誓願・着衣式。
- 10・10 佐世保地区使徒職協の青年部が、第1回ソフトボール大会を米軍基地グラウンドで催し、12教会から男女21チーム290名が参加した。
JOCF長崎地連の結成式が西坂記念館で行なわれ60名参集、会長山田ヨシ子、副会長浅田瑞代を任命。
- 10・17 教職員協が第19回大会を純心女子短大で開き、ヘルウェク師「期待される人間像」の講演を中心に討議した。
- 10・28 俵町教会にレジオマリエ「平和の元后プレシディウム」設立(9名)。
- 11・7 稲佐教会青年会主催のバザーを催し、教会建設資金にささげた。
JOCF地連三役会が大浦教会で開かれ、新年度行事計画などを協議した。
- 11・10 出津教会でド・ロ神父50年祭を行なう。
- 11・12 秩父宮妃殿下が、みさかえの園をご訪問。
- 11・22 聖フランシスコ第三会指導司祭集会在三浦町教会で開

かれ、九州地区審議会の設立、第三会の年鑑作成、平和運動の促進などを決めた。

11・23 福江教会で下五島地区のカトリック信者戦没者合同慰霊祭を行なう。

12・5 レジオ長崎クリアが総会を聖マリア幼稚園で開き 130名出席。

SVP長崎中央理事会が総会を三浦町教会で開き40名参集し、「SVPの組織拡充と強化」をテーマに話合った。

12・8 第2バチカン公会 議閉会。

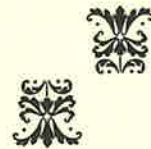
純心女子学園が創立31周年祭を催し、聖劇「サンタ・マリアのご像はどこ」を上演した。

12・12 三浦町教会がカトリック聖劇の集いを催し、菊地寛作「フランシスコの歌」、ホイヴェルス作「花見」を上演した。

12・20～24 毎日放送RKBで、信者発見 100年記念のテレビ番組「十字架とビードロ」(キリシタンと西洋文化)を制作し放送した。

永井学生センター落成 (イエズス会アギラール師)

12・23 重症心身障害児施設みさかえの園開設。



《昭和41年》

- 1・1 教皇は1月1日から5月29日までを「特別聖年」と布告された。
- 1・3 貝津教会が使徒職の集いを開き、松下佐吉師「信者の自己成聖と教養による布教」の講話があった。
- 1・5 幼稚園協が冬期例会を南山手町信愛幼稚園で開き、会長に糸永師を再選し、秋に「宗教教育の実際」のテーマで職員研修会を催すことを決めた。
- 1・6 萩原劭師が教皇パウロ6世司式で聖ペトロ大聖堂で叙階式。
- 1・15 浦上教会が使徒職協議会の役員改選をし、会長西田秀雄、副会長浜辺要作を任命した。
- 1・16 高島教会が使徒職協議会の役員改選をし、会長木戸政一、副会長道向竹松を任命した。
- 1・16 神の島教会青年会40名が愛児園児40名を連れて、湯江町聖フランシスコ老人ホームを慰問した。
勤労連・JOC・カト学連共催のキリスト労働者世界運動アジア研修会参加報告会が、県交通会館3階の青少年センターで開かれ、浜崎師、三末師が報告演説をした。120名参集。
- 1・17 植松教会使徒職協議会が弁論大会を催し、18名が熱弁を競った。
- 1・30 JOC長崎地連が第1回三役合同会議を三浦町教会で開き、地連と組会の緊密な連絡・活動の推進を話合った。
- 2・7 青年連協が理事会を大浦教会で開き、役員として会長相川友一、副会長水浦幹雄を任命し、行事予定にソフトボール大会、弁論大会、機関誌発行などを決めた。
- 2・10 使徒職教区協が総会をセンターで開き58名参集、活動報告と本年度活動テーマを昨年と同じく継続すると決め、役員改選で会長本山初見、副会長高橋末一、谷山仙太郎、赤尾卯一、会計森山一男を選任した。また、出稼子女の指導、結婚紹介、無原罪の聖母会について話合われた。
- 2・13 JOCF地連が第2回役員会を三浦町教会で開き、出稼乙女たちを教会に導くためにリスト作成をすることが決められた。
- 2・20 JOC後援会第1回総会が八幡町教会で開かれ、会長に松尾久吉が再選された。
- 3・17 浜田盛茂師、下野充義師、藤沢幾義師が本河内教会で叙階式。
- 3・19~22 永井学生センターで全九州カト学生ブロック大会が開かれ30名参集。リバス師指導のクルシリヨと分団討議がなされた。
- 3・27 八幡町教会が信徒総会を開き、「一致と布教」の実践について話合い、ミサの5分前運動、保護会の充実に努力し協力することを決めた。
- 3・28 トードス・オス・サントス教会跡と長崎甚左衛門の墓が県文化財に指定された。

- 4・2 JOC長崎地連が練成会を聖マリア学院で行ない、17名参加。

勤労連が総会を西坂記念館で開き、19グループから代表50名が参集し、役員改選で会長本山初見、副会長浜辺要作、深堀達雄、書記長吉野保を再選。グループ育成強化と「NCR便り」発行などを決めた。

- 4・10 木鉢教会に青年会(85名)が発足し、会長岩崎松治、副会長山口清、丸尾純子を選任、毎日曜日に聖書研究を行なうことにした。

- 4・23 共助組合が第2回研修会を西坂記念館で行ない、組合のある倭町、城山のほか浦上、中町、八幡町、福江の各教会から20名が参加し、上智大学ラフオント師から指導をうけた。

JOCF長崎地連が黙想会を聖マリア学院で行ない、25名参加。

- 4・24 特別聖年のため巡回司教荘巖ミサが城山教会からはじまり5月29日まで市内8教会を山口司教が巡回され、全免償を与えられる。

- 4・24 SVP長崎中央理事会が総会を西坂記念館で開き30名参集、テーマ「より新しい発展と充実のために、他の団体との連繫について」話合った。

八幡町教会の小中高「保護者会」が春期総会を開き40名参集。先生方を交えて、子供の学校生活と教理勉強の関連について話合った。

- 5・1 浦上教会でカブ・スカウト結成式(指導者村上全司)。

- 5・2～5 クルシリヨ(第1回)が永井学生センターで行なわれ25名参加。講師に宝塚市御受難会ウォード師と東京教区の3師、一般信徒の講師として大阪、東京、前橋、熊本から6名が参加した。

- 5・3 紐差修道院新築落成式。

- 5・15 青年連協が会報を発刊。

- 5・22 キリシタン文化研究会長崎部会(第5回)が西坂記念館で開かれ、上智大学尾原悟師「キリシタンと自然科学」講演と、パチェコ師「西彼半島のキリシタン史」、長崎大学石井泰義教授「外海の地形的特性」の研究発表があった。

- 5・22～28 公会議研修講座が西坂記念館で開講され、山口大司教、ラプラント師、アギラール師、糸永師、松永師、デ・ブラバンデレ師が講義した。

- 5・24 南山小学校と幼稚園が聖母行列。

- 6・1 曾根教会の新聖堂起工式。
大瀬戸町西彼純心幼稚園が開園。

- 6・4 JOC後援会が理事会を八幡町教会で開き、会員増加計画や現役ジョシストの活動の認識および交流の問題を話合った。

- 6・5 教区に聖職者布教連盟を設立(略称UMC)。

- 6・15 水主町教会の信友会(20名)が三村誠一師を招いて「公会議と信徒」の講話を聞く会を開いた。

《昭和41年》

- 6・18 三浦町教会のJOCFが2組会に発展し、また、JOC組会25名が黙想会を開いた。
- 6・19 三ツ山教会が父の日を祝いプレゼントを贈った。愛宕町レデンプトール幼稚園もリズム劇や歌で祝った。浦上教会使徒職協議会が第8回総会を開き180名参集し、朝長助教授の講演を聞き、「平和のマリア像」安置15周年記念祭を行なった。
- 6・23 医師会が支部例会をフランススコ病院で開いた。
- 6・25 佐世保地区連合婦人会が総会を三浦町教会の聖心の家で開き20名参集。会長に杉山を選出し、「故郷の便り」を発刊して離郷者に送ることなどを話合った。
- 6・26 JOC長崎地連が総会を西坂記念館で開き、役員改選で会長平山敏郎、副会長水浦幹雄を選任した。
- 6・29 教区大神学生26名が出津教会で第1回練成会を開いた。
- 7・2 JOCF長崎地連が練成会を八幡町あけの星幼稚園で開き50名参集し、「環境へキリストの愛を」のテーマで話合った。
- 7・4 浜串教会の新聖堂祝別式。
- 7・10 南山大学自動車部キャラバン隊が南山学園に宿泊して施設慰問をした。
- 7・13 純心女子短大の全学生225名が渋谷師の指導で修養会をひらいた。
- 7・22～25 南山中学のカトリック生徒が修練会を行なった。
- 7・30 SVP全国総会(名古屋)に山口大司教、中島政利師、会員9名が参加した。
- 7・30 佐世保地区カトリック青年合同研修会(第3回)が三浦町教会で行なわれ、9小教区から200名の男女が参集し、ガイヤー師「男女の交際について」、山田勇師「離郷青年の信仰生活について」の講演を聞き、4部会に分かれて「使徒職における青年の役割」をテーマに討論した。
- 7・31 飽の浦教会使徒職協議会が大会を親愛園で開いた。
- 8・1～3 幼稚園協が一般職員の黙想会を佐世保市鹿子前の九十九島荘で行ない、深堀敏師(福岡)が指導された。
- 8・4 浦上教会で上智大学棚町健之助師が離郷信者の実態調査をはじめた。
- 8・10 川棚教会と司祭館祝別式。
- 8・12 三浦町教会JOC組会が映画「偉大な生涯の物語」の感想発表会を行なった。
- 8・13 俵町教会(ガイヤー師)がお盆にあわせた慰霊祭を行なった。
- 8・14 コルベ師25周忌記念に聖母の騎士新印刷所設置。
- 8・16～17 教職員協が天草キリシタン遺跡めぐりをした。
- 8・20 レジオ長崎クリアが黙想会を島原市聖和幼稚園で行ない、山内清海師(サンスルピス大神)が指導された。
- 8・21 浦上教会青年姉妹会が弁論大会を催す。
- 8・22 使徒職教区協が第10回教区大会を聖和女子学園で開き1200名参集、教区テーマ「祖先の信仰にならおう」指

針「使徒的精神をたかめ、秘跡に近づき、近づけよう」を中心に討議、壮年部会では地域社会との融合促進、婦人部会では離郷者の信仰対策が取りあげられた。また全体討議では神学校援助の促進と離郷者リスト作成の意見があった。

- 8・29 純心聖母修道会で36名の着衣誓願式。
- 9・1 公教神学校長に深堀栄市師が就任された。スクート会委託期限が切れ、ベック師ら10年間の小神学生教育に幕。
幼稚園協が例会を俵町桜の聖母幼稚園で開き、中村清子「カトリック幼稚園の問題点」について講話を聞き、11月全職員研修会を行なうことを決めた。
- 9・10 JOC・JOCF長崎地連が「働く青年合同集会」を大村市野岳湖畔で行ない、非カトリック者50名を含む200名参集。
- 9・11 八幡町教会が小教区創設4周年を記念して臨時信者総会を開いた。
- 9・12 飽の浦教会と浅子教会の青年交歓会が飽の浦で行なわれた。
- 9・14 聖婢姉妹会十字修道院と付属聖堂祝別式。
- 9・15 貝津教会で青年の集い発足を記念してソフトボール大会が催された。
- 9・17 南山・海星・純心女子の3学園「カトリック職員の集い」が開かれ30名参加し、親睦と会の活動について意

見を交わし毎月のCBへの出席を求め、集いを年3回、会場もち廻りで開くことを申し合せた。

- 9・22～25 クルシリヨ（第2回）が南山学園で行なわれ、38名参加。指導ウォード師、事務局長佐藤哲夫師。
- 9・25 外海町池島愛児園祝別式。
長崎市内カトリック青年合同練成会が浦上信愛幼稚園で行なわれ220名参加し、野下師、松尾久吉が講話した。
- 10・4 本河内教会でコルベ師を追想する会がひらかれ、山口大司教「思い出話」、田北耕也「コルベ神父に学ぶ——土着と超越」の講演があった。
永井学生センターで上智大学フーリッシュ博士「人間の起源と進化論」の講演会があった。
- 10・10 平戸北松地区連合婦人会結成式が平戸愛の園保育園で行なわれ、16団体から40名出席、会則を審議可決し、役員に会長谷口アイ、副会長松永ヨネ、山田ハツを選任した。
- 10・13 カトリック医学生の集い（第2回）が浦上教会で開かれ15名参集。
- 10・16 公会議研修講座がセンターで開講された。（11月15日まで9回）。
- 10・19 長崎司祭同好会（35名）が雲仙で研修会を開き、平田司教とラベル師が講話をした。
- 10・30 浦上教会司祭館落成祝別式。

《昭和41年》

- 10・30 俵町教会でレジオ黙想会があり60名参加。
八幡町教会が特別聖年行事として司教座聖堂に団体参詣した。
- 11・1 聖ルドビコ神学院開設10周年祝賀。
- 11・6 教職員協が第20回大会を純心女子学園で開き、梶川宏師「キリストの秘義に生きる教師としてのキリスト者」の講演、深堀勝「生徒指導におけるカウンセリングのあり方」の研究発表があった。
勤労連が「家族ぐるみの野外ミサと体育会」を南山学園で催す。
- 11・8 上中五島地区伝道学校第10回終了式で12名が卒業。
- 11・22 聖フランシスコ第三会指導司祭会議（第3回）が三浦町教会で開かれ、鈴田牢跡に十字架を建てることなどを決めた。
- 11・26 水主町教会と植松教会の有志が水主町に集まって日本205福者列福100周年の崇敬行事について話合った。
- 12・3 長崎学生奉仕会（中尾宏会長）がYMCA、YWCA、カト学連によびかけ「みさかえの園」のため街頭募金をした。
上五島曾根教会祝別式。
- 12・4 SVP長崎中央理事会が総会を開き12協議会から22名が参集。「離郷者の信仰生活を維持するための方法」について協議し、名簿作製、移住先教会との連絡などの方法をとることを決めた。
- 12・7 聖婢姉妹修道会で28名の誓願式。
- 12・8 平戸大佐志教会増築落成式。
- 12・11 レジオ長崎クリアが年次総会を浦上教会で開いた。
三浦町教会で司教館建設基金バザーを催す。
- 12・16 山口武師、阿野武仁師がローマで叙階式。
- 12・20 教職員協が機関誌「塩」第5号発行。梶川宏師「キリストの秘義に生きる教育者としてのキリスト者」、ヘルウェク師「期待される人間像」、深堀勝「生徒指導におけるカウンセリングのあり方」、井上康宏「天草めぐり」を収録。
- 12・25 永井学生センターで学生のためのクリスマスの集いを催す。
- 12・26 JOC・JOCF長崎地連がクリスマス歌の集いを西坂記念館で催し、サンスルピス大神のピタンテス・ポーニ四重奏団が好評をえた。
- 12・27 稲佐教会に新しくJOCF組会が発足した（7名）。

《昭和42年》

- 1・1 教区広報委員会発足。
- 1・4 純心聖母修道会で5名の着衣、誓願式。
- 1・10～13 聖婢姉妹会が浦上十字会でクルシリヨ方式の共励会を行なった。
- 1・15 北松連合青年会（田村洋会長）が文化祭を平戸愛の園幼稚園で催す。
- 1・16 教区要理教育研究会が第1回集会を浦上教会で開いた。長崎青年連協の役員任命式が西坂記念館で行なわれた。会長水浦幹雄、副会長相川友一、丸尾純子。
- 1・19 曾根教会の新聖堂祝別式。
- 1・25 使徒職教区協が代表者総会を西坂記念館で開き、活動報告をうけた。レジオマリエ 22 プレシディア・228名、JOC 12 組会・95名、SVP 13協議会と報告された。また、本年度活動テーマを昨年度と同じく継続すること、出かせぎ者救援を強力に推進することを決めた。
- 1・29 鮑の浦教会青年会の水の浦支部が、県外就職の青年を励ます会を催した。
- 2・8 教区司牧委員会を設置（典礼委員会もかねる）。
- 2・12 青年連協が「カトリック青年の主張大会」を国際文化会館で催した。
- 2・26 佐世保地区使徒職協が「コーラスと講演会」を市公会堂で催し、松居桃楼（アリの町）「アリの街の苦しみと喜び」の講演があった。
- 3・1 大司教教書「信徒使徒職について」が出された。聖婢姉妹会で10名の初誓願式。
- 3・12 稲佐教会が使徒職協議会を開き、①家庭祭壇の美化、聖水の配備。②公教要理の研究とメダイのはい用。③地区研究会の開催などを決め、新役員に会長鳥巢善三、副会長奥浦秀雄を任命した。
- 3・16 川上忠秋師、片岡久司師、古川武信師が大浦天主堂で叙階式。
- 3・19 浦上教会聖母姉妹会が総会を公民館で開き、行事予定をきめ、新役員に会長山口ヤス子、副会長丸尾愛子を選任した。
- 3・21 青年連協が理事会を開き、年間行事として4月リーダー修養会、6月合同練成会、10月ソフトボール大会などを決めた。
- 3・27 聖母の騎士修道会で14名の着衣、誓願式。
- 3・28 出津愛児園の新園舎落成式。
- 3・29 聖母の騎士修道女会で12名の終身誓願式。
- 3・30 教区司牧委員会第1回会合で設置趣旨などを確認した。
- 4・1 長崎市辻町に海の星保育園（聖婢姉妹会経営）が開園。勤労連が新役員選出。会長川原光次、副会長深堀達雄、山田熊一、書記長青木孝二。
- 4・8 宝亀保育園（紐差修道院経営）が開園。
- 4・16 長崎地区広報懇談会が西坂記念館で開かれた。鮑の浦教会が使徒職総会を開き、新役員を選出し会長

《昭和42年》

高橋末一、副会長柴田繁久、中の瀬フジエを任命した。

- 4・17 浦上教会でA B C C主催の追悼ミサが献げられた。原爆傷害調査委員会で解剖されたカトリック信者42名の冥福を祈る。
- 4・25 西有馬町の原城跡で天草四郎 330年祭が催され、司教ミサと片岡弥吉教授の講演が行なわれた。
- 4・29 青年連協が青年リーダー修養会をレデンプトール茂木幼稚園で行なった。
大瀬戸教会落成祝別式。
- 5・1 長崎市新戸町にロザリオ保育園が開園。
- 5・4 聖マリア学院体育館落成式。
- 5・4～7 クルシリヨ（男子第3回）が純心女子学園で行なわれ、23名参加。
- 5・7 西木場教会が使徒職大会を開き、130名参集、出稼者の指導の徹底、神学校援助の推進などを決め、会長に福川徳一を選任。
- 5・8 北松地区連合婦人会が第3回協議会を平戸伝道館で開き26名参集、聖体拝領デーを毎月第1日曜日とすること、「礼儀正しい家庭づくり」運動を展開・指導することを活動目標にきめ、本年度役員に会長山内はつ、副会長古川こと、松永よねを選任した。
- 5・10 第1回カテキスタ研修会が聖マリア学院で開かれ、「要理教育の現状と将来」をテーマに講話や座談会を行なった。講師は浜口庄八師、平山高明師、シスター川崎

敏子、山頭亀一。

- 5・12 J O Cが「総指導司祭杉田師をかこむ会」を西坂記念館で行ない40名参集。
財団法人日本明星育英会が文部大臣から設置認可された。離島のカトリック少年の高校進学援助の奨学金貸与をする。
- 5・14 大浦教会に青年会結成（大林久雄会長）。
- 5・18 医師会が例会をフランススコ病院で開き25名参集。
- 6・10 J O C F長崎地連が練成会を八幡町あけの星幼稚園で行ない50名参加。22名の新しいバッチ受章者が生まれた。
- 6・14 聖母の騎士修道女会で17名の着衣・初誓願式。
勤労連が役員会を西坂記念館で開き、社会問題研究会を毎月1回行なうことを決め、テキストに「現代世界憲章」をとりあげた。
- 6・18 浦上教会が第9回使徒職大会を開き270名参集し、「カトリック・アクションの根本精神について」のテーマで話合った。
- 6・20 純心短大片岡弥吉教授「踏絵」（禁教の歴史）を出版。
- 6・25 広報担当者懇談会を上中五島、北松、佐世保の3地区で行なった。
- 6・28 青年連協が練成会を聖マリア学院体育館で行ない270名参集し、深堀敏師（福岡）「現代世界とカトリック教会」、松永久次郎師「結婚についての現代教会の教え」

の講演を聞き、テーマ「公会議後の教会の動きを認識し、現代社会に対処しよう」と話合った。

- 6・29 「信仰の年」はじまる。
- 6・30 教区大神学生が第2回夏期練成会を島原で行なった。
- 7・2 西町教会が教会建設募金バザーを催した。
- 7・5 聖婢姉妹会で21名の終身誓願式。
- 7・25 生月町山田教会の聖鐘祝別と鐘楼落成式。
- 7・31 北松地区連合顧問会が例会を田平教会で開き50名参集し、ミサ謝礼問題、教会予算、司祭の生活援助問題について研究討議した。
- 8・1 JOCF長崎地連が役員改選し、会長浅田瑞代、副会長井芹征子、書記長山田ヨシ子を選任した。
- 8・5 勤労連が練成会を公教神学校で行ない、糸永師「神の理想」、浜崎師「労働の価値」、広瀬方人「環境」、川原光次「指導者」の話を中心にミーティング方式をとった。
- 8・10 鹿町に褥崎小教区を新設定、初代主任に今村留市師。平戸教会が使徒職大会を愛の園保育所で開き100名出席。
- 8・15 教区要理教育研究会が機関誌「要理教育」を創刊。
- 8・16 教職員協が平戸史跡めぐりを行ない、平戸市の高校生との話合いもした。
- 8・17 八幡町教会の中学生12名が出津教会の中学生黙想会に参加した。
- 8・20 北松地区青年対抗ソフトボール大会が平戸市田助小学

校で催された。

- 8・27 使徒職教区協が第11回教区大会を大村市民会館で開き、374名が参集。糸永真一師「青少年のキリスト教教育」について講演があり、祖先の信仰にならうため「殉教遺跡の保存顕彰」が提案され、また、大村市長大村純毅氏があいさつされた。幼稚園協が幼児教育者の黙想会を県立ユースホテルで行ない、山内清海師の指導をうけた。
- 8・28 純心聖母会で32名の着衣と初誓願式。
- 8・30 青砂浦修道院新築落成式。
- 9・2 JOC長崎地連が「働く青年の大集会」を大村市野岳湖畔で催し250名が参加。早朝野外ミサ、キャンプファイヤー、ミーティングで結婚について話合う。
- 9・9 社会福祉法人「聖家族会」が貧困家庭更生のため建てた「みさかえ住宅」落成（長崎市梁川町、鉄筋5階、16世帯）。浦上教会に共助組合設立（33名）。
- 9・10 黒崎教会が使徒職大会報告会を開いた。
- 9・13 JOC後援会長崎支部が聖書研究会を西坂記念館で行なう。
- 9・14～17 クルシリヨ（男子第4回）が八幡町教会で行なわれ23名参加。
- 9・24 飽の浦教会壮年会主催の少年ソフトボール大会が催された。

《昭和42年》

- 9・29 南山学園ユリウス・ホルツア師の司祭金祝をフランシスコ病院聖堂で祝う。
- 10・1 JOC後援会長崎支部員がみさかえの園を慰問。
- 10・4～10 教皇大使ブステンベルグ大司教が長崎巡視。
純心聖母会経営「恵の丘」老人ホーム職員宿舍落成。
- 10・8 205福者列福 100周年記念式が大村市公会堂で行なわれ、鈴田牢の碑祝別と放虎原刑場跡の記念碑起工式も行なわれた。
キリシタン文化講演会が県立図書館で行なわれ、片岡弥吉教授「長崎の岬の文化的意義について」、パチェコ師「キリシタン時代の知識人」の講演があった。
高島教会使徒職協議会が、信仰の一致と協力の精神を深めるため運動会を催す。
- 10・10 サンスルピス大神卒の司祭合同研修会が福岡県二日市で行なわれた。
- 10・15 中町教会婦人会（村中昭子会長）54名が湯江のフランシスコ老人ホームとみさかえの園を慰問した。
- 10・18 檮崎教会の新聖堂落成祝別式。
- 10・22 飽の浦教会がロザリオの月の行事として、岳のルルドに団体巡礼した。
- 10・29 教職員協が第21回大会を純心女子学園で開き、ヘルウェク師「道德教育の実際について」の講演と平元稔弘「生徒指導について」の研究発表があった。
- 10・30 海星学園創立75周年記念式と大体育館落成式。
- 11・3 幼稚園協会が第3回教師研修会を聖マリア学院体育館で行ない、広島大学心理学講師小出哲夫師の指導講話があった。
- 11・10 レジオ長崎クリアが kongress（大会）を八幡町教会で開き90名参集し、恩恵の生活、キリストの証人、典礼の生活、レジオと使徒職の4分科会で討議した。
- 11・11 JOC浦上組会（野口会長）20名が「干害農家救援」のため街頭募金。
- 11・12 三井楽町岳の聖母保育園で火災。
飽の浦教会青年会30名が浦上養育院で1日兄弟の奉仕をした。
- 11・12～15 韓国カトリック児童芸術団「小さな星」が、佐世保市民会館と長崎国際文化会館で公演。
- 11・14 浦上教会で物故出身司祭の追悼ミサを献ぐ。
- 11・19 平戸教会が勤労者連盟結成の準備委員会（8名）を開く。
青年連協がソフトボール大会を湊中グラウンドで開き、200名参加。西町教会チームが優勝した。
- 11・22 勤労連が西坂記念聖堂で勤労感謝の前夜ミサと、ホールで「パウロ6世教皇の国連への旅」を観映した。
- 11・26 城山教会青年姉妹会が練成会を聖マリア学院で行ない21名が参加し、片山弥三郎「将来よき夫、よき妻になるために必要な準備」の講演を聞いた。
- 11・28 純心聖母会で17名の着衣・誓願式。
- 12・12 教報執筆者懇談会が東洋軒で開かれ12名が参集した。

《昭和42年》

- 12・12 「信仰の年」座談会が大司教館で行なわれ、教育による信仰の再確認と高揚について意見交換をした。出席者は山口大司教、糸永師、川原師、高橋末一、西田秀雄、井手利雄、川原光次。
- 12・17 青年連協がクリスマス・メザテーションを自治会館ホールで催す。
- 12・20 聖婢姉妹会修道女たちが「童話集」を発刊。
- 12・25 平戸教会がクリスマスに平戸市長ら知名士を招待した。
- 12・28 聖婢姉妹会が本部修道院で保母黙想会を行なった。指導司祭は糸永師、畑原師（福岡）であった。



《昭和43年》

- 1・2 浦上教会が正月帰省の県外就職者対策懇談会を公民館で開き、30名参加した。
- 1・13 南山学園新体育館落成式。
- 1・17 神学校特別援助「無原罪の聖母会」の長崎市内小教区世話人懇談会が大司教館で開かれた。
- 1・18 大浦天主堂で教会一致への道を求めて「キリスト教合同祈祷会」が行なわれ、40名の神父・牧師らが参加した。
- 1・20 教職員協の機関誌「塩」第6号発刊。ヘルウェク師「道德教育の実際について」、井手利雄「使徒職の一断面」、平元稔弘「生徒指導に関するアンケート報告」、井上康宏「平戸島めぐり」を収録。
- 1・21 平戸市大佐志教会の増改築落成。
- 1・28 JOC後援会が総会を西坂記念館で開き、会長に松尾久吉を再選し、聖書研究会を続けることにした。
- 1・31 使徒職教区協が総会を西坂記念館で開き、役員改選で会長本山初見、副会長高橋末一、金子松次、赤尾卯一を再選し、本年度テーマも4年連続「祖先の信仰にならおう」と決め、また会費を長崎地区一世帯60円、その他の地区40円とした。この総会では離郷者対策と要理教育の推進が討議の中心となった。
- 2・10 松岡司教（名古屋教区）、平田善次師（蔭の尾教会）の司祭金祝。
- 2・11 クルシリヨ経験者の集いウルトレアが西坂記念館で開かれ35名参集し、体験後の生活などを話合う。
- 2・18 教区修道女研修会（第2回）がレデンプトリスチン修道院で行なわれ、70名の修道女が参加し、「典礼憲章」を中心に霊的指導をうけた。
浦上教会青年姉妹会員50名が十字架山の大清掃をした。本原教会で青年要理研究会（第1回）が行なわれ31名参加した。
- 2・25 聖婢姉妹会で16名の誓願式。
- 3・3 福江教会が中卒者送別激励会を行ない34名出席した。
- 3・10 教区修道女研修会（第3回）が、レデンプトリスチン修道院で行なわれ50名参加した。
黒崎教会が使徒職総会を開き、役員改選で会長山本松男、副会長平野セイを選任し、葬祭年忌の精神について話し合い、主日の労働献金の増額と会費一戸当り年額100円と決めた。
- 3・14 西彼中浦ジュリアノ生地が県史跡に指定された。
- 3・15 大曾教会が第1回小教区宿老会議を開き、巡回教会との相互協力を話合った。
- 3・17 西田忠師の司祭銀祝。
- 3・19 佐世保市大野小教区を新設、初代主任に畑中栄松師。浜崎靖彦師、長谷功師、川口清師が大浦天主堂で叙階式。
- 3・20 レデンプトリスチン女子修道院で「召し出し研究会」が行なわれた。

《昭和43年》

- 3・24 八幡町教会が信徒総会を開き、今年度目標に「キリストを知るために、みんなで勉強しよう」と決め、要理研究会を行なうことにした。
- 3・27 聖母の騎士会で4名の着衣・誓願式。なお修練院は東京に移転した。
- 3・28～31 全九州カトリック高校生長崎巡礼に950名が参加し、時津から西坂まで巡礼行脚し、会場の南山学園体育館でパチェコ師「殉教者と現代」、片岡弥吉教授「明治時代のキリシタン」の講演があった。
- 4・17 勤労連が第11回大会を西坂記念館で開き29名参集し、「心のともしび」配布で直接布教活動にのり出すことを決めた。
三ツ山の「恵の丘」老人ホーム落成式。
- 4・20 佐世保地区青年部が大野町中村邸でリーダー練成会を行ない、川口師「使徒職と青年の役割」の講演を聞いた。
- 4・21 三浦町教会の青年部が発足（部長山口英明）。
教区広報担当者会議が西坂記念館で開かれ25名参集し、「カトリック教報」の充実への協力を求め、広報の日を意義あるものとするよう話合われた。
- 4・23 下五島浦頭に新聖堂落成。
- 4・27 青年連協が青年リーダー修養会（第2回）を神の島保育園で行ない30名参加し、坂谷豊光師「マスコミと布教」の講演を聞いた。
- 4・29 北松地区連合顧問会が総会を西木場教会で開き、司祭8名、顧問44名が参集し、教会の第6の掟（維持費）について研究討議した。
- 5・2～5 クルシリヨ（男子第5回）を純心女子学園で行ない34名参加。
- 5・3 島根県津和野町乙女峠で浦上信徒流配100年記念碑除幕。
- 5・5 高島教会が使徒職総会を開く。
- 5・8 南田平教会建設50年祭に記念碑除幕。
- 5・10 五島奥浦慈恵院新館落成祝別式。
浦頭教会祝別式
桐教会の新司祭館落成。
- 5・12 大村市松並町の殉教者獄門所跡に「平和の母なる聖母」像建立。
- 5・14～16 教区要理教育研究会が第2回カテキスタ研究会を聖マリア学院で行ない160名参加した。講師にゲマインダ師、岩村清太郎師、シスター菊地を迎えた。
- 5・19 浦上信徒流配100年記念行事合同委員会（浦上、本原、城山、西町教会）が浦上教会で開かれ、講演会、聖劇会、展示会、子供行事などを決めた。
- 5・20 西日本司祭研修会が福岡市「黙想の家」で行なわれ、長崎から10師参加。
- 5・23 長崎の5小神学校親睦会が南山学園体育館で行なわれ、250名の小神学生らが参集し、弁論会や聖歌、演劇がなされた。

《昭和43年》

- 5・26 大浦教会が使徒職総会を開き 110名参集し、家庭で聖書に親しむこと、カトリック紙誌を読む運動について意見を交換した。
平戸教会で教区として初の「共同司式ミサ」が献げられた。
- 6・8 日本カトリック医療4協会が熊本市市民会館で開かれ、長崎から浜口庄八師、秋月会長ら医師・看護婦8名が出席した。
- 6・9 平戸教会で勤労者連盟結成会(田中清太郎会長、40名)があった。
- 6・15 青年連協の主催で、アメリカ「少年の町合唱団」の公演を市公会堂で催した。
- 6・18 上中五島地区広報担当者懇談会が鯛の浦教会で開かれた。
- 6・23 浦上教会が第9回使徒職大会を開き 300名参集し、パネル方式で「家庭は信仰の苗床」、「社会は信仰実践の場」をテーマに話合った。
- 6・29 JOCF長崎地連が第3回練成会を聖母の騎士幼稚園で行ない42名参加、「くらしの中に生きた信仰を」、「青年労働者を通してキリストのお望みを」をテーマに討議した。
教区大神学生が第3回練成会を黒島で行なった。
- 6・30 「信仰の年」を閉じる聖体礼拝が浦上天主堂で行なわれた。
- 7・6 鮑の浦教会青年会が県大村研修所で1泊修養会を開き、教会憲章の研究などをした。
- 7・8 浦上教会に典礼委員会が発足し、第1回会合でミサの意味を信者に啓蒙するためのパンフレット作成などを決めた。
- 7・9 北松地区広報担当者懇談会が平戸口教会で開かれた。
- 7・18 北松地区使徒職協議会が平戸口教会で開かれ、新役員を選出した。会長田中清太郎、副会長堤徳衛、松永金次郎。
- 7・20 佐世保地区青年合同研修会(第5回)が聖和女子学院で行なわれ、150名参加した。講師に田川栄一師、竹山勇師を迎えた。
- 7・24 聖婢姉妹会で9名の終身誓願式。
- 7・25 マリア会員セレスト・ランバク先生の記念碑が長崎大学経済学部に建立除幕。
- 7・28 レアンプトリスチン修道院で8名の誓願式。
青年連協(相川友一会長)が第3回練成会を純心女子学園で行ない 200名参加し、片岡弥吉教授「祖先の信仰と私たちの信仰」の講演を聞き、10部会にわかれて話合った。
- 8・2 カト学連全国大会(福島市)に長崎から11名参加。
- 8・3 SVP全国総会(横浜市)に長崎から12名参加。
浦上教会青年姉妹会が練成会を西木場教会で行ない45名参加。

- 8・5～7 侍者の集いが西町教会で開かれ西町、本原、浦上教会の侍者40名が参加。
- 8・7 浦上教会婦人会がシスター菊地を招いて講演会を催し、「現代におけるカトリック信者のあり方」について聞いた。
- 8・8 下五島地区少年親睦ソフトボール大会が三井楽町高崎鼻で催され、500名参加した。岳チームが優勝。
- 8・11 中町教会が使徒職大会を開き100名参集し、教区大会への準備討議をした。
- 8・13 俵町教会がお盆に第3回慰霊祭を行なった。
- 8・15 大村市放虎原殉教地「斬罪所跡」に顕彰碑の定礎式。
- 8・17～19 カト学連が高校生黙想会を永井学生センターで行なう。
- 8・18 北松地区連合青年会が第6回ソフトボール大会を平戸中新町グラウンドで行ない、田平チームが3年連続優勝。第39回国際聖体大会がコロンビア国ボゴタで開かれた。
- 8・25 レジオ福岡セナトスのコンGRES（熊本市）に長崎クリアから12名出席。
使徒職教区協が第12回教区大会を国際文化会館で開き890名参集し、今年度テーマ「祖先の信仰にならおう」、活動指針「くらしの中に生きた信仰を」について討議した。意見発表者は川原光次「生きた信仰」、浜辺要作「信徒の使命」、片岡多恵子「家庭を通しての使徒職」、川上耕「環境に生きる」であった。

- 8・27 幼稚園協が県大村研修所で職員研修を行ない、松本尚子「モンテッソーリ教育の実際」について講演を聞いて話合った。
- 9・1 大浦教会が「大浦教会ニュース」で、大人も子供も聖書にしたしもう、1日の中に5分でも10分でも聖書を読もう、と月間目標をアピールした。
- 9・3 青砂浦教会が建築60周年記念ミサと祝賀会を行なった。
- 9・8 鯛の浦教会が頭ヶ島で、使徒職に関する信徒の集いを開き、出稼ぎ者対策や夕の祈りの問題を話合った。
- 9・10 司祭同好会（会長深堀政美師）主催の研修会が嬉野で開かれ、九州各地から45名が参加。回勅「人間の生命」、「原罪の教義と人類多元論」について研修した。
- 9・20～23 クルシリヨ（男子第6回）が聖マリア学院で行なわれ35名参加。
- 9・22 城山教会が聖フランシスコ病院建設資金カンパをした。北松地区使徒職協議会が第8回大会を田平中央公民館で開き600名参集し、片岡教授「祖先の信仰に学ぶ」の講演を聞き、話合いで、①けいこPTAをつくって協力すること、②そのモデル地区に平戸、宝亀、田平小教区を設定し、具体化することなどが決められた。
- 10・10 西町教会マリアナ会（南山小学高学年女子の会）が恵みの丘老人ホーム慰問。
- 10・13 勤労連がソフトボール大会を南山学園グラウンドで催し17チーム参加。

《昭和43年》

- 10・19 26聖人記念館主催の野外音楽の夕べを催す。
キリシタン文化研究会長崎支部が第7回講演会を催し、チースリク師「北国からの日本探険」、山口光臣「明治の教会建築」の講演があった。
三浦町教会が使徒職協議会を開き、「聖書友の会」をはじめめる計画をたてた。
- 10・20 レジオ長崎クリアが黙想会を八幡町教会で行ない50名参加し、愛をテーマに対話方式で黙想した。
勤労連が「労働組合における使徒職」座談会を中町教会で開いた。出席者は川原師、平野師、川原光次、谷村次男、松尾久吉。
- 10・22 国内移住者問題の対策のため教区担当者全国大会が東京で開かれた。
- 10・27 教職員協が大会を南山学園で開き、糸永真一師「第2バチカン公会議は教師に何を望むか」の講演を聞いた。
カト学連がOB・OG懇談会を永井学生センターで開き25名参加した。
福江教会が王たるキリストの祝日に感謝のローソク行列を行なった。
- 11・1 フランシスコ病院の秋月辰一郎医長が日本医師会から最高優功賞をうけた。
- 11・3 青年連協が第2回カトリック青年主張大会を国際文化会館で催し、22名が弁論、第1位に野崎順（城山）が選ばれた。
- 11・5 九州電力のカトリック信者16名が信友会を結成（会長深井弘）。
- 11・7 外海町出津のド・ロ神父資料館が開館式。
- 11・8 浦上教会婦人会がみさかえの園を訪問したが、未信者婦人の団体「むつみ会」を中心に60名が参加した。
- 12・7 生月町山田教会の聖堂拡張落成祝別式。
カト学連と長崎学生奉仕会がみさかえ住宅のために街頭募金をした。
- 12・8 三浦町教会のルルド除幕式。
- 12・9 JOC長崎地連が愛の献血をよびかけ、中町教会で87名が提供した。
- 12・15 大村市放虎原の大村殉教者顕彰碑除幕。
青年連協がクリスマス・メディテーションを自治会館で催し、350名参加し、長崎市内の各教会8聖歌隊が演奏した。
- 12・18 城山教会が家庭クリスマス・パーティを催し、家庭から持ち寄ったご馳走をわかち合っのパーティを楽しんだ。3900名参加。
- 12・24 長崎グレゴリオ聖歌保存会が長崎放送NBCの依頼で、大浦天主堂からグレゴリオ聖歌を全国向け放送した。
- 12・25 神の島教会で信者26名が「摂津高槻の城主ジュスト長房こと高山右近」を上演し好評をえた。

《昭和44年》

- 1・2 黒崎教会で正月に「1年の計は靈的生活の設計から」と第1回黙想会、400名が参加。
五島水の浦教会で出嫁者の懇談会を開き、40名参加。
- 1・6 幼稚園協会（会長糸永師）が聖マリア幼稚園で園長会議をひらき、職員の研修を深め幼児教育の充実をはかることを活動計画に入れた。
- 1・9 神言会ホルツァ師（元長崎南山学園長）がフランシスコ病院で永眠（75才）。
- 1・12 平戸教会に教会育友会（小・中学生父兄）が発足し、115名の会員が学校と教会の教育向上をはかることになった。
- 1・15 JOC長崎地連が総会をひらき、活動テーマを「キリストのもとに一致・友愛・団結を」ときめ、年間行事に6月練成会、7月働く青年大集会をくんだ。
- 1・18 大浦教会で第2回教会一致のための合同祈禱会を行なった。
- 1・22 使徒職教区代表者総会が農協ビル会議室でひらかれ67名が参集、本年度活動テーマ「祖先の信仰を現代に生かそう」、指針「くらしの中に生きた信仰を」を決め、離郷者対策として名簿作成と文通、対策専門委員会設置などを討議した。役員改選で会長に本山初見を再選、副会長に井上康宏を選任した。
勤労連が西坂記念館で「安保問題をめぐって」の社会問題研究会をひらき、大塚、松尾、本島3県議が出席。
100名参加。
- 1・26 カト学連がみさかえの園から招待され、70名が訪問した。
- 1・29 三浦町教会で第5回佐世保地区キリスト教合同祈禱会が行なわれた。
- 1・30 聖母の騎士会コルベ師に尊者の称号が贈られた。
- 2・1 山口愛次郎大司教（74才）の教区長辞表が受理され、里脇浅次郎司教（65才）が長崎大司教に任命された。
- 2・16 クルシリヨ教区ウルトレヤ（8回）が城山町三菱製鋼倶楽部でひらかれ70名が参集、小教区における奉仕者としての使命を確認、通信紙「光ってますか」の発行をきめた。
伊王島教会の青年・姉妹会が再発足。
上神崎教会の新聖堂起工式。
福江教会で中高卒業生送別・親と子の対話の会がひらかれた。
- 2・17 山口大司教が浦上大司教座聖堂で感謝の荘厳ミサを献ぐ。
- 2・23 三井楽町岳教会が信者迫害100周年記念行事として殉教記念碑建立。
- 2・28 長崎聖婢姉妹会で14名の誓願式。
- 3・1 教区広報委員会が今年度の中心活動目標に「聖書普及運動」を掲げた。
- 3・9 長崎市南山手町16番館のファチマの聖母像祝別式。

《昭和44年》

3・17 里脇大司教着座式。

教区司祭団との懇談会で、教区組織について司祭評議会、司牧評議会、信徒使徒職評議会の構想を語られた。

3・19 橋本勲師、山川忠師が浦上天主堂で叙階式。

2・23 青年連協がアフリカのピアフラ国民救済のため街頭募金。

3・29 浦上信徒総流配 100年祭の青少年行事が城山教会と聖マリア学院で行なわれ、第1日目小学低学年 900名、2日目小学高学年と中学生 700名が参集、ミサと入選作文発表やスポーツ大会をした。

3・30 レジオ長崎クリアがアチェスを八幡町教会で行ない70名参加。

4・15 三井楽町岳修道院（聖婢姉妹会）落成祝別式。

4・19 青年連協が第3回リーダー修養会を純心短大で行ない103名参加、講話は里脇大司教「公会議後の教会が要望するもの」、松永久次郎師「神の求める青年像について」、糸永真一師「現代のリーダーはいかにあるべきか」、平野勇師「組織の中のリーダーはいかにあるべきか」。

4・25 五島鯛の浦の伝道学校開講式（10名）。

5・1 平戸教会で勤労者40名が道具奉獻をしてミサ。

5・1～3 クルシリヨ（女子第1回）が恵が丘黙想の家で行なわれ27名参加。

5・3～5 クルシリヨ（男子第7回）が純心学園で行なわれ、

36名参加。

5・4 長崎4小神学校の第2回合同文化祭が南山学園体育館で行なわれた。

5・10 教職員協が里脇大司教を囲む座談会を海星学園でひらき、60名が参加。

5・11 使徒職長崎地区協議会が西坂記念館で17小教区代表の出席でひらかれ、年6回の連絡会議を新しい組織でひらき活動することを決め、役員を選出し会長に浜辺要作、副会長中島英一を任命した。

5・24 JOCF長崎地連がリーダー練成会を三ツ山で行ない、「リーダーとしての責任をとろう、あなたが私を選んだのではなく、私があなたを選んだのだ」をテーマに討議した。

5・25 神の島教会で建立70周年式典と使徒職大会がひらかれ、各家庭に聖書を1冊ずつ配布した。

5・26 青年連協がダンスパーティを自治会館で催し 350名参加。

5・28 勤労連が里脇大司教にきく会をひらいた。

5・31 汚れなき聖母の騎士修道女会で12名の誓願式。俵町教会がスカボロ会から教区司祭の司牧に移管された。

6・7 高校生とカト学連が永井学生センターで里脇大司教をかこんで座談会をひらき、70名参加。

6・8 大浦教会が使徒職大会を開き、家庭会の育成、聖書研

究会への参加、カトリック新聞の購読を推進することをきめた。

青年連協が第4回長崎カトリック青年の大会を純心短大でひらき350名参集。メインテーマ「若者よ、あなたは現代をどう生きるか」を考え、宮川師「公会議後の新しい教会」、松永師「青年使徒職」の講演を聞き、3部会にわかれて「環境の中の私」、「結婚と宗教」、「現代に信仰は必要か」について討議した。

- 6・14 聖婢姉妹会で8名の誓願式。
- 6・15 中町教会が使徒職大会を開き、地区集会のあり方とすすめ方が話合われた。
- 6・17～19 教区神学生の練成会が島原市九十九ホテルで行なわれ、「司牧における対話」をテーマに研修した。
- 6・20 純心短大片岡弥吉教授「かくれキリシタン」出版。
- 6・21 JOCF長崎地連が練成会を三ツ山黙想の家で行ない40名が参加、「ジョシストの自覚」をテーマに研修した。
- 6・26 カトリック児童収容施設長第1回研修会が行なわれ74名が参加した。
- 6・29 平戸教会が使徒職大会を開き、あいさつの励行、PTA組織をつくることを決めた。参加者200名。
浦上信徒総流配100年祭が浦上天主堂で行なわれ、浦上出身司祭13名の共同ミサが献げられた。また、キリシタン展や聖劇「浦上キリシタン」を上演するなど盛

会。

- 7・6 八幡町教会に典礼委員会が発足。
- 7・7 本河内教会の新しいお告げの鐘祝別。
- 7・14 上神崎教会の聖堂祝別式。
- 7・22 太田尾修道院（聖婢姉妹会）落成。
- 7・26 SVP長崎中央理事会が総会を聖母の騎士神学校でひらき、「新会則に基く活動の展開」「離郷者対策」をテーマに討議、役員改選で会長に松永俊次を選任。
JOC主催の働く青年大集会が、大村市野岳で催され200名が参集、「残業と余暇」をテーマにグループミーティング。
- 7・29 五島奥浦慈恵院のルルド祝別。
- 7・30 久賀島教会が牢屋の窄殉教100年祭を行ない、記念教会祝別。
- 7・31 五島鯛の浦修道院墓地の「あわれみの聖母像」祝別。
- 8・2 青年連協が献血運動。この月中呼びかけを各教会で行なう。
- 8・11～13 教職員協30名が福江島研修と井持浦ルルド参詣。
- 8・20 紐差教会のファチマの聖母像祝別。
- 8・27～29 幼稚園協会が教師研修会を雲仙で行ない85名参加。小出哲夫師「幼児の宗教的情操をはぐくむ」の講演、深堀敏師の黙想指導をうけた。
- 8・31 SVP全九州ブロック総会が自治会館で開かれ、85名（長崎45名）が参集。離郷者対策などを討議した。

《昭和44年》

- 9・1 浜田朝松師ご逝去（70才）。
- 9・4 浦頭小教区（主任野下千年師）、曾根小教区（主任村中司師）を新設定。
- 9・14 北松地区使徒職第9回大会が平戸国際会館でひらかれ550名が参集、野原師「使徒職について」、原塚師「人間教育について」の講話をもとに話合う。
- 9・20～23 クルシリヨ（女子第2回）が三ツ山で行なわれ31名参加。
- 9・21 飽の浦教会50周年記念に勤労者の保護者なる聖ヨゼフ像除幕。
浦上教会青年会（深堀貢会長）主催の第1回施設援助チャリティショーが市公会堂で催され、浦上養育院の子ども50名を招待、吉野良介のフルート独奏など8団体が賛助出演して盛会。1700名が参集。
- 9・27 生月町1部教会の伝道館落成。
- 9・28 上中五島地区使徒職第1回大会が青方中学体育館で開かれ676名参集。大会テーマは「マスコミとキリスト信者の信仰生活」「家庭と教育」「出稼者の信仰生活」で、学校のクラブ活動と要理教育の時間的ずれが問題となり、テレビと祈りの時間、船乗りや出稼者の信仰生活や連絡などが話題になった。
- 10・1 山口大司教が県公安委員長に就任。
- 10・5 勤労連が委員練成会を信愛幼稚園で行ない17名参加。
中町教会婦人会（中村昭子会長）7名が中古衣類や見

舞金をもって、みさかえの園や湯江老人ホームを慰問した。

- 10・7 レデンプトリスチン修道院で3名の初誓願式。
- 10・9～12 クルシリヨ（男子第8回）が三ツ山黙想の家で行なわれ35名参加。
- 10・12 教職員協が第23回大会を南山学園でひらき90名参集、名古屋南山大講師中村清師「学生運動の実態とその動向」、里脇大司教「暴力」の講演を中心に討議。
- 10・16 クルシリヨ下五島地区ウルトレア（第1回）が貝津教会で行なわれ31名参加。
- 10・19 稲佐教会が使徒職大会を開き、ウィゼン師の講演「教会建設について」、また三村忠秋、山本亮子、鳥巢善三、山本守、山本登が意見発表をした。
教区内修道女の勉強会がレデンプトリスチン修道院で行なわれ、150名が里脇大司教の神学的諸問題について講話を聞いた。
- 10・20 教区司祭研修会が雲仙で行なわれ70名が参加、教区の組織づくり「司祭・司牧・使徒職の3評議会設置」を検討した。
- 10・27 三ツ山教会司祭館落成。
- 10・28 福江市奥浦慈恵院に天皇・皇后両陛下がご訪問。
- 11・2 生月町山田教会が「黒瀬の辻のガスパル西玄可」殉教360年祭を行なう。
- 11・2～3 太田尾教会が役員研修会を世知原国見山荘で行な

- い30名参加、「一般信徒の使命」をテーマに研修した。
- 11・9 西町教会の扇形聖堂落成祝別式。
勤労連主催の時事問題懇談会が西坂記念館でひらかれ、九州大学法学部水波教授が講演。
- 11・10 小長井町みさかえの園に、天皇・皇后両陛下ご訪問。
- 11・14 出津教会が「郷土出身聖職者」の追悼ミサを献げた。
- 11・16 青年連協主催の第3回長崎カトリック青年の主張大会が南山学園で行なわれ、市内15教会で予選（150名参加）を経て、25名の弁士が「カトリック青年として思うこと訴えること」を主張。大司教杯を太田トモ子（中町）が受賞した。
- 11・23 勤労連がソフトボール大会を南山学園グラウンドで行ない300人参加。
- 11・24 上五島焼崎教会の新聖堂祝別。
大曾教会司祭館祝別。
- 12・2 糸永真一師が鹿児島司教に選任さる。
- 12・6 カト学連と学生奉仕会が、みさかえ住宅の資金カンパで街頭募金。
- 12・10 三浦町、俵町、皆瀬の3教会とプロテスタント4教会合同の市民クリスマスが、佐世保市民会館で催された。
- 12・21 伊王島町大明寺教会婦人会が、新聖堂建設のためバザー開催。
- 12・29 高校生会の長崎地区大会が南山学園でひらかれ、「信頼について」のテーマで話合った。



《昭和45年》

- 1・6 教区司祭評議会（第1回）が大司教館で開かれた。
- 1・9 青年連協が理事会をひらき役員改選。会長に平田稔、副会長植田道雄、永井昭子を任命。
- 1・18 系永鹿児島司教祝聖式。
平戸北松地区使徒職協議会が役員の日練成会を平戸修道院で行ない73名参加。使徒職活動について「心の姿勢」、「環境の研究」、「家庭における使徒職」、「職場での使徒職」を研修した。
- 1・25 大浦天主堂で教会一致のための合同祈禱会が行なわれた。
平山高明大分司教祝聖式。
- 2・2 八幡町あけのほし幼稚園増築園舎祝別。
- 2・2～17 純心女子高校の3年生 450名がクラス別に卒業修養会を三ツ山黙想の家で行なった。
- 2・4 使徒職教区協議会が、代表者総会を自治会館でひらき100名が参集。新しい評議会組織を考慮して5地区より副会長を選任し、高橋末一、井上康宏（長崎地区）、杉山末吉（佐世保）、田中清太郎（平戸）、山下正実（上五島）を任命。それぞれの地域性に即応したテーマをもって地区大会を開くよう推進する方針をたてた。また45年度テーマは「くらしの中に生きた信仰を」を継続する。
- 2・8 佐世保地区使徒職大会が聖和女子学園で開かれ 600名参集。片岡弥吉教授「ともしびを燭台の上に」の講演、子供の教育などについて話合った。
- 2・8 西坂26聖人記念碑前で野外ミサが献げられ、信徒1100名が参与した。
城山教会が教区で初の試みとしてフォークソング聖歌をとり入れたミサを献げた。
- 2・11 北松地区カトリック連合中学生親善競技大会が平戸中学校で行なわれ、21チームが参加した。
- 2・12 上神崎小教区を新設定、初代主任平野勇師。
- 2・15 浦頭教会司祭館落成祝別。
- 2・17 JOC長崎地連が養成会を西坂記念館で行なった。
- 2・21 土井辰雄枢機卿ご逝去。
- 2・24 教区要理研究会の第1回全体会議が浦上教会司祭館でひらかれ、会長中島万利師、事務局長萩原劭師が選任された。
- 3・1 聖婢姉妹会で13名の誓願式。
浦頭教会の使徒職協議会が「離郷者のつどい」を催した。
下神崎教会保育所「神崎社会館」の新舎屋落成祝別式。
- 3・15 中町教会が小教区使徒職大会をひらき「魅力ある教会」をテーマに討議した。
クルシリヨ第6回ウルトレヤが県医師会館でひらかれ90名参加、浜辺要作、古川武信師、広瀬方人が基調講話をした。
西町教会が年の務め黙想会の第1日目を使徒職大会と

- する新しい試みで、660名が参集した。
- 3・15 教職員協が機関誌「塩」7号を発刊。中村清「学生運動の実態とその動向」、井手利雄「長崎市における高校生の政治活動」、井上康宏「井持浦ルルドに詣って」を収録。
- 3・19 島原小教区と川棚小教区がスカボロ会から教区司祭の司牧に移管された。
聖フランシスコ病院新築落成。
- 3・20 聖母の騎士修道女会で9名の誓願式。
- 3・20～23 クルシリヨ（女子第3回）が三ツ山黙想の家で行なわれ26名参加。
- 3・21 早岐教会祝別式。
- 4・1 出津の「聖マルコ老人ホーム」開所。
- 4・5 レデンプトリスチン修道院で2名の誓願式。
- 4・6 黒島教会司祭館祝別。
佐世保市相ノ浦町聖母幼稚園祝別（10日開園式）。
- 4・7 皆瀬教会の新聖堂祝別。
- 4・10 上五島伝道学校の入校式を仲知教会で行なう（6名）、鯛の浦から仲知教会に移して授業。
- 4・11 教区神学講座が西坂記念館で開講され、154名が受講。
- 4・12 長崎地区使徒職大会が南山学園で開かれ、①受洗（入信）と離教について魅力ある教会を考える。②小教区の充実。③社会人としてのキリスト者。④超小教区の活動についての4分科会に別れて討議した。
- 4・20 幼稚園協会が園長・主任会議を長崎市道尾の百合幼稚園でひらき、会長に田川栄一師、副会長深堀栄市師、クルート師を選任した。
- 4・26 鹿子前教会落成祝別式（船越小教区を鹿子前小教区と改称）。
カトリック教報社が浦上、大浦、鮑の浦、八幡町、城山の5小教区報編集者を招いて座談会を西坂記念館で開いた。
- 4・29 聖フランシスコ第3会九州地区総会が聖ドミニコ第3会との合同総会となり、280名が長崎青少年センターに参集。福者ルチアの列聖運動を発表した。
北松地区顧問連合会が平戸教会信徒会館で開かれ、会長に谷山、副会長佐々木を選任。
- 4・30 長崎市梁川町「みさかえ住宅」（救貧対策）落成式。
- 5・2～5 クルシリヨ（男子第9回）が三ツ山黙想の家で行なわれ24名参加。
- 5・5 上野町のカトリックセンター建設趣意書が配布された。
- 5・6 五島中の浦教会司祭館と公民館祝別。
- 5・9 青年連協が第4回リーダー修養会を純心短大で行なった。
- 5・14 日本カトリック看護婦協会（JCNA）長崎支部が結成された。支部長山下ひで子、副支部長大塚綾子。
- 5・17 稲佐教会に壮年会が発会式。

《昭和45年》

- 5・17 愛宕町教会婦人会24名が出津ドロ神父遺跡と老人ホーム訪問。
平戸教会の信徒会館落成式。
- 5・24 鯛の浦教会が使徒職中野部落研究会をひらき 200名参加、「生活の中に生きた信仰を」を主テーマに討議した。
勤労連が「明日の教会を語る会」を始めた（毎月第4水曜日）。
- 5・25 上中五島地区の広報懇談会が青砂浦公民館でひらかれ18名参加。
- 5・30 キリシタン文化研究会が長崎開港 400年記念講演会を西坂記念館で催し、パチェコ師「長崎開港をめぐる外国人たちの動き」、パネルディスカッションで「長崎の教会知行問題」をとりあげる。
- 5・31 神の島教会で「海の聖母」建立20周年記念祭を行なう。
- 6・5～9 レアンプトール修道女会が作品展を玉屋デパート7階催場でひらき、リボン・フラワーの講習も行なった。
- 6・7 中町教会壮年会が総会をひらき、1人1役主義をうちだして役員改選、会長に水浦博を任命した。
26聖人記念館に茶室「昇道庵」が完成し、市長らも出席して茶室びらき。
植松と水主町の小教区境界変更、18世帯が水主町教会に編入された。
- 6・12 恵ヶ丘の被爆老人ホームを里脇大司教がはじめて公式訪問した。
- 6・17 カトリックセンター建設委員会が浦上教会公民館でひらかれ、設計プランの説明があり、建築費2億2600万円のうち、募金額1億6000万円とすること、来年6月ごろの完成見込みと発表された。
- 6・20 SVP教区中央理事会が44年度報告書を出した。現在会員は正会員90名、志願会員4名、通信会員4名、寄付者84名、訪問対象家庭 265世帯。
- 7・1 平戸教会が小教区運営委員会を発足させ、新しい組織づくりに乗り出した。
- 7・5 上神崎教会が新しい組織として信徒評議会と司牧評議会をつくった。
- 7・7 島原幼稚園落成。
上神崎教会が地元の教外者と初顔合せの茶話会を開いた。
青年連協の愛の献血運動が8月初旬まで行なわれた。
- 7・8 聖婢姉妹会で8名の誓願式。
- 7・12 西町教会が教会建設資金カンパのためバザー開催。
- 7・15 ローマ布教聖省次官ピネドリ大司教が来崎。
- 7・19 浦上教会信徒会館で大島紬の展示即売会が開かれたが、南田平教会（34名）と大曾教会（40名）の婦人たちが農閑期を利用して織ったものである。
久賀島の牢屋の窄殉教 101年祭が行なわれ 300名が参

列、15隻の動力船が海上パレードをした。

- 7・19 佐世保地区顧問連合会が結成された。祈り、研究、奉仕、調和の4つの柱を努力目標に12教会47名。会長に金子松次、副会長堤辰一、溝口義正を選任した。
- 7・22 使徒職教区代表者総会が明治生命ビルで開かれ、新しい「信徒使徒職評議会」規約案を中心に話合った。
- 7・23 北松地区連合婦人会（上村慶子会長）が研修会を平戸教会で開き80名参加、平野勇師と平戸小学校山下清校長が講話。
- 7・27～29 黒崎教会で長崎市三ツ山教会の子供も参加して、合同の子供黙想会が行なわれた。
- 8・1 JOC長崎地連が「働く青年大集会」を小長井の聖母の騎士園グラウンドで150名の参加者を集めて催された。
- 8・4 平戸口教会信徒集会所の改造完成。
- 8・17～19 高校生会が第1回教区大会を純心女子学園で開き137名が参集。アギラール師、深堀明義師、小瀬良大神生の指導で学生会のあり方などを討議した。また、映画「復活の丘」を上映、片岡弥吉教授「400年の信仰」の講演があった。
- 8・17～19 教職員協が黒島に研修旅行。
- 8・18～19 佐世保地区青年合同研修会（第7回）が聖和女子学園で行なわれ、「われら青年、小教区の柱になろう」のスローガンで「青年からみた教会の問題点」をテーマに討議した。山口英明、中村房義、日数谷幸一、坂

本信吾、島袋が体験発表をした。

- 8・24 香焼町深浦に蔭の尾教会起工式。
- 8・27～29 幼稚園協が研修会を雲仙青雲荘で行ない、教区内31幼稚園から140名の教職員が参加し、金松師（大分教区）と松尾利信先生の講演をもとに研修した。
- 8・31 万博パチカンデーに3万人参加。
- 9・1 滑石小教区を新設、初代主任深堀明義師。愛宕町教会がカナダのヴィラ・ルボン・バン合唱団を迎えて、親善音楽集会を市公会堂で開催した。
- 9・13 青年連協がソフトボール大会を戸石NBCグラウンドで行ない、16チーム・300名余が参加した。
- 9・18～19 俵町教会の小・中・高校生60名が鳥帽子岳でキャンプ。
- 9・20 浦上教会が使徒職大会を信徒会館で開き、今年度の小教区目標「燃える青少年は家庭、教会、社会の光であり、希望である」をテーマにパネルディスカッションをして対話の必要性が強調された。
- 9・20～23 クルシリヨ（女子第4回）が永井学生センターで行なわれ36名参加。
- 9・23 平戸北松地区の教え方研究会が平戸教会で行なわれ、野原師、萩原師、浜崎師が要理教育について講話、午後は座談会をした。
- 9・25 上野町カトリックセンター定礎・起工式。
- 9・26 浦上教会青年会が自治会館でダンスパーティを開催。

《昭和45年》

- 10・3 神の島教会SVP会員15名が宝亀教会の同会員らと交流会をもった。
- 10・8～10 クルシリヨ（男子第10回）が佐世保市聖心幼稚園で行なわれ30名参加。
- 10・9～12 クルシリヨ（鹿児島第11回）が鹿児島谷山の愛の聖母園で行なわれ、長崎から6名が応援した。
- 10・10 神言会深江勝市師、深堀進師、上村勉師、川上進師、森山勝文師、長山武一師、岡崎才蔵師7師が名古屋市神言会修道院聖堂で叙階式。
- 10・12 鯛の浦養育院改築工事起工式。
- 10・18 教職員協が第23回大会を海星学園で開き 100名参集、本年度標語に「教師は天と地に有るすべてのものをキリストに於て刷新する」「教育は社会の胎動であり、教師はその心臓である」を掲げ、九州大学法学部水波朗教授「教科書裁判とキリスト教教育」の講演を聞いた。佐世保地区教会対抗ソフトボール大会が米軍基地グラウンドで行なわれ、13チームが参加、優勝は浅子チームであった。
使徒職教区評議会準備委員会が西坂記念館で開かれ規約を検討、12月10日までに評議員を選出し、来年1月17日設立総会を開くことを決めた。
浦上教会で「津和野乙女峠殉教者顕彰会」第1回打合せ会が開かれ、30名が参会した。
- 10・21～22 若い司祭20名が「明日の教会を語るつどい」を鹿子前海浜ホテルで行なった。
- 10・25 平戸北松地区教会対抗中学生スポーツ大会が平戸中学グラウンドで行なわれ、ソフトボール（男子）、バレーボール（女子）の17チームが参加した。
- 10・27 上五島伝道学校卒業式（7名）。
- 11・1 城山教会の聖マリア・バスケットチームが長崎市民体育祭で優勝した。ハトリック師とドワイヤー師の活躍。平戸教会が信徒大会を開き 150名参集。各団体の活動報告、質問や要望があり、青年高校生代表が大会宣言をした。
- 11・3 勤労連が同連盟の合同慰霊祭と懇談会を西坂記念館で行なった。
- 11・8 レジオ長崎クリアが黙想会を永井学生センターで行なった。テーマは「現状とビジョン」。
福江教会司祭館落成。
勤労連がソフトボール大会を南山学園グラウンドで行ない、16チームが参加。
- 11・14 古川重吉師が急逝（教区総代理）。
- 11・15 青年連協が第4回青年の主張大会を南山学園で行ない、22名が弁論、大司教杯は古賀和子（西町）が受賞した。大浦天主堂庭園の大十字架を再建祝別。
俵町教会が第2回信者総会を開き信者相互の親近感、連帯感をとり上げた。
下五島地区顧問会議が福江教会で開かれ、地区連合顧

問会結成の準備をすすめた。

- 11・17 出津教会が物故出身司祭追悼ミサを献げた。
- 11・22 レジオ長崎クリアが役員改選し、会長に野口章子を任命。
- 11・22～23 北松地区使徒職協議会が第2回リーダー練成会を平戸教会で行ない、教会役員90名が参加した。
- 11・23 浦上教会青年会が第2回チャリティショーを市公会堂で開催した（片岡寛バリトン・リサイタル）。
- 12・1 南山学園出身の司祭15名が、恩師を囲む会を開いた。
- 12・6～7 国内移住者問題対策協議会（第1回）が宝塚市御受難会黙想の家で開かれ、長崎から高谷師、竹山師、平野師、深堀明義師、本山初見、西田悟ら4名が出席した。
- 12・9 長崎市役所カトリック者総会が東洋軒会議室で開かれた。
- 12・13 生月町山田教会が信仰復活90周年祭でファチマの聖母像祝別。
青年連協が東パキスタン救済のために街頭募金した。
- 12・20 平戸口教会青年会（佐々木清孝会長）がNHK歳末助け合い運動に協力し平戸海岸栈橋で募金活動をした。
- 12・25 如己堂に永井隆博士のブロンズ胸像が建立された。



《昭和46年》

- 1・4 純心聖母会で2名の初誓願式。
- 1・7 ド・ロ版大木版画「煉獄の靈魂の救い」が県文化財に指定された。
- 1・17 水主町教会が信徒総会をひらき、64名参集「祈りの会」を基盤として小教区の充実に努力することを話合った。使徒職教区評議会の設立総会が交通会館3階ホールでひらかれ、小教区と各種団体の代表65名が参集、新規約を承認し、役員に会長本山初見、副会長井上康宏、金子松次を選任した。

※ ※

長崎教区信徒使徒職評議会規約

第1章 総 則

- 第1条 本会は、長崎教区信徒使徒職評議会と呼ぶ。
- 第2条 本会の事務所はカトリックセンターに置く。
- 第3条 本会は、信徒の使徒的活動とくに宣教活動の調整、推進を目的とする。
- 第4条 本会は小教区と教区内の各種団体との代表、および理事会の委任をうけた信徒からなる。

第2章 役 員

- 第5条 本会に次の役員を置く。
- | | | | |
|--------------------------------|-----|----------|----|
| 1. 会 長 | 1名 | 2. 副 会 長 | 2名 |
| 3. 常任理事 | 4名 | 4. 理 事 | 8名 |
| 5. 顧問司祭 | 若干名 | | |
| 6. 常任理事は会の書記(1名)及び会計(1名)の任に当る。 | | | |
- 第6条 常任理事及び理事は、会員の互選による。

- 第7条 会長及び副会長は総会で選出し、大司教これを任命する。
- 第8条 書記及び会計は、会長これを指名する。
- 第9条 役員任期は2カ年とし、再任を妨げない。
- 第10条 役員に欠員を生じたときは、前任者の任期を限り、これを補充する。

第3章 総 会

- 第11条 本会は、春秋2回総会を開く。なお、緊急な場合、会長は臨時に総会を召集することができる。
- 第12条 総会の議長、副議長は会員の中から、会長が指名する。ただし、任期は2カ年とする。
- 第13条 総会は、本会の目的を達成するため評議し、決議したことの執行には大司教の承認を得るものとする。また、全教区的、重要事項に関して大司教の諮問に答える。

第4章 理 事 会

- 第14条 理事は、毎月1回会合をもち、常任理事は理事会および総会の運営に当る。
- 第15条 常任理事は、本会の目的達成のため、必要に応じて専門的な分科会を司会する。

第5章 研 究 会

- 第16条 本会に、理事会から委嘱されて特殊問題を研究する会を置くことができる。

第6章 補 則

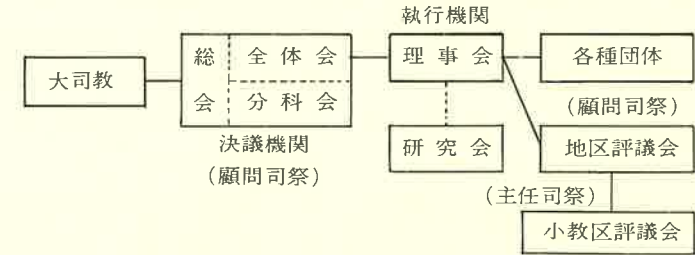
- 第17条 本規約は、大司教の承認を得て発効し、変更のためには、総会の承諾を必要とする。
- 第18条 本規約は、昭和45年10月20日から施行する。

会員および組織、会計等に関する細則

1. 本会員は、つぎの代表によって構成される。
- (イ) 小 教 区 代 表

- (ロ) 各種団体代表
 ビンセンシオ・ア・パウロ会 (S・V・P)
 レジオ・マリエ (L・M)
 カトリック青年労働者連盟男子 (J・O・C)
 ℵ
 女子 (J・O・C・F)
 カトリック医師会
 カトリック教職員協議会
 カトリック看護婦会
 カトリック学生連盟
 カトリック勤労者連盟
 カトリック連合青年会
 カトリック連合姉妹会
 カトリック壮年会
 カトリック婦人会 計 13名
- (リ) 有識経験者として理事会の委任を受けた信徒 若干名
2. 小教区代表の選出にあたって、次の項を配慮することが望ましい。
- (イ) 信仰篤く、信徒使徒職活動に熱心な信徒
 (ロ) 小教区評議会で指導や発言の場をもつ者
 (リ) 教区評議会に必ず出席できる者
3. 各種団体代表は次の一項に該当する者とする。
- (イ) 超小教区的な組織をもっている団体の代表
 (ロ) 教区評議会が必要と認めた団体の代表
4. 本会の会長及び副会長は、理事及び会員以外でも、教区内信徒で適任者があれば選出してよい。
5. 本会の理事として、地区評議会代表(5地区)及び各種団体代表をもって選任することが望ましい。
6. 本会の書記は、常任理事が会長の指名によって、会務に関する事項の記録保管の任に当る。
7. 本会の会計は常任理事が会長の指名によって本会の会計の出納を行なう。

8. 本会の運営経費は、教区内信徒の拠金及び寄付によって賄なわれる。(一世帯当り年間80円)
9. 小教区の全信徒から構成される小教区評議会の代表は、地区的な特殊性にかんがみ、地区的な連繋を保ちつつ信徒使徒職活動を具体的に推進するため地区評議会を組織づけるのが望ましい。
10. 本会の組織図は次のとおり。



11. 本細則の増補または改訂は、理事会で立案し、評議会の承認を必要とする。
12. 本細則は、昭和45年10月20日より施行する。
- ※ ※
- 1・20 青年連協が理事会をひらき新役員として会長吉野良介、副会長植田道雄、永井昭子を選任し、年間活動目標に「組織の充実」をとりあげた。
- 1・22 教会一致の合同祈禱会が長崎聖三一教会で行なわれた。
- 2・10 聖婢姉妹会本部修道院の定礎式。
- 2・10~11 佐世保地区顧問連合会が第1回研修会を鹿子前九十九島荘でひらき、司祭8名、顧問27名が参加し、①小教区司祭の賄について、②教会の基本的テーマ「わ

《昭和46年》

たしたちは皆兄弟である」の実践について、③小教区史編さんについて、④維持費の徴収について、⑤総合経済制度の確立について話合った。

- 2・11 司牧評議会設立準備委員会が浦上教会公民館でひらかれ規約を検討、4月29日結成大会を開くことを決めた。
- 2・14 船越教会に青年会が発足した。会員40名、会長田代諒。
- 2・21 本原教会レジオマリエが正式発足した。「喜びの聖母プレシディウム」。
- 2・22 五島大水教会と小瀬良教会が曾根小教区に編入された。(38戸 295名、3月14日手続完了)
- 2・26 司祭評議会(第2回)が大司教館で開かれ、福岡大神大学認可申請、児童要理作成、神学講座、移住者問題などを討議した。
- 2・28 使徒職教区評議会理事会が西坂記念館で開かれ、有識経験者としての評議員委任の件、国内移住対策、愛の運動などを話合った。
- 3・7 浦頭教会使徒職評議会主催で、進学・就職のため転出する中高卒生の激励会を行ない、35名出席、記念植樹もした。
- 3・16 平戸教会の教会育友会が、中卒者の激励のため26名を招き「お別れしるこ会」を行なった。
- 3・20 本原教会青年会がダンスパーティを自治会館で催し、260名が参加した。
- 3・23 野崎島野首教会での最後のミサが紙崎師によって献げ

られ、31日6戸の全信徒が転出し、教会の鐘は鳴り止んだ。

- 3・28 神の島教会壮年会が結成総会をひらき、会長に一瀬次雄を選出した。
聖婢姉妹会で31名の誓願式。
- 3・29 高校生会が第2回リーダー大会を永井学生センターで行ない、「カトリック高校生会の組織化」について話合った。
香焼教会落成祝別式。
- 3・31 SVP長崎中央理事会がベトナム児童救援のため浜町アーケードで街頭募金。
- 4・5 曾根教会に保育所開設。
- 4・10 イエズス会長崎黙想の家の定礎式がアルベ総長によって行なわれた。
長崎市善長谷教会が香焼小教区に編入された。
- 4・11 佐世保相の浦教会が第1回使徒職大会を開き、同時に老人クラブが結成された(86名)。
- 4・12 青砂浦小教区の冷水教会に保育所開設。
- 4・15 鯛の浦養育院新築落成式。
- 4・17 貝津教会に堤好治師(大阪教区)着任。
- 4・17~18 青年連協が第5回リーダー修養会を純心短大で行ない、サンスルピス大神教授山内師「社会生活における信仰」と「使徒職の問題」および相川氏、松永氏「リーダーの条件」の講話を中心に話合った。

- 4・18 クルシリヨ教区ウルトラが城山教会で行なわれ60名
参集。
- 4・24 平戸北松地区連合青年会（藤原栄会長）が、第1回練
成会を上神崎教会で行ない60名参加、「若きキリス
ト者よ固く手を結ぼう」をテーマに討議した。
- 4・25 平戸教会が老人福祉のため街頭募金をした。
福江教会が小教区使徒職評議会を発足させ、職種別グ
ループ代表を評議員に入れるユニークな構成。
- 4・29 使徒職教区評が第2回総会を明治生命ビルホールで開
き、小教区組織としての「教会評議会」や国内移住者
対策などについて評議した。
教区司牧評議会結成総会が開かれ、議長中島万利師、
副議長深堀政美師、浜口澄衛を選任、松永久次郎師が
「神の民を結集する」と題して講演した。
- 5・1～4 クルシリヨ（女子第5回）が聖和女子学園で行な
われ、21名参加。
- 5・2 佐世保地区連合青年会が第1回定例役員会を開き、会
長に日数谷幸一を選任し本部を俵町から鹿子前教会に
移した。
- 5・2～5 クルシリヨ（男子第11回）が海星学園で行なわれ
16名参加。
- 5・5 北松地区連合顧問会が上神崎教会で開かれ司祭9名、
顧問40名が集まり、「司祭の司牧活動援助について」
審議し、地区内信徒が最低1戸当り100円（月額）拠
出することを申合せた。
- 5・9 使徒職教区評はカリタスジャパンの呼びかけに応え、
青年連協70名と市内小教区から5名宛の協力をえて、
老人福祉のための愛の募金運動を行なった。
稲佐教会青年会員25名が児童の育成を目的に小学生50
名を連れて、稲佐山にハイキングとスケッチ大会を行
なった。
名古屋市で長崎出身の「若人の集いが」開かれ、130
名参加した。名古屋教区移住協議会とパーセル師の企
画による。
長崎市内小教区顧問連合会が結成され、会長浜口澄衛、
副会長高橋末一を選任。
- 5・16 西町教会でウィゼン師司祭銀祝の祝賀パーティを行な
う。
南田平教会が小教区使徒職大会と運動会を催す。
宝亀教会と生月町山田教会の女子中学生バレーボール
親睦試合を行なった。
- 5・23 聖パウロ女子修道会が、広報の日を中心に長崎市や佐
世保市の教会を巡回して聖具、書籍販売を行なった。
西木場教会が小教区使徒職総会を開き、会長に福川徳
一を選任した。
- 5・30 神の島教会が海の星聖母祭を催し、聖堂から浜のマリ
ア像まで聖体行列をした。
佐世保相の浦教会が信徒総会を開き、テーマ「相の浦

《昭和46年》

- 小教区をよりよくするために何をしたらよいか」を話合った。
- 5・30 平戸口教会が第1回リレーション大会を中瀬草原で行なった。
- 5・31 聖母の騎士修道女会で14名の誓願式。
- 6・6 諫早教会が信徒総会を開き、新役員として使徒職会長柏木稔を選出、新発足の青年会長には青田清を選任した。
- 6・10 木鉢教会片岡吉一師（勲5等雙光旭日章）と神の島愛児園長宮地シメ子（勲6等）、小百合園長岩崎キメ修道女（勲6等）の叙勲祝賀会が、小柵連合自治会主催で地域ぐみで行なわれた。
- 6・13 長崎市内小教区の広報担当者懇談会がひらかれ17名参加、小教区報、広報の日、広報活動の問題点などについて話合った。
平戸教会が信徒大会を開き、120名参集。
- 6・20 教職員協が機関誌「塩」8号発刊。水波朗「教科書裁判とカトリック教育」、井上康宏「黒島研修に参加して」、青木勲「黒島の味」、山本清彦「スタートした読書会」収録。
浦上教会が老人福祉のため街頭募金。
中町教会が「おとうさんありがとう」運動会を催す。
愛宕町教会が使徒職評議会総会をひらき、活動のあり方、年間行事計画などを協議した。レデンプトール会
日本管区長も列席された。
- 6・29 大神学生20名が五島中の浦教会で練成会を行なった。
- 7・4～25 青年連協が愛の献血運動を日曜日ごとに市内各教会をまわって呼びかけた。
- 7・7～13 日本女子修道会連盟主催の院長練成会（第3回）が雲仙の青雲荘で行なわれ、31修道会101名が参加した。
- 7・8 西町教会内の扶助者聖母会修道院祝別式。
- 7・11 浦頭教会巡回地の宮原教会改築落成。
- 7・14 医師会（秋月辰一郎会長）例会がフランシスコ病院で開かれ、カトリック医師会の伝達事項、明年開催される第5回アジアカトリック医師会（バンコク）についての相談をした。古切手収集運動をしている永田先生（旭町）を招待した。
- 7・18 平戸教会の聖フランシスコ・ザビエル像除幕。
- 7・22 教区神学講座の夏期集中コース開講。
- 7・25 津和野乙女峠殉教者顕彰会の発会式が信愛幼稚園で行なわれ、野口広島司教、津和野町長ら来賓者を迎えて200名が集まった。顕彰会員は230名、うち司教4、司祭21、修道者100名が含まれている。
- 7・26 援助マリア修道女会が、五島中の浦教会で第3修練期の1か月黙想会を行なった。
- 8・4～7 全九州カトリック高校生第2回大会が鹿児島ラサール学園で開かれ、長崎教区から29名参加した。テーマ「明日の光をみつめて」を話合った。

- 8・12 マリア会烏山助雄師、清水和幸師が本原教会で叙階式。
- 8・14 聖マリア学院理工館祝別式。
- 8・16～18 高校生会が第2回教区大会を聖和女子学園でひらき、三村誠一師「現代社会に生きる高校生」、山口武師「疑惑と悩み」の講演をきき、フォークミサやキャンプファイヤーを行なった。
- 8・17 北松地区司祭団主催の第3回中学生親善球技大会が田平北小学校グラウンドで行なわれ、バレーとソフトボール21チームが参加した。
- 8・17～18 水の浦教会が信仰自由100年祭を行ない、牢屋跡にヨハネ五島記念碑と楠原教会ファチマの聖母像を除幕、水の浦教会アンジェラスの鐘を祝別した。また、楠原から水の浦まで十字架行列と聖母パレードをし、出身司祭共同ミサを献げた。800名参加。
- 8・20 長崎地区13小教区の侍者ソフトボール大会が、南山学園グラウンドで行なわれた。
- 8・21～23 SVP全国総会（京都）に長崎教区から18名参加した。テーマは「愛と正義に生きる」。
- 8・26 幼稚園協会（会長深堀栄市師）が教職員研修会を島原九十九ホテルで行ない、里脇大司教と長崎大学川崎宏教授が講演。テーマは「真の人間づくりに向かって」、参加者141名。
- 8・27 聖婢姉妹会本部修道院落成祝別式。
- 8・28 純心聖母会で18名の初誓願と着衣式。
- 8・29 湯江教会と修道院祝別式。
- 9・5 使徒職教区評が理事会を開き、総会を11月3日開催することを決め、使徒職についてのアンケートを送した。
- 9・7 三井楽町岳教会献堂式。
- 9・12 浦上教会後援、長崎ライオンズクラブ主催の坂本スミ子チャリティショーが市公会堂で行なわれ、収益金が「みさかえの園」に贈られた。
- 9・23～26 クルシリヨ（男子第12回）が福江教会で行なわれ、21名参加。
- 9・24 佐世保地区カトリック教会主催の田中澄江講演会が佐世保市民会館でひらかれた。テーマ「愛のある生活」。
- 9・26 北松連合婦人会（田中節子会長）の役員56名が長崎巡礼を行なった。
- 10・3 中町教会が教え方40年の野浜アイ送別会をひらいた。勤労連が体育祭（ソフトボール大会）を南山学園グラウンドで行ない、16チーム270名が参加した。
- 10・4 上野町カトリックセンター落成祝別式。純心短大片岡弥吉教授に教皇勲章（聖シルヴェステル騎士団長勲章）授与。
- 10・5～8 教区司祭黙想会が新装のセンターで行なわれ、ラベル師「結婚についての新しい規定とその神学」、里脇大司教「司祭職の本質について」、岩村師「救いについて」、宮川師「病者の塗油について」の講話がな

《昭和46年》

- された。
- 10・9 南山学園宗教研究部が赤い羽根街頭募金。
- 10・10 城山教会が信徒会主催の第1回運動会を催した。
- 10・11 カテキスタと司祭がラベル師「カテケジス国際大会の様様について」の話聞き、要理教育の方向をさぐり、「カトリック入門」書の使用説明をうけた。40名参加。
- 10・17 聖母の騎士会コルベ神父列福式がローマで行なわれた。
- 10・20 神言会川上誠師が名古屋神言会修道院聖堂で叙階式。
- 11・2 平戸教会の墓地公園祝別式。
- 11・3 使徒職教区評が第3回総会をセンターで開き、51名参集。野下千年師「信徒使徒職の実践」の講演、井上副会長「教会の集り——その出席率を高めるにはどうするか」の研究発表があり、小地区集会和グループ活動を盛り上げるよう強調された。
フランススコ病院秋月辰一郎医長が第30回西日本文化賞を受けた。
- 11・7 青年連協が第5回青年の主張大会を南山学園で開き、16名の弁士が出場した。大司教杯は下崎栄子（西町）が受賞した。
佐世保相の浦教会が第1回運動会を国際経済大グラウンドで開催した。
- 11・14 上五島赤波江教会祝別式。
- 11・20 クルシリヨ全国研究会（第5回）がセンターで行なわれ、全国から指導者30名が参加した。
- 11・21 佐世保相の浦教会に中学生会（73名・松田末喜会長）が発足した。
- 11・27～28 レジオ長崎クリアがセンターで行なわれ、山川師「共同体意識について」の講話を聞いた。70名参会。
- 11・28 SVP教区理事会がセンターで開かれ、①訪問活動を通して、愛と正義をどのように社会に訴えるか、②ベトナム救援活動の今後の進め方、③協議会増設と会員の獲得について討議した。
教職員協（片岡寿会長）が、大会をセンター講堂で開き、パチェコ師「現代に生きる高山右近」、前川正夫校長（長崎商業）「現代教育の諸問題」の講演を聞いた。
- 11・29 みさかえの園10周年記念式典。
- 12・2～3 国内信徒移動対策長崎会議がセンターで開かれた。
- 12・4 八幡町教会信徒会が「結婚相談所」を開設した。
- 12・4～5 純心短大カトリック学生会19名が東パキスタン難民救援のため街頭募金。
- 12・5 青年連協が献血推進で知事表彰をうけた。
- 12・6～8 教皇庁大使ヴステンベルグ大司教が長崎を視察訪問。
- 12・7 勤労連が役員会を開き、「明日の教会を語る会」を来年度から小教区持ちまわりと決めた。
- 12・7～9 臨時全国司教会議がセンターで開かれた。
- 12・12 本河内町聖母の騎士修道院で、コルベ神父の列福感謝と祝賀式典。

- 12・12 滑石教会献堂式。
青年連協80名が歳末助け合い街頭募金。
レデンプトリスチン修道院で2名の誓願式。
- 12・15 稲佐教会の新聖堂祝別式。
- 12・24 城山教会に諫早のプロテスタント教会牧師アダムス師
から電子オルガンがプレゼントされた。
- 12・25 長崎市大山教会に青年会（会員14名、瀬川親明会長）
が発会式。
- 12・27 サンスルピス大神生による音楽会がセンターホールで
催された。



《昭和47年》

- 1・16 曾根教会に子供の会が発足し、祈りの先唱をさせることになった。
- 1・17 津和野乙女峠に長崎・諫早から60名が巡礼。
- 1・25 教区教理委員会委員が任命され、委員長に宮川俊行師。
- 1・29～30 本原教会が連合役員会をセンターで開き、三末師「教会とは何か」、西田悟「信者の使命、役員役割」の講話を中心に研修した。
- 2・4 出津・大野両教会が県指定。
- 2・6 長崎カトリック高校生会の結成大会がセンターで開かれ、正式に使徒職評議会組織に編入された。
佐世保地区巡礼団 450名が西坂26聖人殉教地を訪れた。
- 2・10～11 佐世保地区顧問連合会が、研修と親睦の会を嬉野で開き40名参加、宮川師「教会の将来」、岩永四郎師「顧問の姿」、ウィゼン師「教会の運営」の講話を聞き座談した。
- 2・13 西町教会に「若者集いの部屋」が完成し、青年会の活動に利用される。
教職員協がC・Bを行ない、新しい規約案を検討し、名簿作成を急ぐことになった。
- 2・16 幼稚園協会が教職員研修会をセンターで行ない、141名参加。延岡緑ヶ丘短大講師相良敦子先生「モンテッソーリ教育法とは」の講演を聞いた。
青年連協が定例会を開き、長崎市内15小教区50名が参集し、新役員に会長本村義夫、副会長七田均、永井昭子を選任、来年度のメインテーマ「組織づくり」、サブタイトル「人員の確保」を決定し、また、夏にジャンボリーを行なうことにした。
- 2・16 平戸教会で第3回中卒者歓送会を24名を招いて行なった。
- 2・20 高校生会が第1回理事会を開き、地区長川端和範、副地区長宮永洋子を選任。
- 2・24 神学校特別援助「無原罪の聖母会」が長崎市内小教区支部長会議を開き、会員の拡張に努力することを申し合せた。
- 2・28 長崎市立山町にイエズス会長崎黙想の家落成祝別式。
- 3・3 教区司牧室主催の第1回結婚準備講座がセンターで開講された。
- 3・12 愛宕町教会が使徒職小教区大会を開いた。
- 3・16 壱岐に布教所（郷ノ浦町）開設、聖母の騎士会ヤノ師が4月9日から布教活動開始。
- 3・18 教区要理教師資格授与式（第1回）が行なわれ、67名に2級資格が与えられた。
曾根教会で中卒者の卒業記念パーティを催す。
- 3・20 谷川政美師、下口勲師、高見三明師が浦上天主堂で叙階式。
- 3・24 大浦天主堂横の旧羅典神学校が国の重要文化財に指定された。
- 3・25 西町教会が小教区信徒大会を開き、「黙想会の成果を

《昭和47年》

生かし、愛の実行の場を考えよう」のスローガンを掲げ、愛の実行運動事務局(名古屋)の山本克英先生「愛の実行運動に参加しよう」の講演を聞き、話合った。

3・30 小値賀教会が仲知教会の巡回地になり、カトリック幼稚園を廃園し、町営として譲渡された。

4・1 聖母の騎士園小長井分校が椿原中学校として独立。

4・2 大曾教会青年会と久賀島浜脇教会青年10名が交流会を行なう。

本原教会が小教区報「本原ニュース」を創刊。

4・3 高校生会がバレーボール大会を聖マリア学院で行ない、15小教区 132名が参加した。優勝は城山教会。

4・11 フランシスコ病院秋月辰一郎医長が、第6回吉川英治文化賞を受けた。

4・14 一般信徒のための神学入門講座が開講され、50名聴講。

4・15 聖パウロ女子修道会が大浦天主堂門内にセント・ポール書院を開店。

4・15～16 浦上教会青年会がリーダー研修会を日吉青年の家で行ない、50名参加、リーダーとしての資質、良いリーダーについて研修した。

4・15～16 小教区広報担当者のための広報研修会がセンターで開かれ、32名参加。

4・18 クルシリヨが創始者ボニン氏をかこむ懇談会をセンターで開き、43名参加。

4・22～24 使徒職全国推進会議(東京)に教区代表として本

山初見、井上康宏を派遣し、井上「よき社会人としてのキリスト者」研究発表で小集団活動について試案を述べる。

4・23 北松地区連合顧問会が平戸教会信徒会館で開かれ、佐藤師「顧問の心得」「新典礼による結婚について」講話、新役員に会長谷山仙太郎、副会長佐々木詮を選任し、福者コンスタンシオ師 350年記念に聖体行列を9月17日行なうと決めた。

4・24 井持浦教会司祭館落成祝別式。

4・26 勤労連が大会をセンターで開き、80名参集、スローガン「流れを変えよう、刷新しよう」を確認、会費を1人月50円に値上げ、事務局の強化と印刷機の購入、名簿の作成などを決めた。

4・26～28 全国「黙想の家、責任者の会議」が長崎黙想の家でひらかれた。

4・28 鹿町町褥崎保育所落成式(5月4日開所)。

4・29 援助マリア会が長崎で布教活動開始。

使徒職教区評が総会を開き、54名参集、東京における全国推進会議の報告、移動信徒の諸問題、小教区組織などを中心に評議した。なお、大司教著「信徒使徒職の原理」と教区評議会刊「使徒職実践のしおり」を配布した。

5・2～4 サン・モール修道会が日本宣教 100年祭。

5・2～5 クルシリヨ(女子第7回)が福江教会で行なわれ、

《昭和47年》

- 31名参加。
- 5・4 紐差の東和愛児園落成式。
- 5・5 福江の特別養護老人ホーム「聖マリアの園」祝別式。
- 5・7 高島教会が使徒職評議大会をひらき、離郷者への励まし、集会への参加などを話合う。
- 5・8 使徒職教区評の理事と移住者対策担当司祭が会合し、移住者対策事務局（シスター曳野）の運営や対策について話合った。
- 5・9 浦上教会でA B C C剖検信者40名の追悼ミサを献げた。
- 5・14 名古屋市布池大聖堂で「第2回長崎教区出身の集い」が行なわれ、200名参加。
- 5・17 外海町池島教会が臨時総会をひらき、壮年会を設立した。
- 5・21 平戸北松地区連合役員会が使徒職評議会として発足。会長松永金次郎、副会長浜村藤次郎、浜崎敏を選任。行事計画として、①リーダー練成会を9月23日、②殉教者コンスタンチノ神父350年祭を9月17日、③神学校援助、④移動信徒対策などを決めた。上神崎教会信徒会館落成式。神の島教会が愛児園と小瀬戸の小百合幼稚園合同の大運動会を催す。
- 5・27 日本カトリック医療福祉施設連合大会がセンターで開かれ、120名が参集し、カトリック病院の根本問題、現代社会と医療福祉についてシンポジウムを行なった。
- 5・27～28 高島教会が役員1泊研修会をセンターで行ない、三末師「教会とは」、井上康宏「小教区におけるリーダー練成の必要性」、西田悟「信徒の使命」の講話をもとに話合った。
- 5・28 青年連協がリーダー研修会を開き350名参加、テーマ「組織を考える」のもとに橋本師「何故青年会をしなくてはいけないか」、平野師「組織のあり方」の講話を中心にミーティングした。
- 5・31 聖母の騎士修道女会で16名の誓願式と聖ヨゼフのチャペル祝別式。
- 6・1 植松教会に「聖母の使徒会」が発足し、各家庭を巡回して家庭奉献式をした。
- 6・1～3 東アジア司牧研究所（フィリピン・ケソン市）日本グループ同窓会が長崎黙想の家でひらかれ、21名が参加（長崎からは三村師、野下師）。
- 6・4 本原教会が母親への広報を考える集いを開き、20余名が参加した。五島福見教会の要理教室（信徒館）落成。
- 6・5～13 全国司祭司牧研修会が雲仙妙見山荘で行なわれ、27名参加（長崎から5名）。
- 6・10 九州カトリック学校長会が長崎黙想の家でひらかれ、小・中・高校長45名が集まり、上智大学ヘルベック師と片岡弥吉教授が講演した。
- 6・17～18 使徒職教区評が移住信徒系の研修会をセンターで

- 催し、39小教区49名が参加した。高谷師「移動信徒対策についての教区方針と事務局の活動」、井上康宏「移動信徒係の小教区における活動分野」、本山初見「今までの全国会議を省みて」、山本「対策上の諸問題」、深堀長一「公共職業安定所のサービスとその利用」の講話と問題提起があった。
- 6・24 北松連合青年会が第2回練成会を平戸口教会で行ない、70名参加、テーマ「何故、わたしはキリスト者なのか」を討論した。
- 6・25 浦上教会SVPとエリザベト会23名が、三ッ山老人ホームで草刈と寝具手入れなどの奉仕作業をした。
- 6・26～27 司祭評議会がセンター会議室で開かれ、規約の検討、経済問題、神学校問題などについて討議した。
- 6・28 勤労連が「明日の教会を語る会」を本原教会で開き90名参集、深堀明義師が「教会の民主化」について講話した。
- 6・29 男子聖パウロ会平松豊美師、川本敏雄師がローマで叙階式。
- 7・3 大浦天主堂の新書院祝別。
- 7・8～9 南山学園職員研修会が長崎黙想の家で催され、鹿児島ラサール学園大友成彦校長が「カトリック学校の教職員の果たすべき役割」について講演した。
- 7・12 純心女子学園で愛の献血が行なわれ、短大生71名、高校生70名が献血した。
- 7・15 八幡町教会の清川宗親（三菱電機）が「働く青少年の生活」論文で労働大臣賞をうけた。
- 7・16 愛宕町教会のクロトー師司祭銀祝祝賀会、「教会ニュース」を創刊。
- 7・25 教区神学講座の夏期講座がフランシスコ病院講堂で開講された。
- 7・29 五島岐宿町楠原こども会が、子供会活動の模範として県下ではじめて全国子供会連合会の表彰をうけた。
- 7・29～30 青年連協がカトリック青年ジャンボリーを聖和女子学園で催し 400名参集（本村会長、山川実行委員長）エールマスター黒川、高月氏の指導でキャンプファイヤー、フォークダンスを楽しみ、橋本師ら4師の共同ミサで閉じた。
- 7・30 佐世保相の浦教会が使徒職総会をひらき新役員に会長川畑昭雄を選任した。
- 8・4 浦頭教会が出身司祭の川口善助師、江口美好師、清川武夫師、竹山栄師の叙階25年銀祝の儀を催した。
- 8・10 マリア会清水一男師が本原教会で叙階式。
- 8・13 浦頭教会が信徒大会をひらき「子供を非行から守る健全育成」をテーマに、奥浦中学入口校長、福江署片岡防犯係長を招き講話を聞いた。
- 8・14 皆瀬教会の納骨堂祝別。
- 8・16～18 高校生会が第3回教区大会を純心女子学園で催し、テーマ「真の高校生とは」のもとにセミナー。240名

《昭和47年》

参加。

- 8・24 上中五島地区使徒職研修会が青方町福祉センターで開かれ、高谷師と教区評井上副会長が出席した。60名参加。
- 8・28 純心聖母会が26名の誓願・着衣式。
- 9・3～17 青年連協が愛の献血運動、協力者 345名、採血者 275名。
- 9・5 福江市奥浦慈恵保育園起工式。
- 9・8 江迎町潜竜聖母幼稚園落成祝別式。
- 9・11 教区結婚講座（第3回）をセンターで開講。
- 9・12 八幡町教会が小教区創設10周年祭を行ない、片岡弥吉教授「八幡町小教区のむかし」の講演があった。
青年連協がリバス師（イエズス会）を囲んで「出発への対話」集会をひらいた。
- 9・13 共助組合本部ラフオント師らが俵町、城山、浦上教会の共助組合を訪問した。
- 9・15 高校生会が長崎地区総会と課題研究発表会をセンターで催し、70余名参加。課題は「ヨーロッパとアジアにおける宗教の発展」で、第1位中町教会が入賞した。
- 9・15～17 クルシリヨ（男子第13回）が長崎黙想の家で行なわれ、23名参加。また同日（男子第14回）が福江教会で行なわれ、24名が参加した。
- 9・17 平戸口教会が北松地区司祭団と顧問会の協賛で、カミロ・コンスタンツオ殉教 350周年記念祭を催し、教会

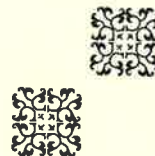
から罪殉教地まで聖体行列をした。参列者2500名。

- 9・22 五島丸尾教会落成祝別式。
- 10・3～4 老人福祉施設協議会第4回全国大会がセンターで催され、①カトリック施設における宗教的処遇、②働く修道者と入所者との問題点、③施設と地域社会の交流、④カトリック老人福祉部会のあり方をテーマに協議した。また、県老人福祉係中島係長「老人ホームの現状と今後の方向」、全国老人福祉協議会杉村副会長「老人の処遇」の講演があった。
- 10・6 老人ホーム5施設合同大運動会が湯江中グラウンドで行なわれ、聖フランシスコ園、恵の丘、聖マルコ老人ホーム、今村聖母園、聖母の騎士園から 100余名参加。
- 10・7 渋谷治師逝去（79才）。
- 10・10 城山教会の女子バスケットチームが長崎市民体育大会で優勝した。
- 10・11 教区移住信徒対策委員会（5地区担当司祭と使徒職教区評理事）が、「移住信徒のしおり」作成を検討、小教区移住信徒係の研修、隣接教会連合の送別会、父母の会の組織化を推進することを申し合わせた。
- 10・22 本原教会青年会が「教会とわたし」主張大会を行ない、110名参加。
- 10・28 神言会桃田清明師が名古屋神言会聖堂で叙階式。
海星学園が田中澄江文化講演会を催した。テーマは、「生きること」。

- 10・29 高校生会が長崎地区理事会をひらき、新会長に石原幸靖を選任した。
- 11・1 海星学園80周年記念式典、南山学園20周年記念式典。
- 11・4 教区要理教育研修会（第3回）が長崎黙想の家で行なわれ、上智大学ネメシュ師を講師に「信仰を育てる要理教育」を研修。
- 11・5 平戸教会が教会運動場での第1回運動会を開催。400余名の田助ハイヤ節踊りを楽しんだ。
- 11・6～10 教区司祭黙想会、ネメシュ師の指導。
- 11・11 教職員協が大会を南山学園でひらき、リバス師（CLC指導者）「小さきキリストの共同体」、三末師「教師としての使徒職」の講演があった。
長崎市民音楽祭にシスター連合合唱団が初出演した。
- 11・12 北松地区連合青年会（大山会長）が、第7回青年文化祭を平戸愛の園保育園で開催し、演芸などを行なった。
250名参加。
- 11・15 青砂浦教会が竹山師を団長に奈良尾町立老人ホーム「朝海荘」を慰問した。
- 11・15～16 全国移住センターの会合が大阪小神学校で行なわれ、長崎教区から三末師ら3名出席、送り出し側と受け入れ側の交流、情報交換などが話われた。
- 11・19 北松地区小学生親善球技大会（第1回）が平戸中グラウンドで催され、女子バレーボールと男子ソフトボール10チーム参加。
- 11・19 勤労連がソフトボール大会を南山学園グラウンドで催し、21チーム参加。
青年連協の文化部主催で写真展「青年会の歩み」がセンターで催され、7小教区青年会が出品した。
中町教会壮年会が、第1回教養講座を信徒会館で行なった。
- 11・22～23 北松地区キリスト共同体練成会（第3回）が上神崎教会で行なわれ、「われかれ皆兄弟」のテーマで司祭9名、信徒102名が参加。講師は中山師（海星）、田川師（平戸）、田川光成（城山）、山田源吾（平戸）であった。
- 11・23 使徒職教区評が第5回総会を南山学園で開き47名参集。松永久次郎師「キリスト者の社会参加」の講演と川原光次「組織活動の具体的実践」報告があり、第2期役員に会長本山初見、副会長井上康宏、金子松次を再選した。
- 12・3 永井学生センター新館落成式。
小川靖忠師（鹿児島教区・大浦出身）が鹿児島ザビエル教会で叙階式。
- 12・10 中町教会SVP会員10名が歳末助け合い街頭募金と孤老訪問を行なう。
青年連協100名がNHK街頭募金に協力。佐世保地区連合青年会もはじめて街頭募金を行なう。

《昭和47年》

- 12・17 勤労連15名が浜町と新大工町で街頭募金。
- 12・19 長崎県明るい社会づくり運動推進協議会結成総会が長崎グランドホテルで開かれ、中島万利師、パチェコ師、三末篤実師、深堀明義師が出席、三末師が常任理事に選出された。
- 12・24 太田尾教会のファチマの聖母像除幕。
- 12・31 久賀島浜脇教会が久賀島大火で救援活動をした。



《昭和48年》

- 1・2 鯛の浦教会が正月帰省者を迎えて、親子歌合戦をつぼみ幼稚園で催した。
浦頭教会が第4回ふるさと新年会を催し、帰郷の青年ら50名が参加した。
- 1・10 勤労連の役員会がセンターで開かれ「やる気」を確認し、教区財政や教会維持費を中心に意見交換した。
- 1・14 平戸教会に一粒会が発足した。ピンセンシオ会の補助的役割をするため、婦人会有志がつくった会。
西町教会が運営委員会を長崎黙想の家でひらき、新役員に会長森田正夫を選任、地区集会のもち方について研修した。
- 1・14～15 教区要理教師の会が第4回研修会を開き、63名参加。サンスルピス大神学校野間重信師を講師に「キリスト者と社会」について研修した。
- 1・15 西町教会婦人会が、成人式（25名）に聖書をプレゼントした。
- 1・17 青年連協の役員改選で、会長中村省司、副会長山本守、山田登貴子を選任した。
- 1・19 信仰一致の祈禱会が聖三一教会で行なわれ、80名参加。
使徒職教区評が使徒職団体連絡会を発足させ、年間行事計画の調整や協力をはかることにした。
- 1・23 フランス大使ラブレ夫妻が、大浦天主堂や出津ド・ロ記念館を訪問した。
- 2・2 レデンプトリスチン女子修道会で、ベトナム人3名の初誓願式。
- 2・4 上中五島地区使徒職評議会が青砂浦教会でひらかれ、「明るい社会づくり運動」に全面協力することを決めた。会長に下谷孝を選任した。
大野教会司祭館落成式。
- 2・5 西坂26聖人殉教記念ミサ。
- 2・6 佐世保地区信徒教養講座が俵町教会で催された。
- 2・10～11 本原教会が役員研修会をセンターで行ない、40名参加。三末師「教会について」、西田悟「信徒の使命」、井上康宏「小教区におけるリーダーの任務」の講話を中心に話合った。
- 2・11 沖縄那覇司教に石神忠真師が選任され祝聖式。
- 2・15 南田平教会が田平教会と改名。
- 2・18 神学校特別援助「無原罪の聖母会」長崎市内支部長会議を開く。
- 2・19 五島桐保育園落成式。
- 2・23～25 カトリック全国書道展（第7回）が県立美術博物館で開催され、純心学園高校2年山下妙子が文部大臣賞をうけた。
- 2・24 南山学園宗教研究部が、弾圧停止の感謝ミサを信者生徒全員参加で献げた。
- 2・28 聖婢姉妹会で16名の誓願式。
- 3・1 南山高校教諭井上康宏「バス旅行のための長崎探訪」出版。

《昭和48年》

- 3・5 田口芳五郎大阪大司教が枢機卿に任命され、ローマで親任式。
- 3・13 神の島教会婦人会が県福祉基金の「ふくし号」で、みさかえの園に奉仕作業をした。
- 3・17 教区要理教師資格証書授与式が行なわれ、2級資格を101名がうけた。
「要理教育研究所」を設立。
- 3・18 下五島地区の青年交歓会が福江教会で行なわれ、福江、浦頭、久賀、楠原、玉の浦の各小教区から30名が初会合した。
平戸教会育友会（白浜武雄会長）が、中卒者23名を招いて祝賀夕食会を催した。
使徒職教区評が総会を開き、日本司教団宣言「社会に福音を」の実践と県民運動の「明るい社会づくり運動」について評議し、県の森茂事務局長を招いて運動の趣旨や方針を聞いた。また、迫害おわって100周年記念行事として「教区子供大会」を8月16日に開催すると決めた。
- 3・18～21 クルシリヨ（女子第8回）が長崎黙想の家で行なわれ、25名参加。
- 3・19 大山繁師が浦上天主堂で叙階式。
- 3・21 三井楽町岳教会司祭館落成祝別式。
五島打折教会の新築聖堂祝別。
- 3・25 五島葛島のカトリック信者（22世帯 101名）全員が離島。
- 3・25 レジオ長崎クリヤがアチェスをセンターで行ない50名参加。
- 3・26 高校生会が役員練成会を行ない①会議のもち方、②レクレーションの方法、③高校生会のあり方、④教区大会についての諸問題を研究討議した。
- 4・1 西町教会が信徒総会を開き、フローレス師「共同体について」の講演をきいた。
- 4・2 木鉢教会の双葉園（おさなご会）が長崎市長から表彰された。
- 4・6 青年連協のよびかけで8名が花見客でよごれた原爆公園の清掃作業をした。
京都の身障者の会「子羊会」30名が長崎巡礼にきた。
- 4・13 北松地区連合婦人会が生月町山田教会で開かれ、33名出席し、地域社会の教化と相互連繫を話し、新役員に会長古川コト、副会長上尾花子、梅田スミエを選任した。
- 4・15 田平教会で小教区出身20人目の司祭浜崎正博師を迎えて祝賀会。
使徒職教区評が「教区子供大会実行委員会」をつくり、第1回委員会を開いた。
- 4・16～18 船員のための年の黙想会が、長崎黙想の家で行なわれた。
- 4・22 城山教会が小教区使徒職大会を開いた。

《昭和48年》

- 4・28～29 青年連協が研修会を長崎黙想の家で行ない、テーマ「期待されるリーダー像」を求めて、KJ法による話し合いをした。
- 4・29 本原教会壮年会が、家族ぐるみで原城見学をした。150名参加。
- 4・29～30 青年連協がリーダー修養会を長崎黙想の家で行ない、13教区56名が参加。「自分は何故、青年会活動をしているか」のテーマで討論した。
- 4・30 勤労連が青年連協と共催のメーデー前夜祭屋外ミサを、26聖人記念碑前で献げた。140名参加。
- 5・5 北松地区顧問連合会が第25回定例総会を紐差教会でひらき、県外就職者の問題について意見交換をした。
- 5・5～6 教区要理教育研修会（第6回）が行なわれ、特別講師にリバス師を迎えて「現代世界に信仰をどう生かすか」を研修した。280名参加。
- 5・6 教区子供大会実行委員会第2回が開かれ、正式名称を「カトリック長崎教区子供大会」、サブタイトルに「迫害おわって百年記念」「召命の促進」とすることを決め、各係の具体的計画の進捗状況の報告をした。
- 5・13 城山教会が創立20周年祭。
本河内町聖母の騎士のルルドへの参道にロザリオ15玄義の碑完成祝別式。
西町教会婦人会80名が出津聖マルコ老人ホーム慰問。
滑石教会が信徒会役員研修会をセンターで行ない、「委員としての使命の中に信仰のよろこびを見出そう」のテーマで話合った。24名参加。
- 5・13 名古屋市布池司教座聖堂で、長崎教区出身の「若人の集い」が催され、250名参加。
- 5・15 教区要理教育研究所が成人信徒のための季刊誌「要理教師の友」を創刊。
- 5・20 本原教会青年会と学生会60名がみさかえの園に勤労奉仕をした。
竹山栄師司祭銀祝を本河内教会で祝う。
- 5・24 南山幼稚園・小学校で聖母行列を行ない、本田利光彫刻の聖母像祝別。
- 5・25 北高小長井町みさかえの園あゆみの家開設。
- 5・27 倭町教会でプロテスタントとの共同祈願式。
- 6・3 黒崎教会に壮年会結成（35名、平野健一会長）。
愛宕町教会が小教区使徒職大会。
聖書講演会がプロテスタントと合同でセンターで開催、エクメニズム（信仰一致運動）の一環、日本聖書協会総理事宮内俊三氏が講演し、250名参加。
- 6・8～10 聖書展を好文堂で催し、延1300名が参観した。
- 6・10 教区子供大会実行委員会第3回を開き、参加者数は約2065名、民宿希望者1300名として、具体的準備に入ることを確認し、プログラムを決定した。
神の島教会に健全な青少年育成をめざす「清い瞳の会」が発足した。

《昭和48年》

- 6・13 聖母の騎士修道女会で14名の誓願式。
- 6・14 聖年行事実行委員会が設置され、第1回委員会で聖年開始のミサを7月10日浦上天主堂で献げること、教区内巡礼指定教会を浦上、大浦、中町、西坂の4教会とすること、団体巡礼はリボンに記名して聖年の十字架にかけること等を決めた。
司祭評議会（第4回）が開かれ、①小教区評議会規約案の検討、②司祭生活費補助の件、③教区子供大会への協力などを評議した。
- 6・24 本原教会がマリアの山まで聖体行列を行なった。
- 6・27 勤労連が「明日の教会を語る会」を城山教会で開き、80名参加、南山学園大橋嘉男校長「家庭教育と父親」の講話をきいた。
- 6・30 全小教区顧問大会（第1回）が催され、62小教区 222名が参集、①教会評議会について（里脇大司教）②要理教育について（宮川師）、③司牧・使徒職関係（下川師）、④教区会計について（西田師）、⑤センター運営維持について（川原師）などの説明をうけ、理解と協力を話合った。
- 7・7 青年連協が西アフリカ、インドの飢餓救援の街頭募金。
- 7・20 愛宕町教会の片山弥三郎が、防犯活動で警察庁長官表彰をうけた。
- 7・22 佐世保市大崎教会献堂式。
鯛の浦教会婦人会が部落で困っている人達を援助する

ため「愛の手を」のポスターを掲げ、慈善箱を設置した。

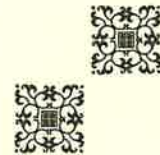
- 7・26～29 平戸北松地区の上神崎、宝亀、平戸口、田平の4教会で小・中学生の黙想会が行なわれ、都市移住センター、東京、名古屋、大阪、福山で働くシスター12名が指導した。
- 7・28 福江市民音楽の集いが国際会館で行なわれ、聖婢姉妹会シスター33名の「海の星聖歌合唱団」も出演して好評をえた。
- 7・29 浦頭教会がキリシタン文化講演会を、平和のぼら保育園ホールで行ない、片岡弥吉教授「浦頭キリシタン史」の講演をきいた。
佐世保地区連合青年会がソフトボール大会を市民総合グランドで行ない、男14チーム、女3チームが参加した。
- 8・5 教区要理講習会が五島福見教会でひらかれ、70名参加。
- 8・8～9 教区要理教師の会が第7回要理教育研修会を行ない、特別講師にネメシェギ師（イエズス会）を招いて、「カトリック入門の神学的背景」をテーマに研修。46名参加。
- 8・10 壱岐教会が福者オグスチノ太田殉教祈念祭を行なった。
- 8・12～14 高校生会が第4回教区大会を佐世保の鳥帽子岳にある「青少年の天地」で開き、170名が参加。テーマ「若人」を基に家庭問題、学校問題、私たちと宗教、

- 生きがいの4つのセミナー内容を、見る、判断する、実行するというJOC方式で討議した。
- 8・15 純心女子学園中・高生の「小羊会」87名が、恵の丘の老人ホームを慰問し、奉仕作業や演劇などをした。
- 8・16～17 信仰弾圧停止 100年記念教区子供大会が国際体育館で催され、2000人が参加。大会標語「わたしたちはみな兄弟」「神さまがあなたを呼んでいる」。戸村師が講話し、作文コンテスト入賞者の表彰があり、大司教賞を小学生部小出博史（平戸）、中学生部下原香奈子（土井浦）がうけた。コンテストには330名が応募した。歌と演劇があり、民宿、翌朝は浦上天主堂で「神の家に行こうといわれて、わたしの心は喜びにはずんだ」共同ミサが献げられた。
- 8・19 教区要理講習会が福江教会でひらかれた。
- 8・24 教区神学講座夏期集中コースが開講され、66名受講。
- 8・25 下五島地区カトリック子供大会が福江国際会館で催され、8小教区から1300名が参加。午前中は講話と記念ミサ、午後は親善スポーツ大会を行なった。
- 8・28 純心聖母会で26名の誓願と着衣式。
- 9・2 教区要理講習会が飽の浦教会でひらかれ109名参加。
- 9・10 教区結婚講座（第5回）を開講、74名が受講した。
- 9・14 青年連協が練成会を長崎黙想の家で行ない、42名参加。
- 9・15 伊王島大明寺教会の新聖堂祝別式。
- 9・16 高校生会が課題研究発表会をセンターで行ない、市内11小教区が発表。テーマ「長崎の歴史」、1位稻佐教会「原爆」。
- 9・27～29 全国カトリック児童収容施設職員研修大会（第7回）がセンターで開かれ、横須賀キリスト社会館長阿部志郎氏「社会福祉の原点とキリスト教」の講演があり、カトリック的人間尊重を基本とした労務管理、就業規則のあり方などについて研修した。
- 9・29 神言会川上栄光師、浜口吉隆師、畑上敏男師が名古屋神言会大神学校聖堂で叙階式。
- 10・1～2 全国カトリック老人福祉施設大会が本河内教会ホールで開かれ、全国40施設から60名参加。カリタスジャパン事務局長松村師の講演を基に奉仕者の姿を求め、松永久次郎師「キリスト教における福祉の意味」の講演があった。
- 10・7～10 クルシリヨ（男子第15回）が長崎黙想の家で行なわれ、17名参加。
- 10・10 高校生会が理事会を開き、新役員に会長入江英敏、副会長浦川昭二を選任。佐世保地区顧問連合会が総会を聖心幼稚園講堂でひらき、28名出席、九州相互銀行会長秦設爾氏「動揺する世界の政治経済の中における日本」の講演をきき、また、下川師が「ベトナムに愛の手を」と訴えた。
- 10・14 青砂浦教会が運動公園開設を記念して信徒運動会を催した。

《昭和48年》

- 10・20 キリシタン関係遺品展が県立美術博物館でひらかれた。南山学園職員研修会が長崎黙想の家で開かれ、長崎大学心理学教室重永幸男博士「生徒指導の諸問題」の講話を中心に討議した。
- 10・21 上中五島地区使徒職評議会が青砂浦公民館でひらかれ、信仰実践と生活態度について意見交換をし、現代福音宣伝についてのアンケートを検討した。鯛の浦の希望の灯学園にプロレスのジャイアント馬場らが訪問した。
- 10・23 黒崎聖母保育園が創立10周年記念式典を行ない、ファチマの聖母像除幕。
- 10・28 教区要理講習会が平戸教会で行なわれた。長崎市民音楽祭にシスター連合と、オラトリオ合唱団による混声合唱団（指揮藤屋伍郎）が出演した。
- 10～29～30 南ベトナムのミン神父「ベトナムの実状について」講演会がセンター（400名参集）と佐世保市民会館（300名参集）でひらかれ、難民・戦後復興に愛の手を訴えた。
- 11・3 五島青方町のマリアの宣教者聖フランシスコ修道院新築祝別式。福江の総合市民文化祭に聖婢姉妹会コーラス・海の星聖歌合唱団が出演。奈良県大和郡山で浦上信徒流配記念祭が行なわれた。
- 11・3～4 平戸北松地区高校生会が第1回地区大会を上神崎教会でひらき、60余名が集まり、山川師「聖書について」、竹山師「聖体について」の講話をきき、フォーク・ミサを献げ、リクレーションで兄弟感を深め、また、役員に支部長小出清喜、副支部長谷口重則、平本清子を選出した。
- 11・4 教区要理講習会が佐世保市三浦町教会で開かれ、90名受講。
- 11・10 教職員協が第27回大会を南山学園でひらき、九州大学教育学部小林博英助教授「開かれた存在としての人間の召命と教育」の講演を中心に討議した。
- 11・10～11 佐世保地区高校生会が地区大会を俵町教会でひらき、テーマ「若者とカトリック」を考え、①小教区における活動、②都会生活、③高校生として社会で何ができるか、④自殺について分科会討論をした。また役員に会長平本祐二、副会長紙村清親を選任。
- 11・11 城山教会が創設20周年記念バザーを催す。
- 11・17～18 青年連協が10周年記念大会をセンターと国際文化会館で催し、第1日目の「ここに集い考える会」に250名、第2日目は聖劇「岩永おまき姉」を上演し、1500名が観劇し、聖体降福式で幕をおろした。
- 11・21 勤労連が会員追悼ミサを献げた。サンスルピス大神学院創立25周年の記念ミサと祝賀会が行なわれた。
- 11・23 愛宕町教会の長崎聖家族墓地祝別。

- 11・27 司祭研修会がセンターで催され、①世界の現状における福音宣教の概観、②福音宣教に関する教会の現状の神学的評価、③福音宣教は今日どのように進められるべきかの3テーマで講義をうけ、要理教育、信徒使徒職、典礼への信徒の積極的参加、両親の宗教的再教育、青年の司牧などの諸問題を討議した。
- 11・30 司牧・使徒職合同評議会がセンターでひらかれ、司祭68名、信徒63名が出席し、里脇大司教「現代世界への福音宣教の適用について」の講話をきき、小教区における司牧と使徒職の現状と問題点について部会討議した。
- 12・2 佐世保地区連合青年会（嶋本勝博会長）がベトナム難民救済のため街頭募金。
- 12・8 長崎市滑石町のカリタス修道女会で5名の初誓願式と6名の銀祝祝賀会。
- 12・9 青年連協が加盟15小教区から5～6名ずつを動員して歳末助け合い共同募金に街頭に出た。
- 12・12 教区司祭50名がキリスト教共同体練成会のロムバルディ師（イエズス会）の講話を聞いた。
- 12・24 永井学生センターがオールナイトパーティを催し120名の学生が参加した。
山口大司教の司祭金祝に教皇パウロ6世から親書が寄せられた。



《昭和49年》

- 1・3～5 高校生会が長崎、佐世保、平戸地区でベトナム難民救済のため街頭募金。
- 1・5 平戸口教会に教会評議会が発足。
- 1・13 西町教会が役員研修会を長崎黙想の家で行ない、46名参加、クラークスン師「キリストと共に私の活動を」の講話をきいた。
- 1・20 長崎修道女連盟が小バザーをして、神学校に寄金した。長崎市内小教区の使徒職会長連絡会議が発足し、第1回会議でベトナム救済募金を1戸平均200円目標に働きかけることにした。
- 1・22 信仰一致のキリスト教合同祈禱会が聖三一教会で催され、100余名参加。
- 1・23 勤労連が「大司教さまを囲む懇談会」（第1回）をセンターで開き34名参加し、教区維持費問題を卒直に話合った。
- 1・27 佐世保市天神町に信徒の公会堂「祈りの家」が竣工、落成式。
- 2・3 浦頭教会が児童生徒の寸劇大会を平和のばら保育園で催した。これは要理の勉強の一環として行なった。
- 2・8～11 クルシリヨ（女子第9回）が長崎黙想の家で行なわれ、44名参加。
- 2・10 井持浦教会がルルド創設75周年記念の学生作文大会を催す。
- 2・10～11 教区要理教師の会が第8回研修会をセンターで開き、特別講師に井上洋治師を招き「キリスト教と日本人」のテーマで研修した。
- 2・11 佐世保地区顧問連合会が鹿子前九十九島荘でひらかれ、司祭8名、顧問31名が参集し、教会維持費について研究し、教会の格差をなくすよう提案もなされた。
- 2・14 司祭評議会（第5回）が開かれ、①信仰擁護のための（未信者同志の）婚姻解消に関する指令、②子供のミサ指針、③世界連邦日本宗教者代表大会、④要理コントロールなどについて研究、討議した。
- 2・17 長崎市内地区の婦人会役員集会がはじめて開かれ、使徒職教区評の奨めで「夏の役員研修会」の開催を決め、また連合婦人会組織をめざすことにした。
- 2・21 青年連協が役員改選し、会長七田均、副会長森内義人、宮崎朱美を任命した。
- 2・24 教区神学校特別援助「無原罪の聖母会」長崎市内地区支部長会がひらかれ、会の名称を「教区神学校後援会」と改め、会員を増加する努力を申し合わせた。
- 2・26 西町教会婦人会が総会を長崎黙想の家でひらき70名参加、「聖マリア・マザレロの生涯」を観映、「家庭祭壇を美しくしましょう」の標語を確認した。
- 2・28 聖婢姉妹会で7名の初誓願(第32回)と終身誓願式(第18回)。
- 3・1 諫早小教区の巡回・愛野教会がサレジオ会に移管された。主任司祭山口哲郎師が着任。

- 3・3 青砂浦教会が中高卒生60名を招いてお別れ会を催す。
- 3・10 上中五島地区使徒職評議会役員会が青砂浦教会でひらかれ、まず小教区をかためることを話合った。
- 3・15 聖母の騎士会畑中辰雄師ご逝去。
- 3・17 出津教会婦人会が中高卒生の壮行会を催す。
- 3・20 聖母の騎士会で浜田増治師の銀祝賀会。
- 3・21 使徒職教区評が総会を開き、「成人の宗教的再教育」をテーマに、ハトリック師（城山）が基調講話、具体的な活動例として、①クルシリヨについて（城山）②読書サークルについて（八幡町）③役員研修会の成果について（平戸）④隣組活動について（俵町）⑤恵みの会について（福江）等が報告され、それらをもとに評議された。
- 3・21～24 大浦教会でキリスト共同体練成会が、長崎教区の小教区としては初めて行なわれ、60名参加。
- 3・23 要理教師資格認定証授与式（第3回）で2級証書55名、1級証書38名が授与された。
- 3・25 青砂浦の青葉保育園落成式。
- 3・28 堂崎教会が県文化財に指定された。
- 3・31 五島楠原教会で狩浦正義師（名古屋）が初ミサを献げた。
- 4・1 教区要理教育委員会が新設され、委員長松永久次郎師、また司牧神学研修会事務局も新設され、事務局長宮川俊行師を任命。
- 4・3～4 高校生会がリーダー研修会を長崎黙想の家で行ない「魅力ある高校生会」をさぐり、川添新「人集めの方法」の講話。
- 4・14 浦頭教会使徒職評議会に婦人部会が発足（赤崎ツ子会長）。木鉢教会使徒職評議会が第1回意見発表会を催す。
- 4・15 長崎市茂木町のレデンプトリスチン修道院新築落成式。
- 4・16 教区広報委員会が教皇庁「全世界の対話と世界の宣教」テーマをうけて、「カトリック新聞を読もう」運動を推進することを決めた。
- 4・20 高島町端島が鉱業所閉鎖で無人島になり、信徒8戸転居。
- 4・21 大阪で長崎出身「移住信徒の集い」が催され、200名出席。ふる里友の会と大阪移住協議会の共催により玉造神学校で行なう。
- 4・26 勤労連の三菱造船部会が勤労感謝と安全祈願のミサを香焼教会で献げ、30名が与る。
- 4・29 佐世保地区連合青年会が少年育成のため、少年ソフトボール大会を相の浦総合グラウンドで開催した。
- 5・2～3 使徒職教区評が日本共助組合連合会と共催して、共助組合運動練成会をセンターで開き、50名参加、連合会長ラフォント師「使徒時代のキリスト教共同体」、下川師「信徒使徒職としての相互扶助活動」の講話があった。

《昭和49年》

- 5・2～5 クルシリヨ（男子第16回）が長崎黙想の家で行なわれ、39名参加。
- 5・3～5 高校生会が北松地区、佐世保地区、長崎地区で250名の参加をえて「美化運動」の清掃活動をした。
- 5・5 高島教会が教会改築15周年記念に初バザーを開催。
- 5・6 滑石教会ヨゼフ館落成祝別式。
- 5・10～11 新教皇庁大使イポリト・ロトリ大司教が非公式に長崎訪問。
- 5・11～12 青年連協がリーダー研修会を長崎黙想の家で行ない「信仰を深めよう」、「組織運動を考えよう」のテーマで討論した。
- 5・12 本河内教会がルルド祭を行ない、500名が参詣。
- 5・18 大本教会の社会活動団体「人類愛善会」主催の講演会で、松永久次郎師が「人みな兄弟」の講演をした。
- 5・19 聖心愛子会の立山修道院が長崎黙想の家横に竣工し、祝別式と殉教者の元后聖マリア像叙幕。
教区要理講習会が下神崎教会で開催され、73名参加。
- 5・20 サレジオ会最高評議員ウイリアム師が同会関係事業視察で来崎。
- 5・25 三つ山の軽費老人ホーム「ときわ荘」落成式。
- 5・26 教区要理講習会が本原教会で開催された。
曾根教会が教会運動場完成祝いと親睦の運動会を開催した。
東京「西海友の会」主催で、長崎出身者が里脇大司教と語る会を四谷雙葉学園でひらいた。
- 6・1 使徒職教区評が機関紙「使徒職アピール」を創刊し、成人の再教育の必要性を訴えた。
- 6・2 水の浦教会の巡回・山ノ田教会がダム工事で移転し、新教会の定礎式。
- 6・11～14 教区司祭黙想会、説教師は今田健美師（東京）。
- 6・23 教区要理講習会が出津教会で開催された。テーマは「家庭における宗教教育」。
教区全青年のソフトボール大会（第1回）準備会が俵町教会でひらかれ、期日を10月6日、場所を相の浦自衛隊グラウンドと決めた。
- 6・26 愛宕町教会でマルテル師司祭銀祝賀会。
- 7・7 愛宕町教会の聖アンナ会と小羊会が合同して「婦人会」発足、会長に片山寿恵子。
- 7・14 北松地区使徒職評議会が役員会を開き、大人の再教育では敬老精神の高揚をとりあげて目標設定、新役員に会長田川邦夫、副会長谷山一美、藤原庄一、上原花子を選任。
- 7・21 要理教師の会が青少年教育のための研修会をセンターで行ない、日本ボーイスカウト総主事川原謙三師が「長崎教区の子供育成のために」ボーイスカウトの原理と方法を講じた、120名参加。
水主町教会に高校生会が発足、会長に深堀清銑。
- 7・23 教区神学講座夏期集中コース開講、70名受講。

- 7・25 長崎市マリア園が県下児童福祉施設球技大会で優勝して九州大会に出場権獲得、準優勝は五島希望の灯学園。
- 7・27～28 婦人会役員研修会がセンターで開かれ、49教会166名参加、フランスのママさんカテキスタのサバティエ夫人も特別参加、下川師「婦人の使徒職活動」、里脇大司教「家庭における子供の教育」、川原師「結婚と教会法」の講演があり、婦人会の活動実践報告を行った。里脇大司教著「こどものしつけ」と、使徒職教区評が編集した「婦人会の組織と活動」を配布して活用を奨めた。
- 7・27～28 SVP教区理事会が年次総会を佐世保桜の聖母幼稚園でひらいたのを機に、俵町教会SVPが発足（6名）。
- 7・30 全五島カトリック教会連合会主催の井持浦ルルド75周年記念祭が催され、大雨と雷鳴の中、新設グラウンドに2000名が参加した。
- 8・1～3 教区司牧企画室主催のカトリックオルガニスト実技講習会（第1回）がひらかれ、講師に百本照夫（梅香崎中教諭）、シスター高田（幼きイエズス会）を迎えた。
- 8・4 教区要理講習会が福江教会でひらかれ86名参加、テーマは「反抗期の子供の教育について」「現代社会においてキリスト者はいかに生きるべきか」。
- 8・7 曾根教会にルルド完成、祝別式。
- 8・11 教区要理講習会が青砂浦教会でひらかれ120名参加、テーマは「教会と私たち」「神の存在について」。
- 8・12～14 高校生会が教区大会を南山学園で催し、「クエスション」（疑問）のテーマで210名参加。「信仰への疑問」、「実像と虚像」、「高校生会活動の意義」の三つのサブテーマでスウェーデン方式の話合いをした。
- 8・19 長崎地区侍者ソフトボール大会が三菱グラウンドで催され18チーム参加、優勝は城山チーム。
- 8・19～24 キリスト共同体練成会（第3回）が長崎黙想の家で行なわれ、47名参加、総指導者フローレス師（イエズス会）。
- 8・26～30 福江教会が宗教講座をひらき、100名受講、講師はサンスルピス大神教授山内清海師、「共産主義的人間観とキリスト教的人間観」「ノエの洪水の現代的意義」など。
- 8・27 純心聖母会で23名の誓願・着衣式。
- 9・10～11 平戸北松地区婦人連合会が婦人研修会を上神崎教会信愛会館で催し、100余名参加、里脇大司教「子どもの宗教教育について」、川原師「教会と法」、下川師「神の民の母として」の講話をきいた。
- 9・15 浦頭教会婦人会主催で敬老会が行なわれ、対象老人72名中30名が参加。
- 9・16 高校生会が長崎地区第3回課題研究発表会を浦上公民館で催し、テーマ「他宗教との対話」にとりくんだ。

《昭和49年》

- 1 位西町教会。
- 9・22 田平教会で敬老会をかねて小教区運動会を催す。
愛宕町教会が聖年巡礼で来崎した東京初台教会、鎌倉教会信徒25名を迎えて交流会、(さきに8月26日鹿兒島教区信徒とも交流会)。
- 9・22~23 佐世保地区顧問連合会(第5回)が三浦町教会で開かれ司祭9名、顧問27名が参集、教会維持費の改善、移住者対策、婦人会活動のあり方などを検討した。
生月町山田教会が練成会を行ない、浦上教会の水浦久之、浜辺要作、深堀キン子、シスター青木の応援参加をえて、教育、婦人会活動、小教区運営について研修した。
- 9・23 聖フランシスコ第三会九州地区総会が長崎信愛幼稚園講堂でひらかれ、長崎、福岡、大分から300名参集、聖ボナベンツラ700周年記念祭をかねて盛会。戸村悦夫師「聖ボナベンツラの謙遜について」、ヤノ師「聖ボナベンツラの祈りの道——心のきよめ、めぐみに照らし、至聖なる神に一致する」の講話がなされた。
- 9・26 県・明るい社会づくり運動(明社運動)大会が長崎市民会館でひらかれたが、副会長里脇大司教が協働のあいさつをされた。
- 10・2 聖フランシスコ第三会連合会が三浦町教会でひらかれ三浦町、鹿子前、皆瀬、潜竜、俵町の5兄弟会から80名参集。
- 10・6 勤労連がソフトボール大会を南山学園グラウンドで行ない、18チーム参加。
神学校後援会支部長会議。
教区青年ソフトボール大会が佐世保市相の浦自衛隊グラウンドで初めて催され、佐世保、北松、下五島、長崎の各地区から12チーム参加。優勝は浅子教会。
- 10・8 常任司教委員会がセンターで開かれた。
- 10・9 宣教・司牧司教委員会が開かれた。
- 10・15 カリタス・ジャパン懇談会がひらかれ理事長松村師らと教区から下川師、三村師が出席、長崎教区のカリタス・ジャパン委員会構成の件、今年度「盲人に声のプレゼント運動」を展開すること、来年四旬節を中心に「心身障害者への愛の運動」を推進することなどを決めた。
- 10・19 長崎市民音楽祭に長崎カトリック合唱団とシスター連合合唱団が参加した。(長崎カトリック合唱団は6月発足、顧問橋本師、指揮西田満、団員50名)。
- 10・20 名古屋教区ふる里会が第2回秋のレクリエーション大会を名古屋南山学園グラウンドで催し、長崎出身者350名が参加。
佐世保市船越教会新築落成祝別式。
- 10・25 教区聖年行事委員会が企画した聖地巡礼第1陣44名出発、団長松永久次郎師、副団長熊谷森一師、出口喜左衛。

- 10・27 神の島教会に北海道、東京、姫路から37名の巡礼団が訪れた。
- 10・29～30 世界連邦平和促進宗教者大会（第6回）が市民会館と浦上天主堂で催され、各宗から400名参加、メインテーマ「人類の和解」、分科会テーマ①友愛と信頼による世界への建設、②アジアの人びととの相互理解と真の交流、③日本の心の再発見、浦上天主堂での平和祈願荘厳ミサに2000名が与って聖堂を埋める。
- 11・3 奈良県郡山教会で浦上信徒流配者殉教記念祭。中町教会が要理教育設備の充実のためバザー開催。福江市制施行20周年記念の市民文化祭で、長崎大司教区が福江大火の救援活動で表彰された。
- 11・1～4 クルシリヨ（女子第10回）が長崎黙想の家で行なわれ、43名参加。
- 11・4 要理教師の会が要理教育研修会をひらき、120名参加、シスター菊地「キリストとの出会い」の講話。
- 11・6 本河内聖母の騎士修道院をコンベントアル聖フランシスコ会総長ボンマルコ師が訪問された。
- 11・8 教区聖年行事委員会企画の聖地巡礼第2陣41名出発、団長松永師、副団長永田静一師、江口源一。
- 11・9 佐世保地区高校生会が大会を青少年の天地で開催し、40名参加。メインテーマ「友情」について討議した。
- 11・10 平戸北松地区使徒職評議会が役員会を紐差教会でひらき、敬老行事について報告を求め、平戸教会が計画しているザビエル425年記念祭への協力を確認。小教区対抗の壮年・婦人会球技大会開催を決めた。
- 11・16 青年連協の布教部が永井学生センターで「布教できるか」のテーマで研修会。
- 11・17 佐世保地区移住対策研修会（第2回）が相の浦教会で行なわれ、司祭と係19名参加。教区要理講習会が鹿子前教会でひらかれ、90名参加。シスター野中「反抗期の子供のしつけ」、シスター豊原「教会と私たち」の講話。
- 11・23～24 使徒職教区評が総会をひらき、サンスルピス大神教授山内清海師「信徒徒職と成人の再教育」の講演をもとに研究討議し、役員改選で新会長に井上康宏、副会長本村保、堤辰一を選任した。
- 11・24 本原教会が第3回主張大会をひらき12名が熟弁。
- 11・30 教職員協が第28回大会をセンターで開催し100名参集、東京大学嘉治元郎教授「日本経済の今後とカトリック教育」の講演があった。役員改選で会長平元稔弘、副会長塩崎弘明、片岡寿を選任。
- 11・31 聖母の騎士修道女会で13名の誓願・着衣式。
- 12・2 平戸教会でザベリオ渡来425周年記念式典準備委員会（司祭団と連合顧問会常任委員ら30名）を発足させ打合せ。
- 12・8 長崎市内婦人会第3回連絡会がひらかれ、各婦人会の組織、会計、活動について報告と意見交換をした。

《昭和49年》

- 12・8 青年連協が歳末助け合い街頭募金。
カトリック大学生が西アフリカ飢饉援助の街頭募金。
- 12・14 カリタス・ジャパン、教区司牧企画室、使徒職教区評
の「カセットテープ1本運動」に協力をえて、県立盲
学校で贈呈式。
- 12・27～29 南山小学校児童がベトナムの人びとのための街頭
募金。



《昭和50年》

- 1・1 長崎市民駅伝に司祭チームが初参加、41チーム中27位。
- 1・2 青砂浦教会青年会が帰省した若者をまじえて部落1周駅伝大会を催し、40名参加。
- 1・3～4 高校生会が心身障害者のために街頭募金、長崎地区60名、佐世保地区25名参加。
- 1・14 長崎地区司祭団定例会（コンベンツ）で、26聖人殉教記念ミサ実行委員会設置、全国聖年記念行事を3月17日に、また聖年・大聖体行列を行なうことを申し合わせた。
- 1・19 西町教会が役員研修会を長崎黙想の家で行ない、今年度標語「キリストと共に兄弟の輪を広げよう」について話合った。役員改選で会長に浜口静雄を選任。
- 1・20 真手の浦小教区（主任平松一夫師）と丸尾小教区（主任片岡久司師）が新設された。
- 1・22 教区結婚講座（第8回）を開講。
- 1・26 勤労連が「大司教さまを囲む懇談会」（第2回）をひらき32名参加。
- 2・5 26聖人殉教記念共同司式ミサに1500名が与かり、パチエコ師が説教。
- 2・8～11 クルシリヨ（男子第17回）が長崎黙想の家で行なわれ、39名参加。
- 2・16 西町教会レジオマリエ「ルルドの聖母プレジウム」10周年祝賀に30名参加。
- 2・22～23 本原教会役員研修会をセンターで行ない、20名参加、下川師、井上康宏、西田悟が講話し、教会役員はどうあるべきかを考えた。
- 2・23 佐世保地区中・高卒県外就職者の集いが三浦町聖心幼稚園でひらかれ、50名参加、名古屋からパーセル師ら がきて予備教育をした。
- 2・27 東長崎聖母の騎士幼稚園新築落成祝別式。
- 2・28 聖婢姉妹会で24名の誓願式。
- 3・2 平戸北松地区移住信徒の集いが平戸愛の園保育所でひらかれ、70余名参加。
- 3・6 青砂浦教会が中高卒者の激励会を行ない、50余名参加。
- 3・8 教区要理教師資格認定証授与式（第4回）が行なわれ、2級50名、1級16名が授与された。
- 3・12 五島青方町の新聖堂祝別式。
- 3・15 聖マリア学院中学校の第13回卒業式典に感謝ミサをはじめてくみ入れた。
- 3・16 平戸教会で、ザビエル来島 425周年祭の大聖体行列が4500名の参加で、崎方公園まで行なわれた。レジオ長崎クリアのアチエスが西町教会で行なわれ、30名参加。出津教会婦人会主催の中高卒者激励会に20余名参加。
- 3・17 「刷新と和解」聖年式典。大浦天主堂庭のプチジャン司教像除幕式。センターで東京教区 110名を中心に各教区の信徒 400名の式典と講演・片岡弥吉教授「長崎における信仰の遺産」。浦上天主堂で共同司式ミサを献

《昭和50年》

げた。

- 3・19 浜口末雄師、小瀬良明師、前田万葉師、松下光男師、中島健二師が浦上天主堂で叙階式。
- 3・21 愛野町の小さき花の幼稚園新築落成。
- 3・23 北松地区連合青年会が総会を平戸教会でひらき、テーマ「仲間をふやし魅力ある青年会を」話し合い、指導者養成のための学習会、年間行事を検討、新役員に会長長田芳広、副会長松永一久、藤原栄を選任した。
- 3・30 城山教会が信者大会を開き、300名参集、スローガン「教会の発展は私たちの責任、私たちの仕事」をとりあげ、役員改選で会長に平野義春を任命した。
- 4・2 みさかえの園総合落成式。
- 4・7 レデンプトリスチン修道会が日本における創立25周年記念。
- 4・13 松下佐吉師叙階50年金祝を浦頭教会で祝う。
長崎市内地区婦人会役員連絡会で「青少年の家庭におけるしつけ」をテーマに、7月13日に研修会開催を決めた。
佐世保地区連合青年会が例会をひらき、新会長に浜口和博、副会長溝口秀次を選任し、年間行事に5月少年ソフト、7月青年ソフト、9月合同研修会、2月リーダー練成会を決め、少教区の青年会づくりをめざして努力することを申し合わせた。
- 4・20 使徒職教区評が総会をひらき、35教会代表らが参集、

教区クルシリスト大会と広報委員研修会の開催を決め、また、分担金を80円から100円に値上げ、実践を先行させ、使徒職を考えるよう訴えた。

- 4・27 鮑の浦教会の共同墓地に納骨堂が完成し祝別式。
- 4・28 神学校後援会支部長会議が開かれ、大司教が「司祭養成は教区の目玉」と激励。
- 4・30～5・3 クルシリヨ（女子第11回）が長崎黙想の家で行なわれ、32名参加。
- 5・1 浦上教会が永井博士25周年忌を行ない、「博士をしのぶ会」と愛の会食が田川市長ら来賓を迎え、センターで行なわれた。
- 5・2～3 典礼聖歌講習会がセンターホールで行なわれ、講師に東京芸大高田三郎教授と土屋正師（イエズス会）、オルガニスト綾部玲子氏を迎え230名受講。
- 5・4 下神崎教会に教会評議会結成。
- 5・11 大野教会でミサ中に「母の日」行事を組み入れる。
神の島教会がクルシリヨ・ミニ練成会を行ない、24名参加。教会とは、共同体における罪、信徒使徒職について考えた。
- 5・18 宝亀教会と山野教会、中野教会が第1回連合運動会を宝亀小学校グラウンドで開催した。
- 5・25 教区要理講習会が出津教会で行なわれ、120名参加。
シスター中尾「ご聖体と私たち」の講話。
佐世保地区連合青年会主催の第2回少年ソフトボール

- 大会が米軍グラウンドで催され6チーム参加。
- 5・25 五島山之田教会出身の木場田直が、「西海の灯——五島切支丹秘話」を自費出版。
- 5・27 植松教会の新聖堂と司祭館祝別式。
- 5・31 聖婢姉妹会が「お告げのマリア修道会」として再出発することになり、設立記念式典と浦上十字会創立100周年の祝賀。ローマ・福音宣教聖省の認可文書に里脇大司教が3月25日付署名して法的手続きを完了し、正式に修道会として発足することになった。
- 6・1 教区大聖体行列が浦上教会から南山学園グラウンド特設祭壇まで6500名が参加して行なわれた。被爆30周年を迎え真の世界平和を祈願し、浜口庄八師が説教した。
- 6・8 佐世保地区信徒使徒職連絡協議会が発足、会長堤辰一、副会長広田義雄、広田喙志。
平戸北松地区使徒職評議会（谷山一美会長）が地区役員会を平戸教会でひらき事業計画を協議し、敬老会の開催、小神学校への物資援助、カリタスジャパンに協力、クルシリヨ参加への配慮などを申し合わせた。
- 6・9 田中澄江講演会が平戸国際会館で行なわれ、平戸教会が後援した。
- 6・10～13 教区司祭黙想会、説教師ローランド師（パリ外国宣教会）、松下師金祝、野原師と原塚師の銀祝祝賀会も催した。
- 6・14 永井学生センターが「永井博士逝去25周年」集会を催した。
- 6・15 浦上教会が平和の聖母像前で、設置25周年「祈りの会」を催した。
諫早教会の純心幼稚園で松下佐吉師講演会。
- 6・21～22 日本司教団信徒使徒職委員会第1回総会が東京のカトリック中央協議会会議室で開かれ、長崎教区から井上康宏教区評会長が出席した。
- 6・28～29 国鉄カトリックの会（NRC）の第2回全国大会をホテル長崎で開き、全国から120名参集。「NRCの原点にかえろう」をテーマに話し合い、片岡弥吉教授「長崎と26聖人」の講演があった。
- 6・29 教区要理講習会が本原教会で行なわれ70名参加、シスター豊原「キリスト信者としての家庭生活」の講話。
- 7・11 幼きイエズス修道会が原爆殉難者慰霊祭と慰霊碑除幕式を赤城墓地で行ない、浦上天主堂で追悼ミサを献げた。（現在の信愛幼稚園のところに常清高等実践女学校、幼稚園、修道院があり被爆した）
- 7・12～13 SVP教区理事会が総会を長崎黙想の家でひらき67名参加。ハトリック師「教会の刷新とSVPの活動」の講演、テーマ「小教区のためになれる協議会づくり」を話し合い、血の通い合う共同体をめざした。
- 7・13 長崎地区婦人研修会が催され300名参加、里脇大司教「家庭における青少年の育成」、松永久次郎師「現代社会におけるカトリック婦人の役割」の講演をきき、

《昭和50年》

全体討議で「家庭と子供」のテーマで話合った。

- 7・20 使徒職教区評が機関誌「使徒職アピール」第2号を発行。「まず実行を」と訴えた。
上中五島地区使徒職協議会が青方福祉会館でひらかれ、使徒職、広報、移住問題の3部会にわかれて話合った。
- 7・22 教区神学講座第5回夏期集中コース開講。
- 7・25 五島希望の灯学園が長崎県・西日本新聞社共催の長崎県収容施設児童第27回バレーボール大会（諫早競技場）で優勝した。
- 7・25～27 田平、平戸口、上神崎、宝亀の4教会で中学生黙想会が行なわれ、移住担当の他教区シスターが協力した。
- 7・30～31 田平教会が地元出身司祭懇親会（20師中11師出席）と故中田藤吉師の遺徳顕彰を行ない、記念ミサを献げ、中田師胸像除幕式をした。また、浜崎勇著「瀬戸の十字架——田平キリシタン 100年の歩み」を発行した。
- 8・7 北松地区中学生球技大会（第7回）が平戸中学校で催され男子ソフト、女子バレーとも11チームが参加した。
- 8・10 北松地区連合青年ソフトボール大会が田平中学グラウンドで催され、13チーム参加。優勝は平戸教会。
- 8・11～13 高校生会が教区大会を佐世保市青少年の天地で開催し、230名参加、テーマ「風潮と自覚」について勉強会をし、キャンプを楽しんだ。
- 8・15 丸尾教会の墓地で死者のための墓前慰霊祭を行なった。
- 8・18 長崎地区侍者ソフトボール大会が南山学園グラウンドで催され、17チーム参加。
- 8・24 長崎地区青年ソフトボール大会が青年連協主催で行なわれ、18チーム参加。
- 8・25 教区結婚講座（第9回）を開講し、80名受講。
- 8・27 純心聖母会で16名の初誓願と着衣式。
- 9・1 師イエズス修道女会4名が浦上教会で活動を開始した。
- 9・7 本原教会が大村キリシタン殉教地に巡礼した。65名参加。
- 9・8 神言会創立100周年記念。
- 9・10 オプス・デイ会が里脇大司教の招請で浦上地区に活動センターを開設した。
- 9・14 佐世保地区使徒職連絡協議会が研修会を下神崎教会でひらき、50余名のリーダーが参加、下川師、井上康宏教区評会長が講話、①信者の意識の向上、②使徒職組織の強化、③使徒職活動のあり方、④布教の4テーマで話合った。
- 9・15 高校生会が第4回長崎地区課題研究発表会を浦上公民館で行ない、テーマ「教会の発展史」に9教会が発表、1位西町教会。
青砂浦教会が小教区報を創刊、3か月に1回発行予定。
- 9・21 青砂浦教会が聖母の騎士学園長稲国師の講演会を母親対象に催した。
- 9・22 小長井町聖母の騎士修道女会の本部修道院落成と創立

- 25周年記念式典。
- 9・22 褥崎教会の母の会22名が五島玉の浦ルルドに巡礼。
- 10・5 教区青年ソフトボール大会が南山学園グラウンドで催され、長崎、佐世保、北松地区予選を経た11チームが参加、鹿子前教会が優勝した。
- 10・7 レデンプトリスチン修道院で4名の終身誓願式。
- 10・8 教区聖地巡礼団出発、下川師を団長に31名。
- 10・16 五島冷水教会が運動場開設を祝って大運動会を催す。
- 10・19 神言会創立者ヤンゼン師と中国宣教師フライナダメツ師の列福式（ローマ）。
南山小学校・幼稚園の体育館落成祝別式。
お告げのマリア修道会の本部修道院で一斉に着衣式。
- 10・22 勤労連が「明日の教会を語る会」を本原教会でひらいた。テーマは「家庭における親の今と昔」。
- 10・26 平戸北松地区使徒職評議会主催の第1回教会対抗ソフトボール（壮年部）、バレーボール（婦人部）大会が平戸中学グラウンドで催され、ソフト16チーム、バレー13チーム参加。
浦上教会が信徒会館建設のため大バザーを開催。
- 10・27～29 高島教会が津和野乙女峠に巡礼と研修の旅を行ない18名参加。
- 10・31～11・3 クルシリヨ（男子18回）が長崎黙想の家で行なわれ27名参加。
- 11・1 純心女子短大創立25周年式典。
- 11・2 平戸市大佐志教会で教会運動場落成記念の運動会を催す。
- 11・3 教区要理教育研修会（第14回）が開かれ、特別講師に岩崎淳一師（東京）を招き、「中学生と共に考えよう」をテーマに研修。
福江市民文化祭に修道女の「海の星聖歌合唱団」が出演。
使徒職教区評が総会をひらき45名参集、①布教の方法、②成人の政治教育問題、③信徒の共同体意識の高揚——特に利己的な考え方の排除について討議した。
大浦教会の新聖堂落成祝別式。
- 11・4 平戸教会にソフトボール愛好会が発足し、社会に開かれた教会づくりをめざす。
- 11・5 沖縄海洋博覧会のバチカンデー。
- 11・15 教職員協が第29回大会をセンターで開催し80名参加、ヘルヴェク師「日本におけるカトリック学校の使命」の講演をきいた。
- 11・16 中町教会が故人となった歴代主任（島内師、有安師、田川師、古川師）の追悼ミサを献げた。
- 11・21 お告げのマリア修道会で16名の終身誓願宣立式。
- 11・22～23 青年連協が青年大会を南山小学校体育館で催し、第1日目模範勉強会、第2日目主張大会を行なった。大会テーマは「勉強会の意義を知ろう」。
- 11・23 神言会ルドビコ神学院で、神言会創立100周年と2会

《昭和50年》

員列福の祝賀会。

- 11・23～24 クルシリヨ教区ウルトラに 200名参集、小教区や家庭、職場でクルシリヨの体験がどのように生かされているかについて体験を分かち合い、「ウルトラ宣言」。
- 11・24 アウグスチノ会山口正美師が城山教会で叙階式。
- 11・30 平戸北松地区使徒職評議会（谷山一美会長）が教区小神学校に米、野菜、みかんなど4トン半トラックに満載しておくった。
- 12・7 佐世保地区連合青年会30名が歳末助け合い街頭募金。クリスマス集いの会（発起人深堀清）主催の「クリスマスの夕べ」（第1回）が長崎市民会館で催され、市民1000名が集う。
- 12・14 青年連協が住吉町、平和公園、大浦天主堂前で歳末助け合い街頭募金。
- 12・20 純心女子短大生がクリスマスの集いの「馬子屋の御子」に献げられた義捐金をもって、佐賀の精薄施設「いとし子の家」を慰問。
- 12・25 平戸口教会が増改築し、新装の聖堂でクリスマス祭を祝う。



《昭和51年》

- 1・1 長崎市民駅伝大会に司祭チームが出場し、37チーム中29位、稲佐カトリック青年会、飽の浦青年会、長崎カトリック合唱団も参加して健闘した。
- 1・2 浦頭教会青年会が離郷青年の「ふるさと新年会」を催し、50余名が参加。
- 1・4 高校生会が佐世保地区の繁華街で愛の基金募金運動をした。
- 1・19 西町教会の役員研修会が長崎黙想の家で行なわれ、30名参加、標語「キリストと共に家庭の輪を強めよう」を話し、新会長に増田和之を選任した。
- 1・25 本原教会が役員研修会をセンターで行ない、下川師、シスター岩崎、井上康宏教区評会長を講師に招く。鯛の浦教会の中野聖家族老人クラブ（中田幸吉会長）の会合で、教会前の荒畑を耕し聖堂に献げる花を栽培することを決めた。
- 1・26 田平教会に壮年会「二十六人会」が発足（15名、会長水谷修）。
- 2・1 カトリック教報 600号発行。
- 2・5 26聖人殉教記念ミサが中町教会で献げられ、1500名参加。
- 2・8～11 クルシリヨ（女子第12回）が長崎黙想の家で行なわれ、43名参加。
- 2・11 教区要理教育研修会（第15回）が行なわれ、特別講師に梶川宏師（マリア会）を招き、テーマ「中学生に生きたみことばを」を研修、150名参加。
- 2・11 純心聖母会で16名の終身誓願式。
- 2・12 海星学園で活動していた汚れなきマリア修道会長崎修道院を閉鎖。
- 2・14 諫早教会が小教区設立44年を記念して「諫早小教区史」発行。
- 2・16 教区司牧評の常任理事会がひらかれ、秋の総会準備として中高生の要理教育、規約1部改訂について検討した。
- 2・22 長崎教区移動信徒対策委員会が新大浦教会で開かれ、12名参集。佐世保地区移住信徒の集いが下神崎教会で催され、40名参加。
- 2・23 上五島地区移住信徒の集いが青方教会で催され、90名参加。
- 2・24 中五島地区移住信徒の集いが桐教会と福見教会で催された。
- 2・25～27 下五島地区移住信徒の集いが福江教会、浦頭教会で催された。
- 3・6 教区要理教師資格認定証授与式（第5回）が行なわれ、2級50名、1級14名に授与された。
- 3・12 プロテスタントの修道会「マリア姉妹会」が来崎し、信仰一致をめざして「映画と話しの集い」を市民会館で催した。

《昭和51年》

- 3・14 青砂浦教会が中高卒者50名を招いてお別れ会を行ない、「社会生活の手引」(教区移動信徒対策委員会刊)をおくった。
- 3・17 青年連協が定例会をひらき役員改選し、会長川原敏行、副会長赤波江和男、岳野美智代を選任した。
- 3・19 村川昌彦師、松永国治師(サレジオ会)が大浦教会で叙階式。
- 3・20~21 使徒職教区評が春の総会をひらき64名参集、「生活による証とともに、ことばによる宣教を」のテーマで討議し、ドワイヤー師(城山)「日本における宣教について」の講話をうけた。分科会では、①1人でできる使徒職、②グループでの使徒職について具体的に研究討議した。
- 3・21 長崎地区婦人連合会が結成式を行ない、会長高巢ミカ、副会長村中昭子、片岡多恵子を選任、教区評メンバーに加わる。
- 3・25 お告げの MARIA 修道院で14名の初誓願式。
- 3・28 深堀政美師(中町)と松本長太郎師(浅子)の司祭銀祝祝賀会。
- 4・1 五島折島と樽見の信徒33戸が青方に集団移転し、折島教会閉鎖。
- 4・4 西町教会のボーイスカウト入隊式(長崎第8団を結団)。
- 4・11 聖 MARIA 学院の教師と父母の会が「新しい学校づくり——現状への挑戦——」のテーマで話し合いを長崎黙想の家で行なう。
- 4・21 ロンバルディ師(共同体練成会やより良き世界の歩み運動)が「明るい社会づくり運動」の宗教部会メンバーと懇談会。
勤労連の年次総会が開かれ「職場でキリストの証人たろう」の生活指針を確認し、行事計画や組織の強化について討議した。
- 4・24 お告げの MARIA 修道会の志願院落成祝別式。
- 4・25 浜崎渡師の銀祝祝賀会が公教神学校で行なわれた。
教区神学校後援会支部長会議が開かれた。
倭町教会が教会設立25周年の記念行事について検討、5月9日母と子のお祝い会、少年ソフトボールチーム編成を考える。
- 4・28 平戸北松地区連合顧問会が第30回定期総会を上神崎教会信愛会館で開き、16教会50名の顧問と司祭9名が参集し、練成会と市民クリスマス開催を決めた。
竹山涼師の銀祝祝賀会が青砂浦教会で行なわれた。
- 4・29 清水佐太郎師の金祝祝賀会が浦上修道院で行なわれた。
- 5・2~5 クルシリヨ(男子第19回)が長崎黙想の家で行なわれ、37名参加。
- 5・4 高谷義光師の銀祝祝賀会が長崎市中島会館で行なわれた。
- 5・7 佐世保地区連合青年会が役員改選し会長浜口知博、副会長梅田昌三郎、畑純子を任命し、行事予定を決めた。

- 5・9 五島希望の灯学園で五島ライオンズクラブ招待運動会が行なわれた。
名古屋市城北橋教会で移住委員会主催の移動信徒第6回歓迎会が催された。
- 5・16 西木場教会が使徒職評議会を開き、神学校援助活動、小教区集会で成人教育をすすめる等を決めた。
子どもの使徒職グループ合同集会（第1回）が神の島教会で開かれ、愛宕町教会子供使徒職会、大浦教会クリストフォロ会、城山教会小羊会、中町教会マリア会、神の島教会マリア会、西町教会マリアナ会の6グループ90名が参集し、子供の世界について話合った。
- 5・18 聖母の騎士会ドナト・ゴシチンスキー師ご逝去。
- 5・23 佐世保地区使徒職連絡協議会が地区信徒大会を市民会館で催し、「顕わす信仰を」をテーマに意見発表した。
また、上智大学桑原万寿太郎教授「人間にとって科学とは何か」の講演があった。1800名参集。
- 5・26 教区広報委員会の企画で、無声映画「日本26聖人」をセンターで上映、22年ぶりに発見された話題の映画とあって満席であった。
- 5・30 深堀教会の新聖堂と司祭館落成祝別式。
田平教会が初の聖母行列を300名の参加者をえて行なう。
- 6・12 キリシタン研究のシュッテ師（イエズス会）が修女連、純心短大で「17世紀はじめの長崎」について講演。
- 6・13 本原教会がマリアの山の聖体行列を聖フランシスコ会カナダ管区長マルシイ師司式で行なう。
青年連協が献血運動をし、238名が協力した。
- 6・17 教区経済委員会が新設され、西田忠師、川原義和師らが任命された。
- 6・27 教区要理教育研修会が行なわれ、里脇大司教が講師、「子供の教育の徹底をめざして」のテーマで研修。
- 7・4 純心聖母会の三ツ山修道院落成祝別式。
- 7・17～18 SVP長崎中央理事会在長崎黙想の家で開き、「小教区のためになる協議会づくり」を討議し、血の通いあう小教区共同体づくりの一端を担うことを申し合わせた。
- 7・18 ミカエル会が西町教会で発会式を行なった。現代の社会問題、特に政治問題についてカトリックの立場から考え、活動していこうと長崎市内の青年たちが結成した。
- 7・20 使徒職教区評の機関誌「使徒職アピール」第3号発行。
「守る信仰から顕わす信仰へ」を訴え、小さい集会を実りあるものにしようと呼びかける。
- 7・21 田口枢機卿が田平教会で浦上師、田村師、中田師の追悼ミサ。
聖和学院コーラス部がオーストラリア13都市で30回の公演のため出発。
- 7・23 教区神学講座の夏期コース開講、69名受講。

《昭和51年》

- 7・25 聖母の騎士会の桜本好美師が本河内教会で叙階式。
- 7・31～8・2 中学生合同練成会が浦頭教会で催された。要理教師の会中学生部門の企画で、城山、三ツ山、神の島、中町、西町、愛宕町の長崎市内6教会と地元浦頭教会の中学生90名が参加、井持浦ルルドや堂崎天主堂巡礼などを行なった。
- 8・1 上中五島地区使徒職評議会が、青方福祉会館で開かれ100余名参集、教区評から井上会長ら4名出席、地区的まとまりの推進などを協議した。新役員に会長戸村実、副会長葛島栄太郎、江口俊夫、生田三徳を選任した。
- 8・8 下五島地区使徒職連絡会議が福江教会で開かれ45名参集、教区評から井上会長、宮崎、大山理事が出席、地区協議会設立の検討と10月聖母大会開催に協力申合せをした。
- 8・9 浦上教会で鎌倉市雪の下教会のグロリア少年合唱団が平和祈念ミサに参加し、10日被爆者のためにチャリティコンサートを市公会堂で開催した。
- 8・11～13 高校生会が教区大会を南山学園で催し140名参加、テーマは「青春の中で」「宗教と人間」「出会い」。
- 8・12 白浜仁吉代議士が「聖大グレゴリオ大十字架騎士章」を叙勲。
- 8・14 城山教会使徒職会主催の「聖母納涼祭」を行なう。
- 8・16～19 クルシリヨ（男子第20回）が浦頭教会平和のぼら保育園で行なわれ、男子21名、女子11名が参加。
- 8・21 五島希望の灯学園で聖母行列とローソク奉獻が行なわれた。
- 8・27 純心聖母会で17名の初誓願と着衣式。
- 8・29 平戸教会信徒会館再建竣工式（9月5日落成式）7月14日焼失し再建した。
- 8・31 平戸北松地区顧問連合会の研修会が国民宿舎田平荘で、発足30周年を記念して開かれ50名参加。大司教「顧問のあり方」、田川師「開かれた教会を表わす信仰」の講話を中心に話し合い、宣言文を採択した。
- 9・7 松本長太郎師が急逝（50才）。
- 9・15 高校生会が課題研究発表会を浦上公民館で行なう、課題は「カトリックと他宗教」、1位滑石教会。
- 9・19 本原教会でアシジの聖フランシスコ帰天750年祭が催され、長崎地区のフランシスカン400余名が参加。
- 9・24 山口愛次郎大司教がフランシスコ病院でご逝去（82才）、浦上教会要理教室で通夜の儀式と連続祈禱。
- 9・27 山口大司教の教区葬、枢機卿以下183名の司教・司祭の共同葬儀ミサが献げられ、会葬者3500名。
- 10・7 レデンプトリスチン修道院で3名の初誓願式。
- 10・9～11 東京「西海友の会」が五日市教会秋川荘で親睦のため合宿。
- 10・17 平戸北松地区使徒職評議会主催の第2回小教区対抗壮年ソフトボール大会が平戸市田助小学校グラウンドで催され15チーム参加、優勝は平戸教会。

- 10・29 聖母の騎士修道女会のシスター中山和子が長崎新聞文化章をうけた。
- 10・31 長崎地区マリア大会が浦上天主堂で催され、司祭60名、信徒1800名が参加し、ロザリオ、奉獻、共同司式ミサが献げられた。説教は松永久次郎師。
神言会熊川重也師が名古屋神言神学院聖堂で叙階式。
佐世保地区マリア大会が聖和女子学院講堂で催され、700名参加、「マリアを通してイエズスへ」「聖母への祈りは天国の道」のタレ幕を飾る。説教は原塚正人師。
上中五島地区マリア大会が鯛の浦ルルドと希望の灯学園グラウンドで催され2000名の聖母行列をし、説教は清川武夫師（聖母の騎士会）。
- 10・31～11・3 クルシリヨ（女子第13回）が長崎黙想の家で行なわれ、40名参加。
- 11・3 純心聖母会シスター江角ヤスが勲3等宝冠章を受章。
- 11・4 教皇庁大使イポリト・ロトリ大司教が故山口大司教の墓参。
- 11・7 下五島地区マリア大会が水の浦港からの海上パレードで始まり久賀、奈留、浦頭から漁船が大漁旗で飾られ37隻参加し、福江大波止ターミナルからは福江教会まで聖母行列をした。2000名参加、説教は田中千代吉師。福江教会ルルド祝別。
- 11・8 皇太子ご夫妻がみさかえの園をご訪問。
- 11・15 レデンプトリスチン長崎修道院から8名のシスターをハイチに派遣。
- 11・18 お告げのマリア修道院で29名の終身誓願式。
- 11・22～23 使徒職教区評が秋の総会をひらき52名出席、役員改選で井上康宏を会長に再選した。この総会で里脇大司教は使徒職教区評の位置づけと果たすべき役割を明確にされ、援助機関とされた。また①ビンセンシオ会的な活動グループの育成、②小地区集会のあり方を中心に協議した。
- 11・24 教区司牧評議会が総会をひらき「小中学生の要理教育をめぐって」のテーマで討議した。
- 12・1 俵町教会が小教区機関誌「輪」を創刊。
- 12・5 青年連協がベトナム難民のために街頭募金。
- 12・7 援助マリア会総会長シスター・アンヌ・マリが支部訪問で来崎。
- 12・8 クリスマスタベの集い（第2回）が長崎市民会館で催され、チャリティ純益金は長崎市内のねたきり老人85名（純毛シャツ）とみさかえの園のベトナム難民におくられた。
- 12・9 イエズス会日本管区長R・ディターズ師が会員の定期視察で来崎。
- 12・18 城山教会が家庭クリスマス・パーティを催し、家庭から持ち寄ったご馳走をわかち合っのパーティを楽しんだ。300名参加。

《昭和51年》

- 12・24 長崎グレゴリオ聖歌保存会が長崎放送NBCの依頼で、大浦天主堂からグレゴリオ聖歌を全国向け放送した。
- 12・25 神の島教会で信者26名が「摂津高槻の城主ジュスト長房こと高山右近」を上演し好評をえた。



《昭和52年》

- 1・1 新春長崎市民マラソンに司祭団チームが参加した(45チーム中32位)。
仲知教会の青年会発足(会長山添秀)。
- 1・2 SVP長崎中央理事会が大浦マリア園の子どもたちの一日里親を実施し、長崎市内4協議会から6世帯の会員が12人の子どもを引きうけた。
- 1・3～4 長崎地区高校生会が街頭募金を駅前、浜町などで行なった。
- 1・7～8 聖マリア学院教職員の第4回練成会がフローレス師・伊藤師(福岡教区)を招いて開かれ「対話と一致」について研修した。
- 1・14 鶴田源次郎師ご逝去。
- 1・15 要理教師の会が第19回要理教育研修会を「視聴覚教材の活用」のテーマで開いた。
滑石教会が成人者のためのミサと立食パーティを開いた。
- 1・16 飽の浦教会が成人式(46名)に聖書をプレゼントした。
城山教会ビンセンシオ会が小長井町にベトナム難民を訪問した。
- 1・23 西町教会が長崎黙想の家で新旧役員研修会を開き、本年度目標「与える愛を育てよう、キリストに於て」を決めた。
江迎教会落成祝別式。
- 1・24 カリタスジャパン担当司祭会議で、四旬節・愛の運動の募金を「国内の心身障害者の援助」にあてると決めた。
- 1・28 森下利一師(南松・若松町出身・横浜教区)ご逝去。
- 2・5 西坂で26聖人殉教記念ミサがささげられ、信徒2000人が参集した。
- 2・11 純心聖母会で15人の終身誓願式。
- 2・13 神の島教会の奉仕グループ(30名)が、出津聖マルコ老人ホームを慰問して聖劇を演じた。
- 2・20 本原教会が役員研修会を長崎黙想の家で開き50名参加、地区集会や家庭での祈りなどを協議した。
- 2・20～28 中高卒県外移動信徒のつどいが、平戸教会をはじめ上五島・青方、下五島各教会、佐世保・下神崎教会などで開かれた。
- 2・21 「日本人司教区設立50周年記念祭」の第1回記念行事委員会が、カトリックセンターで開かれ、荘厳ミサを12月8日午後ささげること、記念誌を発行することを決めた。
- 2・23 カリタスジャパン愛の募金運動はじまる(教区目標300万円、1世帯当200円)
- 3・1 教区現勢統計を教報に掲載(昭和51年12月31日現在の信徒総数72,864人、14,716世帯)。
- 3・10 「長崎県のカトリック教会」(長崎県文化財調査報告書第29集)が県教育委員会から出版された。
- 3・12 松尾貢師(浦上出身・サレジオ会)が東京カテドラル

《昭和52年》

聖マリア大聖堂で叙階式。

- 3・12 教区神学講座第6回卒業式がカトリックセンターで開かれ、1級8名、2級50名が証書を授与された。
- 3・13 青砂ヶ浦教会が中高卒者の激励会を開き、50余名が参集した。
- 3・19 諸岡清美師、山内実師が大浦天主堂で叙階式。
純心聖母会が、ベトナム難民18人を三ツ山の家収容。
- 3・20 山野源太郎師（聖パウロ会、3月12日東京で叙階）が故郷・大佐志教会でミサをささげた。
鹿児島教区創立50周年記念式典が、ザビエル教会で行なわれた。
北九州地区修道女連盟の研修会が純心女子学園講堂で開かれ、50修道院から170名が参加し、「修道者と社会とのかかわり」をテーマに研修した。
- 3・21 信徒使徒職教区評議会が春の総会をカトリックセンターで開き、「福音に生きる」を活動方針にたて、聖書を読む運動を推進することにした。また分担金を1世帯200円（年間）にアップと決めた。
「使徒職アピール」4号発刊。
教区移動信徒対策委員会事務局が県外転出について報告した。（中卒者224名、高卒者196名、転出先の第1は名古屋で163名）。
- 3・25 お告げのマリア修道会で10名の初誓願式。
- 3・27 俵町教会が小教区創立25周年祭を行なった。

- 3・27 城山教会が隣組長の練成会を聖マリア学院体育館で開き、「よりよい隣組の交わりを」をテーマに討議した。
- 3・28 平戸市上神崎の光の園保育園落成式。
- 3・30 使徒職教区評議会理事会が「平和を願う会」（広島教区）と具体的な平和運動について話合った。
- 3・31 浩宮さまが大浦天主堂、26聖人記念館、浦上教会などをご見学。
- 4・1 里脇大司教が「聖書に親しむ」司教教書。
西彼大島町の真砂保育園が開園。
- 4・8 長崎公教神学校に15名、聖ルドビコ神学院に3名、聖母の騎士学園に8名の小神学生が新入学。
- 4・10 城山教会にボーイスカウト、カブスカウトが発団・発隊式（長崎12団）。
- 4・12 お告げのマリア修道会で入会・着衣式。
高谷義光師が聖フランシスコ病院で逝去（57才）。
西ドイツ・シルドベルガー少年少女合唱団が長崎市公会堂で公演し、好評をえた。
- 4・13 シルドベルガー合唱団が三ツ山町恵の丘原爆老人ホームを慰問、佐世保市民会館で公演した。
- 4・14 教区第1回聖書講座が開講され、280名（信徒84名）が受講。
- 4・21 山田音吉先生（マリア会修道士、海星学園理事長）が医大付属病院で逝去。
- 4・29 上五島地区の教え方さん勉強会（第1回）が、青方町

- マリアの宣教者フランシスコ修道院で開かれ24名参加。
- 4・30～5・3 クルシリオ（女子第14回）が長崎黙想の家で開かれ、33名が参加。
- 5・1 北松・平戸地区信徒使徒職評議会が総会を平戸教会で開き、会長に谷山一美を選出、新年度事業として、①聖書研修会（7月）②男女合同クルシリオ（8月）、③各教会対抗体育大会（9月）、④教区小神学校援助物資集収（11月）を決めた。
教区神学校後援会の支部長会議がカトリックセンターで開かれ、昭和51年度後援会費1170万円で前年度より250万円の伸びと報告された。
- 5・3 上五島・希望の灯学園でライオンズクラブ招待運動会が催された。
浦上教会レジオマリエ「天主と人類の母」プレシジウムが1500回目の集会を開いた。（昭和23年6月23日第1回集会以来）。
- 5・6 平戸教会に老人会（65才以上の70名）が発足。
- 5・10 純心女子短大のカトリック学生（38名）が長崎黙想の家で1泊研修会。
- 5・13～15 西町教会で「小教区わかちあいの体験（キリスト共同体ミニ練成会）」をクラークスン師指導で開き、40余名が参加した。
- 5・18 教区移動信徒対策委員会（第25回）がカトリックセンター司牧室で開かれ、「社会生活の手引き」改訂問題と教区内移動の対策などを検討した。
- 5・22 カトリック広報の日、「子供向けテレビCMを考えよう」をテーマに、マスコミ布教を促進。
- 5・23 純心女子短大で聖母行列が行なわれ、学生550名と老人ホームの老人たちが参加。
- 5・28 純心女子中・高校で恒例の聖母行列を行なう。
- 5・29 長崎カトリック合唱団が出津教会で典札奉仕をした。佐世保地区信徒使徒職連絡協議会が総会を三浦町教会で開き、会則の変更と行事計画などを討議し、役員改選で堤辰一を選任した。
- 6・1 宮崎カリタス修道女会が外海町牧野に新修道院の落成祝別式。
- 6・5 滑石教会の信徒らが時津町鷹島に「切支丹殉教の地」の標柱を建てた。
西町教会が長野浩子「愛のコンサート」を長崎市民会館ホールで開いた。
- 6・12 長崎地区連合婦人会が第1回研修会をカトリックセンターで開き360名が参集し、里脇大司教と野原清師の講話、無声映画「日本26聖人」の観映、標語第1位入選「母と子が祈る姿も小さな対話」（深堀教会）の表彰を行なった。
聖和女子学院初代校長シスター・テレサがオーストラリアでご逝去（78才）6月24日同学院で追悼式。
俵町・大野・皆瀬・鳥帽子の4教会合同で三ツ山町の

《昭和52年》

老人ホームを慰問した。

- 6・17 里脇大司教が「墮胎について」教書。
- 6・19 愛宕町教会がノイマン司教列聖の祝賀記念ミサをささげた。
- 6・21～23 教区司祭黙想会がカトリックセンターで開かれた。指導司祭ラプンラト師。
- 6・24 教区司祭6師（竹谷音吉師、竹山勇師、浜口健市師、深堀栄市師、道向栄師、永田静一師）の銀祝祝賀が行なわれた。
- 7・1 平戸教会の老人会「長寿会」が紐差の故マタラ師、故萩原師の墓参に行った。
- 7・4 司祭大神学生親善ソフトボール大会が佐世保市親和銀行グラウンドで催され、司祭30名、大神学生16名が参加した。
- 7・5 上五島地区の教え方さん勉強会（第2回）が青方町で開かれた。
- 7・10 浦上教会壮年会が平戸教会壮年会と交流会を開いた。
- 7・20 城山教会の婦人部60名が、三ツ山老人ホームを奉仕慰問した。
- 7・22 堂崎教会創設100周年記念祭と資料館開館式が行なわれた。
- 7・24 上中五島地区信徒使徒職評議会が定期総会を青方福祉会館で開き、90名が参集。活動目標「福音に生きる」について話合った。
- 7・24 田平教会の信者107名が「先祖の地を訪ねよう」と佐世保市黒島に巡礼した。
- 7・25 教区神学講座（夏期集中コース）が、全国から70名の参加で開講。
- 8・7 下五島地区信徒使徒職協議会が総会を福江信徒会館で開き80名が参集、聖書に親しむための具体策を話合った。
ミカエル会（事務局長川原博行）が、第1回原爆慰霊チャリティ・フォーク・フェスティバルを国際文化会館講堂で催し、400名の観客を集めた。
北松・平戸地区青年ソフトボール大会が平戸高グラウンドで開かれ、13チームが参加し、宝亀チームが優勝した。
- 8・8 北松・平戸地区中学生体育大会が平戸中グラウンドで開かれ、13チームが参加し、ソフトボールとバレーボールを行なった。
- 8・9 浦上教会で原爆33回忌の追悼ミサと、平和公園でタイムツ行列をした。
純心女子学園が「学徒殉難の記録」を英訳して世界29か国に配り、平和を訴えた。
- 8・15 太田尾教会が第1回使徒職大会を真砂保育園で開き、教区評井上康宏会長が講演し、各会代表が意見発表した。
- 8・17 長崎地区教会対抗侍者ソフトボール大会が南山高グラ

- ンドで開かれ、17チームが参加し、香焼チームが優勝した。
- 8・17～20 クルシリオ（男女第22回）が平戸教会で開かれ、39名が参加した。
- 8・17～21 福江教会で聖書講座が開かれ、下五島地区各教会から120余名の聴講者があった。
- 8・20 上五島・希望の灯学園で聖母祭。
- 8・21 長崎地区青年ソフトボール大会が南山高グラウンドで開催され、20チームが参加。下五島チームと桐教会チームも特別参加した。
- 8・22 純心聖母会で7名の初誓願、7名の着衣式。
- 8・23 平田善次師が聖フランシスコ病院でご逝去（89才）。北松・平戸地区教会対抗小学生ソフトボール大会が平戸中グラウンドで開催され8チームが参加。
- 8・24～9・21 教区結婚講座（第15回）開講。
- 8・25 平戸教会に「召命父母の会」が結成された。
- 8・26 お告げのマリア修道会の田平修道院が落成・祝別式。下五島地区教会対抗少年ソフトボール大会が三井楽町民グラウンドで開催され、6チームと神学生チームが参加した。
- 8・26～28 信徒使徒職教区評議会と長崎黙想の家の共催で、「聖書に生きる体験の集い」をひらき、40名が参加した。
- 8・28 勤労連がソフトボール大会を南山高グラウンドで開き、13チームが参加した。
- 8・28 佐世保地区教会対抗ソフトボール第1回大会が親和銀行グラウンドで開催され、16チームが参加し、下神崎チームが優勝した。
- 8・31 仲知教会が教会墓地を造成（総工費1250万円）。
- 9・1 レデンプトリスチン修道院で3名の誓願式。
- 9・3 聖フランシスコ病院修道女会が日本管区を創設し、初代管区長にシスター舞原節子が任命された。
- 9・11 八幡町教会が小教区創設15周年記念式典を行なう。浅子教会で要理教師の会が第20回要理講習会を開き、約60名が参集、「これからの教会」「子どもの宗教教育」をテーマに研修した。
- 9・16 平戸教会が第4回大運動会を教会運動場で開き、約600人が参加した。
- 9・18 平戸教会が敬老会を信徒会館で開催し25人が出席、婦人会のご馳走と余興を楽しんだ。俵町教会でアシジの聖フランシスコ第三会の着衣式が5年ぶりに行なわれ、18人が着衣した。
- 9・20 里脇大司教がシノドス（世界代表司教会議）出席のためローマに出発された。
- 9・23 深堀敏師（浦上出身・福岡教区）が高松教区司教に祝聖された。要理教師の会が第20回要理教育研修会をカシミロ師を招いて開き、「発達段階に応じた要理教育の実際」をテーマに研修した。

《昭和52年》

- 9・25 鹿子前教会で要理教師の会が要理講習会を開き、50余名が参加した。
浦頭教会に老人（65才以上）のシメオン友の会が結成された。
- 9・27 教区司祭ソフトボール大会が佐世保市親和銀行グラウンドで催され、4チームが参加し、県北チームが優勝した。
- 9・28 勤労連が「明日の教会を語る」例会を滑石教会で開き、子どもの塾の問題をとり上げた。
- 10・5 駐日教皇大使イポリト・ロトリ大司教がローマで急逝された。
文化講演会が長崎新聞社主催で開かれ、曾野綾子・大原富枝のカトリック作家が講演した。
- 10・16 諫早教会が「対話の日」を設け、共同体の一致について話し合い、聖書のわかち合いもした。
八幡町教会が東高定時制グラウンドで大運動会を開いた。
太田尾教会と間瀬教会が親善ソフトボール大会をした。
上五島・希望の灯学園のシスター谷中美智子・竹村笑美子・谷中ミサノの3名が、福祉功労者として有川町・町制施行45周年式典で表彰された。
- 10・19 教区移動信徒対策委員会（第26回）がカトリックセンター司牧室で開かれ、「社会生活の手引き」三版発行を決め、各小教区の移動信徒係名簿の整理と係の連絡法について検討した。
- 10・23 本河内教会でロザリオまつり（第7回）が行なわれた。
- 10・23 神の島教会が各種団体幹部の研修会を開き、35名が参加した。
浦上教会がバザー純益金 140万円をベトナム難民救済金としておくれた。
- 10・29 純心女子短大に早坂記念図書館が落成・祝別式。
- 10・29～30 井持浦教会で下五島地区カトリック青年会練成会が開かれ、45名が参加した。
- 10・30 俵町教会で鹿児島教区長糸永司教の司祭叙階25周年を祝賀。
- 11・3～6 クルシリオ（男子第23回）が長崎黙想の家で開かれ、23名が参加した。
- 11・6 青砂浦教会が主任司祭杯親善スポーツ大会を中学グラウンドで催した。
北松・平戸地区教会対抗球技大会（第3回）が、平戸中グラウンドで開かれた。
- 11・8 お告げのマリア修道会のシスター松尾マツエが、児童福祉法設定30周年記念特別表彰で厚生大臣から受彰した。
- 11・13 大佐志教会が第3回運動会を催した。
俵町教会が第3回地区対抗ソフトボール大会を八幡小グラウンドで開いた。
福江教会で下五島地区聖書研修会を開き、約 200人が参加した。
- 11・13～20 聖書週間「聖書を知るとはキリストを知ること

- である」
- 11・14 教区顧問会（司祭）で、邦人司教区創設50周年記念行事を12月8日と決めた。
- 11・20 北松地区連合青年会が文化祭を宝亀小体育館で開き、8教会が演劇、最優秀賞に大佐志教会「4人目の博士」が選ばれた。
- 11・23 信徒使徒職教区評議会が秋の総会をカトリックセンターで開き、「福音に生きる」をテーマに65名が参集、三村誠一師「聖書に親しむ」の講話をうけたのち、聖書を読むことについて」のアンケート集計結果をもとに評議した。また、教区内移動信徒対策について、小教区の係同志の連絡など具体策をたてた。
「使徒職アピール」5号発行。
- 11・25 仲知小教区米山教会の新聖堂が落成・献堂式。
- 11・26 鯛の浦小教区頭ヶ島教会の修復完成式典。
- 12・1 城山教会に正式のバスケットクラブが誕生した。
- 12・2 松永久次郎師が長崎大司教区補佐司教に任命された。その祝聖記念に要理教育研究所が「日本26聖人」のスライドを発行。
- 12・4 青年連協主催の「市民クリスマスの集い」が国際文化会館講堂で開かれ、市民 800人を集めた。
北松・平戸地区信徒使徒職評議会が、公教神学校へ援助物資（米・野菜類）を送った。
- 12・8 邦人司教区創設50周年記念行事が行なわれた。浦上天
主堂で共同司式ミサがささげられたのち、記念式典をカトリックセンターで開き、表彰式もあった。
- 12・8 記念誌「旅する教会」を発刊。中島政利師「福音伝道者の苗床」（長崎公教神学校史）を聖母の騎士社より出版。
- 12・10～18 純心聖母会シスター谷口伸子の個展が県立美術博物館で開かれた。
- 12・11 三ツ山教会が「木場殉教者顕彰の碑」を除幕した。
長崎シスター合唱団員ら60名を里脇大司教が夕食会に招き激励、マネジャー深堀清に感謝状が授与された。
- 12・15 城山教会で「家庭のための対話の集い」が開かれ、30家族が参加した。
- 12・18 純心短大音楽科が創設10周年記念演奏会を市公会堂で開いた。
- 12・21 駐日教皇大使としてマリオ・ピオ・ガスパリ大司教が着任された。
- 12・23 上五島・希望の灯学園が小中学校長や担任教師を招いてクリスマス会を開いた。

《昭和53年》

- 1・3～4 長崎市高校生会が繁華街でベトナム難民救済のための街頭募金をした。
- 1・24 第1回司祭団マラソン大会が福江島で開かれ、マカティ師（城山教会）がトロフィを獲得した。
- 1・25～2・22 教区結婚講座が開かれ、93名が参加した。
- 2・5 長崎大司教区補佐司教・松永久次郎師の司教祝聖式が浦上天主堂で、全国の司教司祭・信徒ら4500人の参列で行なわれた。



あ と が き

戦後三十年間とはいえ教区の歩みを、ただ記憶をたよりにとどめておくのは難しいことですし、不確かで、また、多くの資料もうしなわれてしまいます。

邦人司教区創設五十周年記念をきっかけに長崎教区の信徒の活動をふりかえってみようとこの仕事にかかりました。さいわいなことに教区機関紙「カトリック教報」が昭和二三年に復刊され、一・二の紛失だけでよく保存されていきましたので、それを基礎資料に編年できました。

ですから、この年表は教報のインデックス（索引）の代りにもなり、ある行事について詳しく知りたい方は、一〜二か月後の教報をみれば得ることができます。

しかし、教報に載らなかった教会活動についての情報収集のとぼしさから、きわめて不完全なものの誹りをまぬかれることはできませんし、主任司祭の移動や修道会関係をカットして信徒の活動を中心にしましたから偏った年表になってしまいました。それらの穴埋めは、これからの仕事になりますし、この年表をご利用いただく皆さんの手に委ねたいと思います。

だれかがしておかなくてはいけない仕事ですが、必要に迫られなければ手を初めないのがこの仕事です。また、出版には経済的な問題もからみます。励まし、快よく出版を引継ぎうけてくださった聖母の騎士社の坂谷神父さまに深く感謝いたします。

昭和53年 5月

井上 康宏

Memorandum

—— 著者の紹介 ——

井上 康 宏 (いのうえ・やすひろ)

上智大学経済学部卒

長崎南山高等学校教諭 (社会科)

長崎教区信徒使徒職評議会議長

著書 「バス旅行のための長崎探訪」

長崎教区における
信徒使徒職30年の歩み ¥1,000

昭和53年6月2日 発 行

著者兼
発行者 井 上 康 宏

印刷所 〒850 長崎市本河内町196
聖母の騎士社
(代表者) 浜田盛雄

落丁・乱丁本はおとりかえ致します



聖母の騎士社

定価 1.000円

